

(19) 日本国特許庁(JP)

## (12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6850300号  
(P6850300)

(45) 発行日 令和3年3月31日(2021.3.31)

(24) 登録日 令和3年3月9日(2021.3.9)

(51) Int.Cl.

F 1

C07D 231/12	(2006.01)	C07D 231/12	Z
C07D 231/18	(2006.01)	C07D 231/18	
C07D 231/38	(2006.01)	C07D 231/38	Z
C07D 401/14	(2006.01)	C07D 401/14	
C07D 403/04	(2006.01)	C07D 403/04	C S P

請求項の数 14 (全 124 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2018-543660 (P2018-543660)  
 (86) (22) 出願日 平成29年2月16日 (2017.2.16)  
 (65) 公表番号 特表2019-507149 (P2019-507149A)  
 (43) 公表日 平成31年3月14日 (2019.3.14)  
 (86) 國際出願番号 PCT/EP2017/053488  
 (87) 國際公開番号 WO2017/140771  
 (87) 國際公開日 平成29年8月24日 (2017.8.24)  
 審査請求日 令和2年2月14日 (2020.2.14)  
 (31) 優先権主張番号 16156360.6  
 (32) 優先日 平成28年2月18日 (2016.2.18)  
 (33) 優先権主張国・地域又は機関  
     歐州特許庁 (EP)

(73) 特許権者 300091441  
     シンジエンタ パーティシペーションズ  
     アーゲー  
     スイス国4058 バーゼル、シュバールツ  
     バルトアレー 215  
 (74) 代理人 100094569  
     弁理士 田中 伸一郎  
 (74) 代理人 100088694  
     弁理士 弟子丸 健  
 (74) 代理人 100103610  
     弁理士 ▲吉▼田 和彦  
 (74) 代理人 100084663  
     弁理士 稲田 篤  
 (74) 代理人 100093300  
     弁理士 浅井 賢治

最終頁に続く

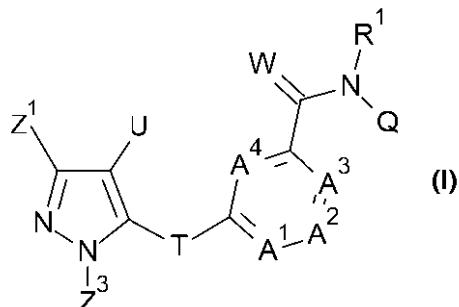
(54) 【発明の名称】殺有害生物活性ピラゾール誘導体

## (57) 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

式(I)

## 【化 1】



(式中、

R¹は、H、C₁-C₆-アルキル、C₂-C₆アルケニル、C₂-C₆アルキニル、C₃-C₇シクロアルキル、C₃-C₇シクロアルキル-C₁-C₃-アルキル、C₁-C₆-アルキルカルボニル、C₁-C₆-アルコキカルボニル、アリール(C₀-C₃)-アルキルおよびヘテロアリール(C₀-C₃)-アルキルから選択され、ここで、C₁-C₆-アルキル、C₃-C₆アルケニル、C₃-C₆アルキニル、C₃-C₇シクロアルキル、C₃-C₇シクロアルキル-C₁-C₃-

20

アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニル、アリール(C<sub>0</sub>~C<sub>3</sub>) - アルキルおよびヘテロアリール(C<sub>0</sub>~C<sub>3</sub>) - アルキルの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、シアノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシおよびC<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

Qは、H、ヒドロキシ、HC(=O)-、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>アルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>アルキニル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>シクロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>シクロアルキル-C<sub>1</sub>~C<sub>3</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>3</sub>-アルキル-C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>シクロアルキル、アリール(C<sub>0</sub>~C<sub>3</sub>) - アルキル、ヘテロアリール(C<sub>0</sub>~C<sub>3</sub>) - アルキル、N-C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルアミノ、N-C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルボニルアミノおよびN,N-ジ(C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル)アミノから選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>アルケニル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>アルキニル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>シクロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>シクロアルキル-C<sub>1</sub>~C<sub>3</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>3</sub>-アルキル-C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>シクロアルキル、アリール(C<sub>0</sub>~C<sub>3</sub>) - アルキル、ヘテロアリール(C<sub>0</sub>~C<sub>3</sub>) - アルキル、N-C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルアミノ、N-C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルボニルアミノおよびN,N-ジ(C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル)アミノの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシル、ニトロ、アミノ、シアノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルバモイル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

Wは、OまたはSであり；

A<sup>1</sup>は、CR<sup>2</sup>またはNであり；

A<sup>2</sup>は、CR<sup>3</sup>またはNであり；

A<sup>3</sup>は、CR<sup>4</sup>またはNであり；

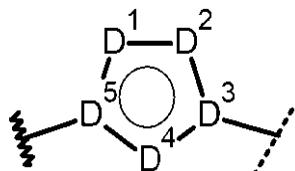
A<sup>4</sup>は、CR<sup>5</sup>またはNであり；

ただし、A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>およびA<sup>4</sup>の3個以下は、Nであり；

R<sup>2</sup>、R<sup>3</sup>、R<sup>4</sup>およびR<sup>5</sup>は、H、ハロゲン、シアノ、ニトロ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、N-C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ-イミノ-C<sub>1</sub>~C<sub>3</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルファニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルフィニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルホニル、N-C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルアミノおよびN,N-ジ-C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルアミノから独立して選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、N-C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ-イミノ-C<sub>1</sub>~C<sub>3</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルファニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルフィニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルホニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルアミノおよびN,N-ジ-C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルアミノの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノ、シアノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルバモイル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

Tは、式

【化2】



(式中、

【化3】



は、ピラゾール基に対する結合を示し；

10

20

30

40

50

D<sup>1</sup>は、C R<sup>6a</sup>、N、N R<sup>6b</sup>、OおよびSから選択され；

D<sup>2</sup>は、C R<sup>7a</sup>、N、N R<sup>7b</sup>、OおよびSから選択され；

D<sup>3</sup>は、CまたはNであり；

D<sup>4</sup>は、C R<sup>8a</sup>、N、N R<sup>8b</sup>およびOから選択され；

D<sup>5</sup>は、CまたはNであり；

ただし、D<sup>1</sup>、D<sup>2</sup>、D<sup>3</sup>、D<sup>4</sup>およびD<sup>5</sup>の少なくとも1つは、N、OおよびSから選択され、かつD<sup>1</sup>、D<sup>2</sup>およびD<sup>4</sup>の1つ以下は、OまたはSであり、かつD<sup>3</sup>およびD<sup>5</sup>の少なくとも1つは、Cであり；

R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>およびR<sup>8a</sup>は、H、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アミノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルファニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルフィニルおよびC<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルホニルから独立して選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルファニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルフィニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルホニルの各々は、無置換であるか、または1~5個のハロゲンで置換されており；

R<sup>6b</sup>、R<sup>7b</sup>およびR<sup>8b</sup>は、HおよびC<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルから独立して選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルの各々は、無置換であるか、または1~5個のハロゲンで置換されている）

の5員ヘテロアリールであり；

Z<sup>1</sup>は、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-ハロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルおよびC<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-ハロシクロアルキルから選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-ハロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルおよびC<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-ハロシクロアルキルの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノ、シアノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルバモイル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

Uは、C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-アルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>3</sub>-アルキニル、-S-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、-S-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、-SO-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、-SO-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、-SO<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、-SO<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、-O-C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-アルケニル、-O-C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルケニル、-NH<sub>2</sub>C<sub>2</sub>N、-SO<sub>2</sub>F、-O-SO<sub>2</sub>-C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-アルキル、-O-SO<sub>2</sub>-C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルキルおよびOHから選択され；

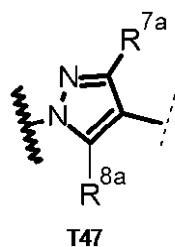
Z<sup>3</sup>は、H、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキル、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>-アルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>-アルキニル、アリールおよびヘテロアリールから選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキル、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>-アルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>-アルキニル、アリールおよびヘテロアリールの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノ、シアノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルバモイル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されている）

の化合物またはその農芸化学的に許容可能な塩もしくはN-オキシド。

### 【請求項2】

Tは、

## 【化4】



であり、式中、

## 【化5】



10

は、前記ピラゾール基に対する結合を示す、請求項1に記載の化合物または塩。

## 【請求項3】

Uは、-OCHF<sub>2</sub>、-OCH<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>、-OCH<sub>3</sub>、-O-シクロプロピル、シクロプロピル、OH、-O-CH=CH<sub>2</sub>、-CH=CH<sub>2</sub>、-C-CH、-S-シクロプロピル、-O-CF=CF<sub>2</sub>、-O-SO<sub>2</sub>-F、-NH-CN、-SO<sub>2</sub>-シクロプロピル、-SO-シクロプロピル、-O-CF<sub>2</sub>-CF<sub>2</sub>H、-OEt、-O-CH<sub>2</sub>-CF<sub>2</sub>H、-O-CF<sub>2</sub>CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>、-O-CF<sub>2</sub>CFHCFCF<sub>3</sub>および-CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>から選択される、請求項1または2に記載の化合物または塩。 20

## 【請求項4】

Uは、-OCHF<sub>2</sub>、-CH=CH<sub>2</sub>および-C-CHから選択される、請求項1または2に記載の化合物または塩。

## 【請求項5】

Uは、-OCHF<sub>2</sub>である、請求項1または2に記載の化合物または塩。

## 【請求項6】

Z<sup>1</sup>は、メチル、エチル、1,1-ジメチルエチル、ジフルオロメチル、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオロメチル、トリフルオロメチル、プロモジクロロメチル、1-フルオロエチル、1-フルオロ-1-メチルエチル、2-フルオロエチル、2,2-ジフルオロエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、1,2,2,2-テトラフルオロエチル、1-クロロ-1,2,2,2-テトラフルオロエチル、2,2,2-トリクロロエチル、2-クロロ-2,2-ジフルオロエチル、1,1-ジフルオロエチル、ペンタフルオロエチル、ヘptaフルオロ-n-プロピル、ヘptaフルオロ-イソプロピル、ノナフルオロ-n-ブチル、シクロプロピル、1-クロロシクロプロピル、1-フルオロシクロプロピル、1-ブロモシクロプロピル、1-シアノ-シクロプロピル、1-トリフルオロメチル-シクロプロピル、シクロブチルおよび2,2-ジフルオロ-1-メチル-シクロプロピルから選択される、請求項1~5のいずれか一項に記載の化合物または塩。 30

## 【請求項7】

40

Z<sup>1</sup>は、-CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>である、請求項1~6のいずれか一項に記載の化合物または塩。

## 【請求項8】

Z<sup>3</sup>は、H、メチル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチル、イソブチル、s-ブチル、t-ブチル、エテニル、1-プロペニル、1-プロピニル、シクロプロピル、1-ブチニル、ジフルオロメチル、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオロメチル、トリフルオロメチル、1-フルオロエチル、1-フルオロ-1-メチルエチル、2-フルオロエチル、2,2-ジフルオロエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、フェニル、2-クロロフェニル、3-クロロフェニル、4-クロロフェニル、2,5-ジクロロフェニル、3,4-ジクロロフェニル、2,6-ジクロロフェニル、2,6-ジクロロ-4-トリフルオロメチルフェニル、3-クロロ-5-トリフルオロメチ

50

ルピリジン - 2 - イル、4 - NO<sub>2</sub> - フェニルおよび3 - クロロ - ピリジン - 2 - イルから選択される、請求項1～7のいずれか一項に記載の化合物または塩。

【請求項9】

Z<sup>3</sup>は、メチルである、請求項1～8のいずれか一項に記載の化合物または塩。

【請求項10】

活性処方成分としての、請求項1～9のいずれか一項に記載の少なくとも1種の化合物またはその農芸化学的に許容可能な塩もしくはN - オキシドと、少なくとも1種の助剤とを含む殺有害生物性組成物。

【請求項11】

1種または複数の他の殺虫的に、殺ダニ的に、殺線虫的におよび／または殺菌的に活性な薬剤をさらに含む、請求項10に記載の組成物。 10

【請求項12】

有害生物を防除するための方法であって、請求項10または11に記載の組成物を前記有害生物またはその環境に施用する工程を含むが、手術または治療によるヒトの身体の治療のための方法および前記ヒトの身体において実施される診断方法を除く、方法。

【請求項13】

有害生物による攻撃から植物繁殖材料を保護するための方法であって、前記繁殖材料または前記繁殖材料が植えられた場所を、請求項10または11に記載の組成物で処理する工程を含む、方法。

【請求項14】 20

被覆植物繁殖材料であって、前記植物繁殖材料のコーティングは、請求項1～9のいずれか一項に記載の化合物を含む、被覆植物繁殖材料。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ピラゾール誘導体、それを調製するためのプロセス、それを調製するための中間体、これらの誘導体を含む殺有害生物性組成物、特に殺虫性、殺ダニ性、殺軟体動物性および殺線虫性組成物、ならびに昆虫、ダニ類、軟体動物および線虫有害生物などの有害生物を駆除および防除するためにそれを使用する方法に関する。

【背景技術】 30

【0002】

意外なことに、一定のピラゾール誘導体は、きわめて強い殺虫特性を有することがここで見出された。この分野における他の化合物は、国際公開第2014/122083号、国際公開第2012/107434号、国際公開第2015/067646号、国際公開第2015/067647号、国際公開第2015/067648号、国際公開第2015/150442号、国際公開第2015/193218号および国際公開第2010/051926号から公知である。

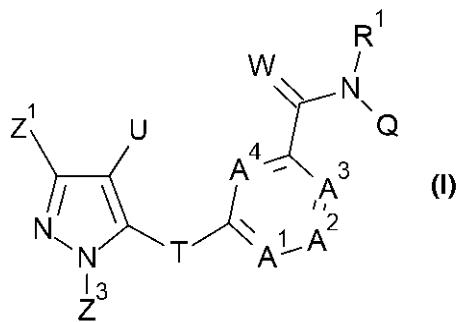
【発明の概要】

【課題を解決するための手段】

【0003】 40

従って、実施形態1に記載のとおり、本発明は、式(I)

【化1】



(式中、

$R^1$ は、H、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_2-C_6$ アルケニル、 $C_2-C_6$ アルキニル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル- $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルキルカルボニル、 $C_1-C_6$ -アルコキシカルボニル、アリール( $C_0-C_3$ ) - アルキルおよびヘテロアリール( $C_0-C_3$ ) - アルキルから選択され、ここで、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_3-C_6$ アルケニル、 $C_3-C_6$ アルキニル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル- $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルキルカルボニル、 $C_1-C_6$ -アルコキシカルボニル、アリール( $C_0-C_3$ ) - アルキルおよびヘテロアリール( $C_0-C_3$ ) - アルキルの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、シアノ、 $C_1-C_6$ -アルコキシおよび $C_1-C_6$ -アルコキシカルボニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

$Q$ は、H、ヒドロキシ、 $H-C(=O)-$ 、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $C_2-C_6$ アルケニル、 $C_2-C_6$ アルキニル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル、 $C_3-C_7$ ヘテロシクロアルキル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル- $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_3$ -アルキル- $C_3-C_7$ シクロアルキル、アリール( $C_0-C_3$ ) - アルキル、ヘテロアリール( $C_0-C_3$ ) - アルキル、 $N-C_1-C_6$ -アルキルアミノ、 $N-C_1-C_6$ -アルキルカルボニルアミノおよび $N,N$ -ジ( $C_1-C_6$ -アルキル)アミノから選択され、ここで、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $C_3-C_6$ アルケニル、 $C_3-C_6$ アルキニル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル、 $C_3-C_7$ ヘテロシクロアルキル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル- $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_3$ -アルキル- $C_3-C_7$ シクロアルキル、アリール( $C_0-C_3$ ) - アルキル、ヘテロアリール( $C_0-C_3$ ) - アルキル、 $N-C_1-C_6$ -アルキルアミノ、 $N-C_1-C_6$ -アルキルカルボニルアミノおよび $N,N$ -ジ( $C_1-C_6$ -アルキル)アミノの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシル、ニトロ、アミノ、シアノ、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $C_1-C_6$ -アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、 $C_1-C_6$ -アルキルカルバモイル、 $C_3-C_6$ -シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

$W$ は、OまたはSであり；

$A^1$ は、 $CR^2$ またはNであり；

$A^2$ は、 $CR^3$ またはNであり；

$A^3$ は、 $CR^4$ またはNであり；

$A^4$ は、 $CR^5$ またはNであり；

ただし、 $A^1$ 、 $A^2$ 、 $A^3$ および $A^4$ の3個以下は、Nであり；

$R^2$ 、 $R^3$ 、 $R^4$ および $R^5$ は、H、ハロゲン、シアノ、ニトロ、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $N-C_1-C_6$ -アルコキシ-イミノ- $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルファニル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルフィニル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルホニル、 $N-C_1-C_6$ -アルキルアミノおよび $N,N$ -ジ- $C_1-C_6$ -アルキルアミノから独立して選択され、ここで、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $N-C_1-C_6$ -アルコキシ-イミノ- $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルファニル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルフィニル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルホニル、 $C_1-C_6$ -アルキルカルバモイル、 $N-C_1-C_6$ -アルキルアミノおよび $N,N$ -ジ- $C_1-C_6$ -アルキルアミノの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロ

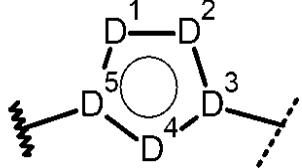
30

40

50

キシ、ニトロ、アミノ、シアノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルバモイル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；Tは、式

【化2】



10

(式中、

【化3】



20

は、ピラゾール基に対する結合を示し；

D<sup>1</sup>は、CR<sup>6a</sup>、N、NR<sup>6b</sup>、OおよびSから選択され；

D<sup>2</sup>は、CR<sup>7a</sup>、N、NR<sup>7b</sup>、OおよびSから選択され；

D<sup>3</sup>は、CまたはNであり；

D<sup>4</sup>は、CR<sup>8a</sup>、N、NR<sup>8b</sup>およびOから選択され；

D<sup>5</sup>は、CまたはNであり；

ただし、D<sup>1</sup>、D<sup>2</sup>、D<sup>3</sup>、D<sup>4</sup>およびD<sup>5</sup>の少なくとも1つは、N、OおよびSから選択され、かつD<sup>1</sup>、D<sup>2</sup>およびD<sup>4</sup>の1つ以下は、OまたはSであり、かつD<sup>3</sup>およびD<sup>5</sup>の少なくとも1つは、Cであり；

R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>およびR<sup>8a</sup>は、H、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アミノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルファニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルフィニルおよびC<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルホニルから独立して選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルファニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルフィニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルホニルの各々は、無置換であるか、または1~5個のハロゲンで置換されており；

R<sup>6b</sup>、R<sup>7b</sup>およびR<sup>8b</sup>は、HおよびC<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルから独立して選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルの各々は、無置換であるか、または1~5個のハロゲンで置換されている)

の5員ヘテロアリールであり；

Z<sup>1</sup>は、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-ハロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルおよびC<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-ハロシクロアルキルから選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-ハロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルおよびC<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-ハロシクロアルキルの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノ、シアノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルバモイル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

Uは、C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-アルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>3</sub>-アルキニル、-S-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、-S-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、-SO-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、-SO-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、-SO<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、-SO<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、-O-C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-アルケニ

40

50

ル、 - O - C<sub>2</sub> ~ C<sub>4</sub> - ハロアルケニル、 - NHCN、 - SO<sub>2</sub>F、 - O - SO<sub>2</sub> - C<sub>1</sub> ~ C<sub>4</sub> - アルキル、 - O - SO<sub>2</sub> - C<sub>1</sub> ~ C<sub>4</sub> - ハロアルキルおよびOHから選択され； Z<sup>3</sup>は、 H、 C<sub>1</sub> ~ C<sub>6</sub> - アルキル、 C<sub>1</sub> ~ C<sub>6</sub> - シクロアルキル、 C<sub>2</sub> ~ C<sub>6</sub> - アルケニル、 C<sub>2</sub> ~ C<sub>6</sub> - アルキニル、アリールおよびヘテロアリールから選択され、ここで、 C<sub>1</sub> ~ C<sub>6</sub> - アルキル、 C<sub>1</sub> ~ C<sub>6</sub> - シクロアルキル、 C<sub>2</sub> ~ C<sub>6</sub> - アルケニル、 C<sub>2</sub> ~ C<sub>6</sub> - アルキニル、アリールおよびヘテロアリールの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノ、シアノ、 C<sub>1</sub> ~ C<sub>6</sub> - アルコキシ、 C<sub>1</sub> ~ C<sub>6</sub> - アルコキカルボニル、ヒドロキシカルボニル、 C<sub>1</sub> ~ C<sub>6</sub> - アルキルカルバモイル、 C<sub>3</sub> ~ C<sub>6</sub> - シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される 1 ~ 5 個の置換基で置換されている) の化合物またはその農芸化学的に許容可能な塩もしくはN - オキシドに関する。 10

## 【0004】

中間体化合物を含む本発明の各化合物に関連する A<sup>1</sup>、 A<sup>2</sup>、 A<sup>3</sup>、 A<sup>4</sup>、 D<sup>1</sup>、 D<sup>2</sup>、 D<sup>3</sup>、 D<sup>4</sup>、 D<sup>5</sup>、 R<sup>1</sup>、 R<sup>2</sup>、 R<sup>3</sup>、 R<sup>4</sup>、 R<sup>5</sup>、 R<sup>6a</sup>、 R<sup>6b</sup>、 R<sup>7a</sup>、 R<sup>7b</sup>、 R<sup>8a</sup>、 R<sup>8b</sup>、 Q、 Z<sup>1</sup>、 U および Z<sup>3</sup> の好ましい値が以下の実施形態 2 ~ 25 に記載されている。

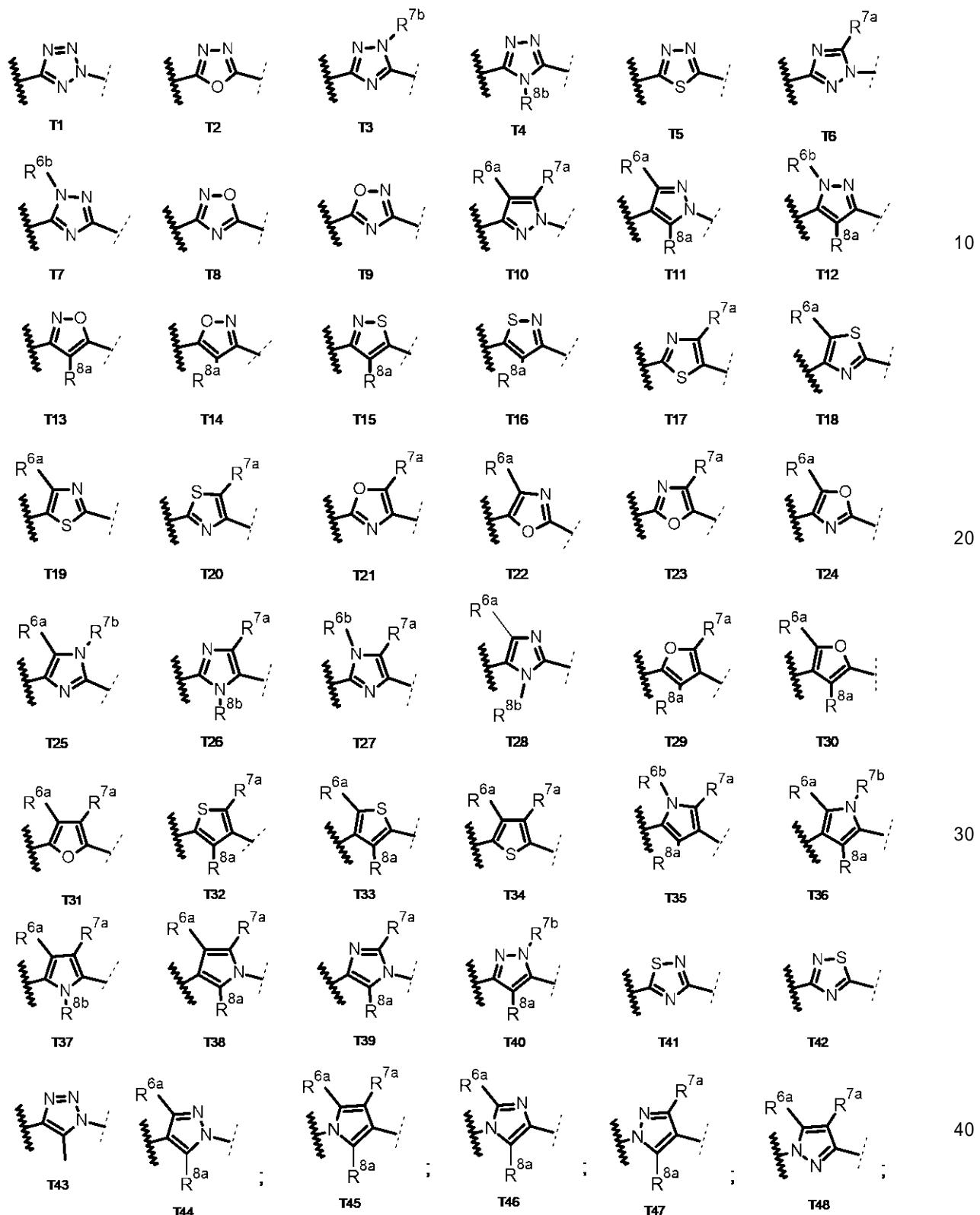
## 【0005】

本明細書において用いられる場合、ある実施形態が「いずれか 1 つに記載の」、例えば「実施形態 1 ~ 23 のいずれか 1 つに記載の」という用語を用いることにより、いくつかの他の実施形態を参照している場合、前記実施形態は、1 および 2 などの整数により示される実施形態のみならず、例えば 23.1、23.2、23.3、23.4、23.20、23.25、23.30 などの小数点を伴う数字により示される実施形態も参照する。 20

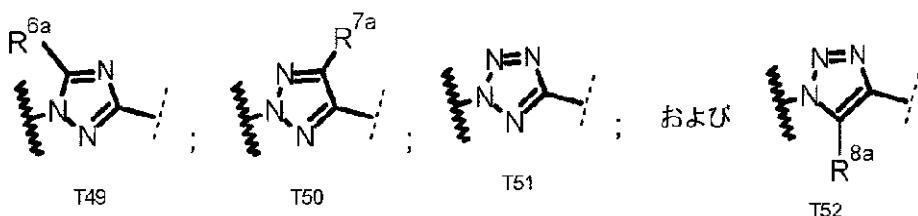
## 【0006】

実施形態 2 : 実施形態 1 に係る化合物または塩であり、ここで、 T は、

【化 4】



【化5】



から選択され、式中、

【化6】



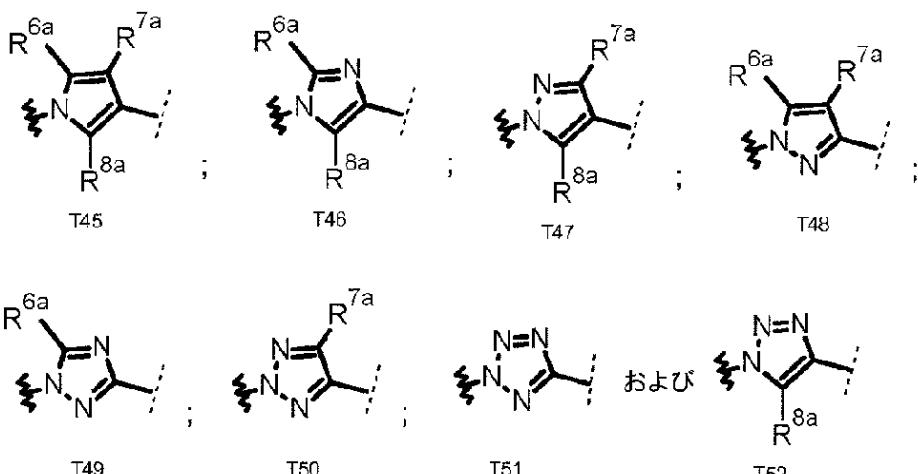
10

は、ピラゾール基に対する結合を示す。

【0007】

実施形態3：実施形態1に係る化合物または塩であり、ここで、Tは、

【化7】



20

から選択され、式中、

【化8】



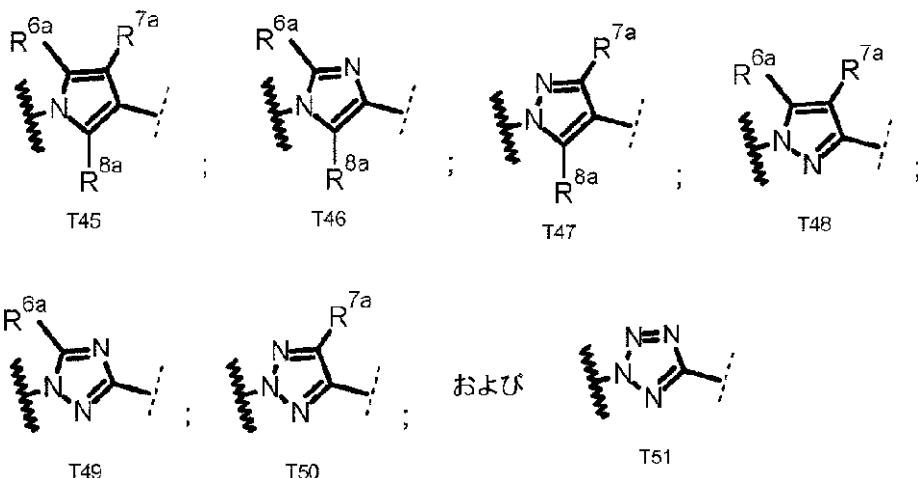
30

は、ピラゾール基に対する結合を示す。

【0008】

実施形態3.1：実施形態1に係る化合物または塩であり、ここで、Tは、

## 【化9】

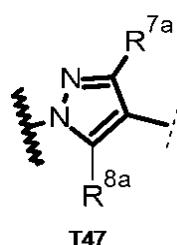


から選択される。

## 【0009】

実施形態4：実施形態1に係る化合物または塩であり、ここで、Tは、

## 【化10】



であり、式中、

## 【化11】



は、ピラゾール基に対する結合を示す。

## 【0010】

実施形態5：実施形態1～4のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、R<sup>1</sup>は、H、メチル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチル、イソブチル、s-ブチル、t-ブチル、プロペニル、プロパルギル、メトキシメチル、エトキシメチル、プロポキシメチル、メチカルボニル、エチカルボニル、n-プロピカルボニル、イソプロピカルボニル、s-ブチカルボニル、t-ブチカルボニル、メトキカルボニル、エトキカルボニル、n-プロポキカルボニル、イソプロポキカルボニル、s-ブトキカルボニル、t-ブトキカルボニル、シアノメチル、2-シアノエチル、ベンジル、4-メトキシベンジル、ピリド-2-イル-メチル、ピリド-3-イル-メチル、ピリド-4-イル-メチルおよび4-クロロ-ピリド-3-イル-メチルから選択される。

## 【0011】

実施形態6：実施形態1～5のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、R<sup>1</sup>は、H、メチル、エチル、n-プロピル、n-プロピカルボニルおよびプロペニルから選択される。

## 【0012】

実施形態6.1：実施形態1～5のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、R<sup>1</sup>は、H、メチルおよびエチルから選択される。

## 【0013】

実施形態7：実施形態1～5のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、R<sup>1</sup>は、Hまたはメチルである。

## 【0014】

実施形態8：実施形態1～7のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Qは、H、ヒドロキシ、HC(=O)-、C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>2</sub>～C<sub>6</sub>アルケニル、C<sub>2</sub>～C<sub>6</sub>アルキニル、C<sub>3</sub>～C<sub>7</sub>シクロアルキル、C<sub>3</sub>～C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>3</sub>～C<sub>7</sub>シクロアルキル-C<sub>1</sub>～C<sub>3</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>～C<sub>3</sub>-アルキル-C<sub>3</sub>～C<sub>7</sub>シクロアルキル、アリール(C<sub>0</sub>～C<sub>3</sub>)～アルキル、ヘテロアリール(C<sub>0</sub>～C<sub>3</sub>)～アルキル、N-C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルキルアミノ、N-C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルキルカルボニルアミノおよびN,N-ジ(C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルキル)アミノから選択され、ここで、C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>2</sub>～C<sub>6</sub>アルケニル、C<sub>2</sub>～C<sub>6</sub>アルキニル、C<sub>3</sub>～C<sub>7</sub>シクロアルキル、C<sub>3</sub>～C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>3</sub>～C<sub>7</sub>シクロアルキル-C<sub>1</sub>～C<sub>3</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>～C<sub>3</sub>-アルキル-C<sub>3</sub>～C<sub>7</sub>シクロアルキル、アリール(C<sub>0</sub>～C<sub>3</sub>)～アルキル、ヘテロアリール(C<sub>0</sub>～C<sub>3</sub>)～アルキル、N-C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルキルアミノ、N-C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルキルカルボニルアミノおよびN,N-ジ(C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルキル)アミノの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシル、ニトロ、アミノ、シアノ、C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>-アルキルカルバモイル、C<sub>3</sub>～C<sub>6</sub>-シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1～5個の置換基で置換されている。 20

## 【0015】

実施形態9：実施形態1～8のいずれか1つに記載の化合物または塩であり、ここで、Qは、H、メチル、エチル、n-プロピル、1-メチルエチル、1,1-ジメチルエチル、1-メチルプロピル、n-ブチル、2-メチルプロピル、2-メチルブチル、ヒドロキシエチル、2-ヒドロキシプロピル、シアノメチル、2-シアノエチル、2-フルオロエチル、2,2-ジフルオロエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、1-トリフルオロメチルエチル、2,2-ジフルオロプロピル、3,3,3-トリフルオロプロピル、2,2-ジメチル-3-フルオロプロピル、シクロプロピル、1-シアノ-シクロプロピル、1-メトキシカルボニル-シクロプロピル、1-(N-メチルカルバモイル)シクロプロピル、1-カルバモイル-シクロプロピル、1-カルバモチオイル-シクロプロピル、1-(N-シクロプロピルカルバモイル)シクロプロピル、シクロプロピル-メチル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、1-シクロプロピルエチル、ビス(シクロプロピル)メチル、2,2-ジメチルシクロプロピル-メチル、2-フェニルシクロプロピル、2,2-ジクロロシクロプロピル、トランス-2-クロロシクロプロピル、시스-2-クロロシクロプロピル、2,2-ジフルオロシクロプロピル、トランス-2-フルオロシクロプロピル、시스-2-フルオロシクロプロピル、トランス-4-ヒドロキシシクロヘキシル、4-トリフルオロメチルシクロヘキシル、プロブ-2-エニル、2-メチルプロブ-2-エニル、プロブ-2-イニル、1,1-ジメチルブタ-2-イニル、3-クロロ-プロブ-2-エニル、3-フルオロ-プロブ-2-エニル、3,3-ジクロロ-プロブ-2-エニル、3,3-ジクロロ-1,1-ジメチルプロブ-2-エニル、オキセタン-3-イル、チエタン-3-イル、1-オキシド-チエタン-3-イル、1,1-ジオキシド-チエタン-3-イル、イソキサゾール-3-イルメチル、1,2,4-トリアゾール-3-イルメチル、3-メチルオキセタン-3-イルメチル、ベンジル、2,6-ジフルオロフェニルメチル、3-フルオロフェニルメチル、2-フルオロフェニルメチル、2,5-ジフルオロフェニルメチル、1-フェニルエチル、4-クロロフェニルエチル、2-トリフルオロメチルフェニルエチル、1-ピリジン-2-イルエチル、ピリジン-2-イルメチル、5-フルオロピリジン-2-イルメチル、(6-クロロ-ピリジン-3-イル)メチル、ピリミジン-2-イルメチル、メトキシ、2-エトキシエチル、2-メトキシエチル、2-(メチルスルファニル)エチル、1-メチル-2-(エチルスルファニル)エチル、2-メチル-1-(メチルスルファニル)プロパン-2-イル、メトキシカ 40

ルボニル、メトキシカルボニルメチル、 $\text{NH}_2$ 、N - エチルアミノ、N - アリルアミノ、  
 N , N - ジメチルアミノ、N , N - ジエチルアミノ、2 - チエニルメチル、イソプロピル  
 、イソブチル、メチルスルホニル、メチルスルフィニル、3 - (メチルスルファニル) -  
 シクロブチル、2 - オキソ - 2 [ (2 , 2 , 2) - トリフルオロエチル] アミノ] エチル  
 、1 - (C<sub>F</sub><sub>3</sub>) シクロプロピル、2 - メチルシクロプロピル、1 , 1 , 1 - トリフルオ  
 ロプロパン - 2 - イル、ブタ - 2 , 3 - ジエン - 1 - イル、3 - クロロプロブ - 2 - エン  
 - 1 - イル、3 - シアノチエンタン - 3 - イル、3 - (メチルスルホニル) シクロブチル  
 、4 - フルオロフェニル、2 - [(メチルスルフィニル) メチル] シクロブチル、3 - メ  
 チルブタン - 2 - イル、2 - (メチルスルホニル) シクロブチル、2 - (ジメチルアミノ  
 ) エチルおよび2 - メトキシエチルから選択され；または

10

Qは、フェニル、ナフチル、ピリダジン、ピラジン、ピリミジン、トリアジン、ピリジン  
 、ピラゾール、チアゾールイソチアゾール、オキサゾール、イソオキサゾール、トリアゾ  
 ル、イミダゾール、フラン、チオフェン、ピロール、オキサジアゾール、チアジアゾ  
 ル、テトラゾールおよびテトラヒドロフランから選択され、その各々は、無置換であるか  
 、またはVから独立して選択される1 ~ 4個の置換基で置換されており；

Vは、フルオロ、クロロ、ブロモ、ヨード、シアノ、ニトロ、メチル、エチル、ジフルオ  
 ロメチル、ヒドロキシル、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオ  
 ロメチル、トリフルオロメチル、1 - フルオロエチル、2 - フルオロエチル、2 , 2 - ジ  
 フルオロエチル、2 , 2 , 2 - トリフルオロエチル、1 , 2 , 2 , 2 - テトラフルオロエ  
 チル、1 - クロロ - 1 , 2 , 2 , 2 - テトラフルオロエチル、2 , 2 , 2 - トリクロロエ  
 チル、2 - クロロ - 2 , 2 - ジフルオロエチル、1 , 1 - ジフルオロエチル、ペンタフル  
 オロエチルヘプタフルオロ - n - プロピル、ヘプタフルオロ - イソプロピル、ノナフルオ  
 ロ - n - プチル、シクロプロピル、シクロブチル、メトキシ、エトキシ、n - プロポキシ  
 、1 - メチルエトキシ、フルオロメトキシ、ジフルオロメトキシ、クロロ - ジフルオロメ  
 トキシ、ジクロロ - フルオロメトキシ、トリフルオロメトキシ、2 , 2 , 2 - トリフルオ  
 ロエトキシ、2 - クロロ - 2 , 2 - ジフルオロエトキシ、ペンタフルオロエトキシ、N -  
 メトキシイミノメチル、1 - (N - メトキシイミノ) - エチル、メチルスルファニル、メ  
 チルスルホニル、メチルスルフィニル、トリフルオロメチルスルホニル、トリフルオロメ  
 チルスルフィニル、トリフルオロメチルスルファニルおよびN , N - ジメチルアミノから  
 選択される。

20

## 【0016】

実施形態10：実施形態1 ~ 9のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、  
 Qは、1 - シアノ - シクロプロピル、ベンジル、シクロプロピル、2 - チエニルメチル、  
 カルバモチオイルシクロプロピル、ピリド - 4 - イル、2 , 2 , 2 - トリフルオルエチル  
 、メチルスルホニル、チエタン - 3 - イルおよび1 - カルバモイルシクロプロピルから選  
 択される。

30

## 【0017】

実施形態10 . 1：実施形態1 ~ 9のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Qは、1 - シアノ - シクロプロピル、ベンジルおよびシクロプロピルから選択される  
 。

40

## 【0018】

実施形態11：実施形態1 ~ 10のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Wは、Oである。

## 【0019】

実施形態12：実施形態1 ~ 11のいずれか1つに記載の化合物または塩であり、ここで、

A<sup>1</sup>は、CR<sup>2</sup>またはNであり；

A<sup>2</sup>は、CR<sup>3</sup>またはNであり；

A<sup>3</sup>は、CR<sup>4</sup>またはNであり；

A<sup>4</sup>は、CR<sup>5</sup>またはNであり；

50

ただし、A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>およびA<sup>4</sup>の3つ以下は、Nであり；

R<sup>2</sup>およびR<sup>5</sup>は、H、メチル、メトキシ、フルオロおよびクロロから独立して選択され；R<sup>3</sup>およびR<sup>4</sup>は、H、フルオロ、クロロ、プロモ、ヨード、シアノ、ニトロ、メチル、エチル、フルオロメチル、ジフルオロメチル、クロロジフルオロメチル、トリフルオロメチル、2,2,2-トリフルオロエチル、メトキシ、エトキシ、n-プロポキシ、1-メチルエトキシ、フルオロメトキシ、ジフルオロメトキシ、クロロ-ジフルオロメトキシ、ジクロロ-フルオロメトキシ、トリフルオロメトキシ、2,2,2-トリフルオロエトキシ、2-クロロ-2,2-ジフルオロエトキシ、ペンタフルオロエトキシ、N-メトキシイミノメチル、1-(N-メトキシイミノ)-エチル、メチルスルファニル、トリフルオロメチルスルファニル、メチルスルホニル、メチルスルフィニル、トリフルオロメチルスルホニルおよびトリフルオロメチルスルフィニルから独立して選択される。

#### 【0020】

実施形態13：実施形態1～12のいずれか1つに記載の化合物または塩であり、ここで、

A<sup>1</sup>およびA<sup>4</sup>は、CHであり；

A<sup>2</sup>は、CH、NまたはCFであり；

A<sup>3</sup>は、CN、CFまたはCClである。

#### 【0021】

実施形態13.1：実施形態1～12のいずれか1つに記載の化合物または塩であり、ここで、

A<sup>1</sup>は、CHまたはCFであり；

A<sup>2</sup>は、CHまたはNであり；

A<sup>3</sup>は、CCNまたはCClであり、

A<sup>4</sup>は、CHである。

#### 【0022】

実施形態14：実施形態1～13のいずれか1つに記載の化合物または塩であり、ここで、

R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>およびR<sup>8a</sup>は、H、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アミノ、メチル、エチル、ブロピル、1-メチルエチル、t-ブチル、トリフルオロメチル、ジフルオロメチル、メトキシ、エトキシ、トリフルオロメトキシ、2,2-ジフルオロエトキシ、2,2,2-トリフルオロエトキシ、メチルカルボニル、エチルカルボニル、トリフルオロメチルカルボニル、メチルスルファニル、メチルスルフィニル、メチルスルホニル、トリフルオロメチルスルホニル、トリフルオロメチルスルファニルおよびトリフルオロメチルスルフィニルから独立して選択され；

R<sup>6b</sup>、R<sup>7b</sup>およびR<sup>8b</sup>は、Hまたはメチルから独立して選択される。

#### 【0023】

実施形態15：実施形態1～14のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、

R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>およびR<sup>8a</sup>は、H、F、メチルおよびトリフルオロメトキシから独立して選択され；

R<sup>6b</sup>、R<sup>7b</sup>およびR<sup>8b</sup>は、Hおよびメチルから独立して選択される。

#### 【0024】

実施形態15.1：実施形態1～14のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>、R<sup>8a</sup>、R<sup>6b</sup>、R<sup>7b</sup>およびR<sup>8b</sup>は、Hである。

#### 【0025】

実施形態16：実施形態1～15のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Z<sup>1</sup>は、メチル、エチル、1,1-ジメチルエチル、ジフルオロメチル、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオロメチル、トリフルオロメチル、プロモジクロロメチル、1-フルオロエチル、1-フルオロ-1-メチルエチル、2-フルオロエチル、2,2-ジフルオロエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、1,2,2,2-

10

20

30

40

50

- テトラフルオロエチル、1 - クロロ - 1 , 2 , 2 , 2 - テトラフルオロエチル、2 , 2 , 2 - トリクロロエチル、2 - クロロ - 2 , 2 - ジフルオロエチル、1 , 1 - ジフルオロエチル、ペンタフルオロエチル、ヘptaフルオロ - n - プロピル、ヘptaフルオロ - イソプロピル、ノナフルオロ - n - ブチル、シクロプロピル、1 - クロロシクロプロピル、1 - フルオロシクロプロピル、1 - プロモシクロプロピル、1 - シアノ - シクロプロピル、1 - トリフルオロメチル - シクロプロピル、シクロブチルおよび2 , 2 - ジフルオロ - 1 - メチル - シクロプロピルから選択される。

#### 【0026】

実施形態17：実施形態1～15のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Z<sup>1</sup>は、-CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>である。

10

#### 【0027】

実施形態18：実施形態1～17のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Uは、C<sub>1～3</sub>-ハロアルコキシおよびC<sub>2～4</sub>-アルケニルから選択される。

#### 【0028】

実施形態18.1：実施形態1～17のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Uは、C<sub>1～4</sub>-アルコキシ、C<sub>1～4</sub>-ハロアルコキシ、C<sub>3～5</sub>-シクロアルコキシ、C<sub>3～5</sub>-シクロアルキル、C<sub>2～4</sub>-アルケニル、C<sub>2～4</sub>-ハロアルケニル、C<sub>2～3</sub>-アルキニル、-S-C<sub>3～5</sub>-シクロアルキル、-SO-C<sub>3～5</sub>-シクロアルキル、-SO<sub>2</sub>-C<sub>3～5</sub>-シクロアルキル、-O-C<sub>2～4</sub>-アルケニル、-O-C<sub>2～4</sub>-ハロアルケニル、-NHCN、-SO<sub>2</sub>FおよびOHから選択される。

20

#### 【0029】

実施形態19：実施形態1～17のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Uは、-OCHF<sub>2</sub>、-OCH<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>、-OCH<sub>3</sub>、-O-シクロプロピル、シクロプロピル、OH、-O-CH=CH<sub>2</sub>、-CH=CH<sub>2</sub>、-C≡CH、-S-シクロプロピル、-O-CF=CF<sub>2</sub>、-O-SO<sub>2</sub>-F、-NHCN、-SO<sub>2</sub>-シクロプロピル、-SO-シクロプロピル、-O-CF<sub>2</sub>-CF<sub>2</sub>H、-OEt、-O-CH<sub>2</sub>-CF<sub>2</sub>H、-O-CF<sub>2</sub>CF<sub>2</sub>C<sub>2</sub>F<sub>3</sub>、-O-CF<sub>2</sub>CFHCF<sub>3</sub>および-CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>から選択される。

#### 【0030】

実施形態20：実施形態1～17のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Uは、-OCHF<sub>2</sub>、-CH=CH<sub>2</sub>および-C≡CH、特に-OCHF<sub>2</sub>から選択される。

30

#### 【0031】

実施形態21：実施形態1～20のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Z<sup>3</sup>は、H、メチル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチル、イソブチル、s-ブチル、t-ブチル、エテニル、1-プロペニル、シクロプロピル、1-プロピニル、1-ブチニル、ジフルオロメチル、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオロメチル、トリフルオロメチル、1-フルオロエチル、1フルオロ - 1 - メチルエチル、2 - フルオロエチル、2 , 2 - ジフルオロエチル、2 , 2 , 2 - トリフルオロエチル、フェニル、2 - クロロフェニル、3 - クロロフェニル、4 - クロロフェニル、2 , 5 - ジクロロフェニル、3 , 4 - ジクロロフェニル、2 , 6 - ジクロロフェニル、2 , 6 - ジクロロ - 4 - トリフルオロメチルフェニル、3 - クロロ - 5 - トリフルオロメチルピリジン - 2 - イル、4 - NO<sub>2</sub> - フェニルおよび3 - クロロ - ピリジン - 2 - イルから選択される。

40

#### 【0032】

実施形態22：実施形態1～20のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、Z<sup>3</sup>は、メチルである。

#### 【0033】

実施形態23：実施形態1～4のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、R<sup>1</sup>は、Hであり；

Qは、1 - シアノ - シクロプロピル、ベンジル、シクロプロピル、2 - チエニルメチル、

50

ルバモチオイルシクロプロピル、ピリド-4-イル、2,2,2-トリフルオルエチル、メチルスルホニル、チエタン-3-イルおよび1-カルバモイルシクロプロピルから選択され；

Wは、Oであり；

A<sup>1</sup>は、CR<sup>2</sup>またはNであり；

A<sup>2</sup>は、CR<sup>3</sup>またはNであり；

A<sup>3</sup>は、CR<sup>4</sup>またはNであり；

A<sup>4</sup>は、CR<sup>5</sup>またはNであり；

ただし、A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>およびA<sup>4</sup>の3個以下は、Nであり；

R<sup>2</sup>およびR<sup>5</sup>は、H、メチル、メトキシ、フルオロおよびクロロから独立して選択され；

10

R<sup>3</sup>およびR<sup>4</sup>は、H、フルオロ、クロロ、プロモ、ヨード、シアノ、ニトロ、メチル、エチル、フルオロメチル、ジフルオロメチル、クロロジフルオロメチル、トリフルオロメチル、2,2,2-トリフルオロエチル、メトキシ、エトキシ、n-プロポキシ、1-メチルエトキシ、フルオロメトキシ、ジフルオロメトキシ、クロロ-ジフルオロメトキシ、ジクロロ-フルオロメトキシ、トリフルオロメトキシ、2,2,2-トリフルオロエトキシ、2-クロロ-2,2-ジフルオロエトキシ、ペンタフルオロエトキシ、N-メトキシイミノメチル、1-(N-メトキシイミノ)-エチル、メチルスルファニル、トリフルオロメチルスルファニル、メチルスルホニル、メチルスルフィニル、トリフルオロメチルスルホニルおよびトリフルオロメチルスルフィニルから独立して選択され；

Z<sup>1</sup>は、メチル、エチル、1,1-ジメチルエチル、ジフルオロメチル、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオロメチル、トリフルオロメチル、プロモジクロロメチル、1-フルオロエチル、1-フルオロ-1-メチルエチル、2-フルオロエチル、2,2-ジフルオロエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、1,2,2,2-テトラフルオロエチル、1-クロロ-1,2,2,2-テトラフルオロエチル、2,2,2-トリクロロエチル、2-クロロ-2,2-ジフルオロエチル、1,1-ジフルオロエチル、ペンタフルオロエチル、ヘptaフルオロ-n-プロピル、ヘptaフルオロ-イソブロピル、ノナフルオロ-n-ブチル、シクロプロピル、1-クロロシクロプロピル、1-フルオロシクロプロピル、1-ブロモシクロプロピル、1-シアノ-シクロプロピル、1-トリフルオロメチル-シクロプロピル、シクロブチルおよび2,2-ジフルオロ-1-メチル-シクロプロピルから選択され；

20

Uは、-OCHF<sub>2</sub>、-OCH<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>、-OCH<sub>3</sub>、-O-シクロプロピル、シクロプロピル、OH、-O-CH=CH<sub>2</sub>、-CH=CH<sub>2</sub>、-C(=O)CH<sub>3</sub>、-S-シクロプロピル、-O-CF=CF<sub>2</sub>、-O-SO<sub>2</sub>-F、-NH-CN、-SO<sub>2</sub>-シクロプロピル、-SO-シクロプロピル、-O-CF<sub>2</sub>-CF<sub>2</sub>H、-OEt、-O-CH<sub>2</sub>-CF<sub>2</sub>H、-O-CF<sub>2</sub>CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>、-O-CF<sub>2</sub>CFHCF<sub>3</sub>および-CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>から選択され；

30

Z<sup>3</sup>は、H、メチル、エチル、n-ブロピル、イソブロピル、n-ブチル、イソブチル、S-ブチル、t-ブチル、エテニル、1-プロペニル、1-プロピニル、シクロプロピル、1-ブチニル、ジフルオロメチル、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオロメチル、トリフルオロメチル、1-フルオロエチル、1-フルオロ-1-メチルエチル、2-フルオロエチル、2,2-ジフルオロエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、フェニル、2-クロロフェニル、3-クロロフェニル、4-クロロフェニル、2,5-ジクロロフェニル、3,4-ジクロロフェニル、2,6-ジクロロフェニル、2,6-ジクロロ-4-トリフルオロメチルフェニル、3-クロロ-5-トリフルオロメチルピリジン-2-イル、4-NO<sub>2</sub>-フェニルおよび3-クロロ-ピリジン-2-イルから選択される。

40

#### 【0034】

実施形態24：実施形態1～4のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで、

R<sup>1</sup>は、Hであり；

Qは、1-シアノ-シクロプロピル、ベンジル、シクロプロピル、2-チエニルメチル、カルバモチオイルシクロプロピル、ピリド-4-イル、2,2,2-トリフルオロエチル

50

、メチルスルホニル、チエタン - 3 - イルおよび 1 - カルバモイルシクロプロピルから選択され；

Wは、Oであり；

A<sup>1</sup>は、CR<sup>2</sup>またはNであり；

A<sup>2</sup>は、CR<sup>3</sup>またはNであり；

A<sup>3</sup>は、CR<sup>4</sup>またはNであり；

A<sup>4</sup>は、CR<sup>5</sup>またはNであり；

ただし、A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>およびA<sup>4</sup>の3個以下は、Nであり；

R<sup>2</sup>およびR<sup>5</sup>は、H、メチル、フルオロおよびクロロから独立して選択され；

R<sup>3</sup>およびR<sup>4</sup>は、H、フルオロ、クロロ、プロモ、ヨード、シアノ、ニトロ、メチル、エチル、フルオロメチル、ジフルオロメチル、クロロジフルオロメチル、トリフルオロメチル、2,2,2-トリフルオロエチル、メトキシ、エトキシ、n-プロポキシ、1-メチルエトキシ、フルオロメトキシ、ジフルオロメトキシ、クロロ-ジフルオロメトキシ、ジクロロ-フルオロメトキシ、トリフルオロメトキシ、2,2,2-トリフルオロエトキシ、2-クロロ-2,2-ジフルオロエトキシ、ペンタフルオロエトキシ、N-メトキシイミノメチル、1-(N-メトキシイミノ)-エチル、メチルスルファニル、トリフルオロメチルスルファニル、メチルスルホニル、メチルスルフィニル、トリフルオロメチルスルホニルおよびトリフルオロメチルスルフィニルから独立して選択され；

Z<sup>1</sup>は、-CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>であり；

Uは、-OCHF<sub>2</sub>、-CH=CH<sub>2</sub>および-C≡CH、特に-OCHF<sub>2</sub>から選択され；

Z<sup>3</sup>は、メチルである。

### 【0035】

実施形態25：実施形態1～24のいずれか1つに係る化合物または塩であり、ここで

、R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>およびR<sup>8a</sup>は、H、メチルおよびトリフルオロメトキシから独立して選択され；

R<sup>6b</sup>、R<sup>7b</sup>およびR<sup>8b</sup>は、Hおよびメチルから独立して選択される。

R<sup>1</sup>は、Hであり；

Qは、1-シアノ-シクロプロピル、ベンジル、シクロプロピル、2-チエニルメチル、カルバモチオイルシクロプロピル、ピリド-4-イル、2,2,2-トリフルオルエチル、メチルスルホニル、チエタン-3-イルおよび1-カルバモイルシクロプロピルから選択され；

Wは、Oであり；

A<sup>1</sup>およびA<sup>4</sup>は、CHであり；

A<sup>2</sup>は、N、CHまたはCFであり；

A<sup>3</sup>は、CH、CFまたはCClであり；

Z<sup>1</sup>は、-CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>であり；

Uは、-OCHF<sub>2</sub>、-CH=CH<sub>2</sub>および-C≡CH、特に-OCHF<sub>2</sub>から選択され；

Z<sup>3</sup>は、メチルである。

### 【0036】

実施形態25.1：以下から選択される、実施形態1に係る化合物または塩である。

### 【0037】

10

20

30

40

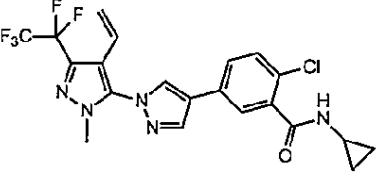
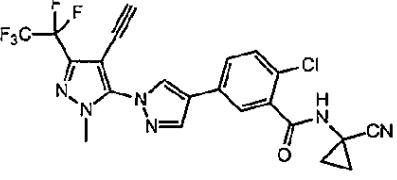
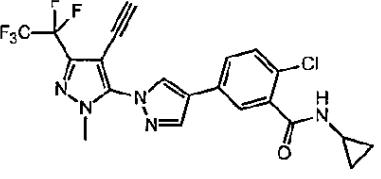
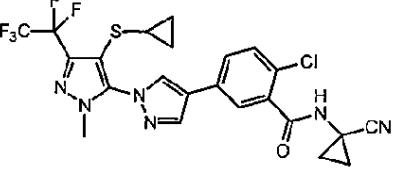
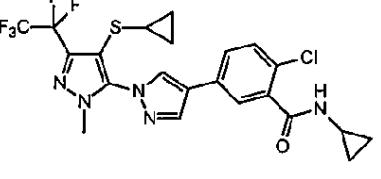
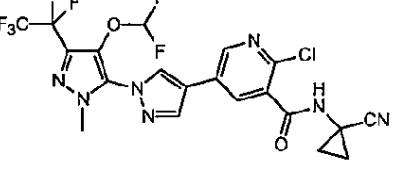
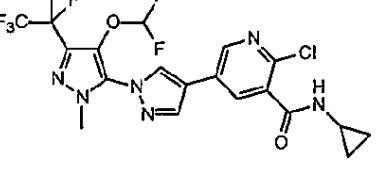
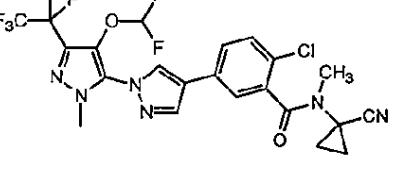
【表 1 - 1】

1		
2		10
3		20
4		
5		30
6		
7		40

【表 1 - 2】

8		
9		10
10		
11		20
12		
13		30
14		
15		40

【表 1 - 3】

16		
17		10
18		
19		20
20		
21		30
22		40
23		

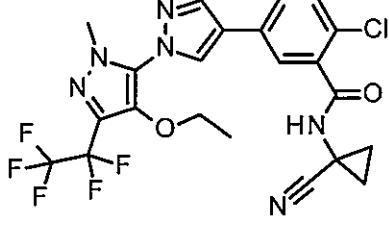
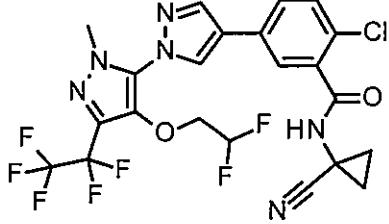
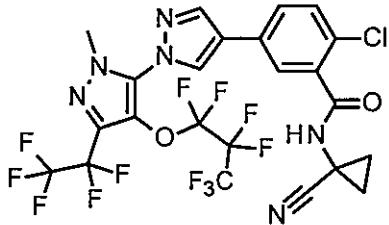
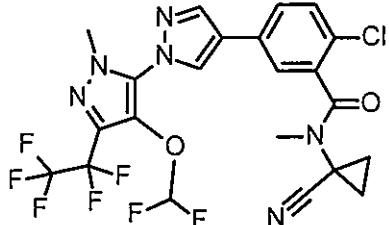
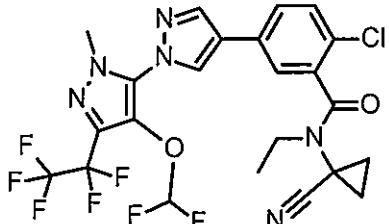
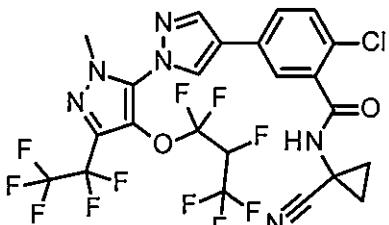
【表 1 - 4】

24		
25		10
26		20
27		
28		30
29		40
30		

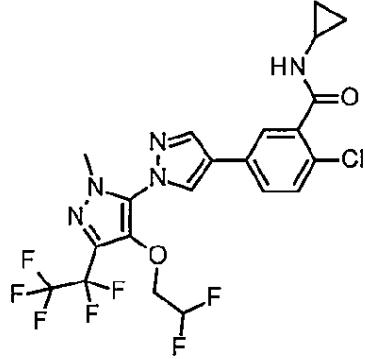
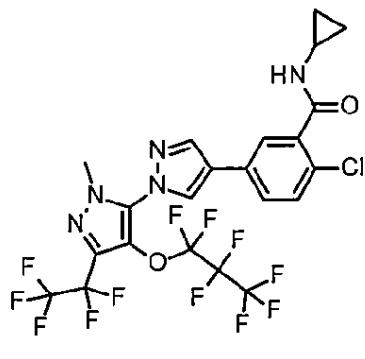
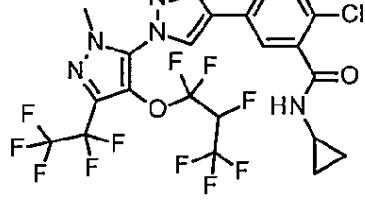
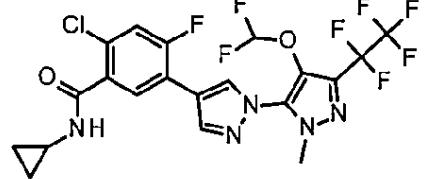
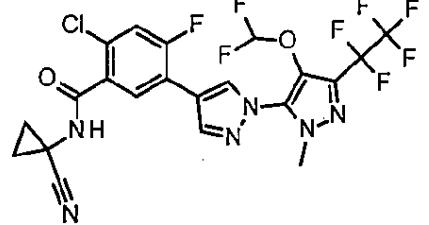
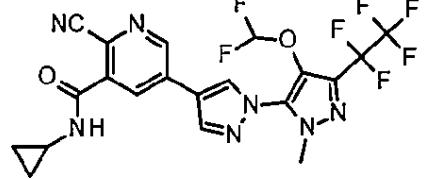
【表 1 - 5】

31		
32		10
33		20
34		
35		30
36		
37		40

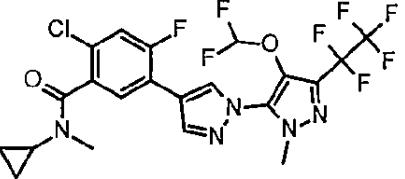
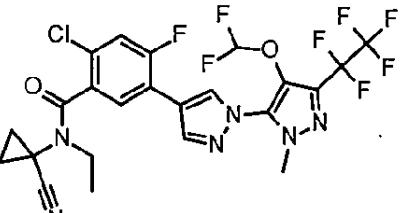
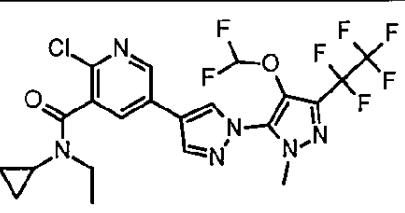
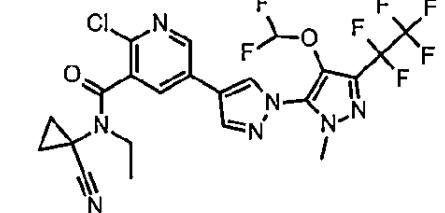
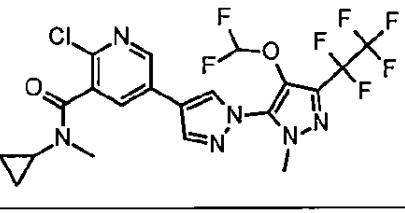
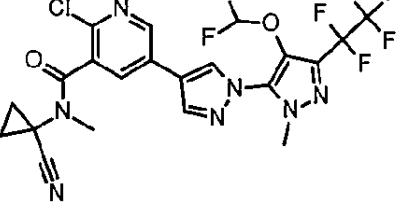
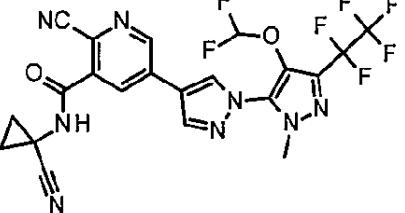
【表 1 - 6】

38		
39		10
40		20
41		30
42		
43		40

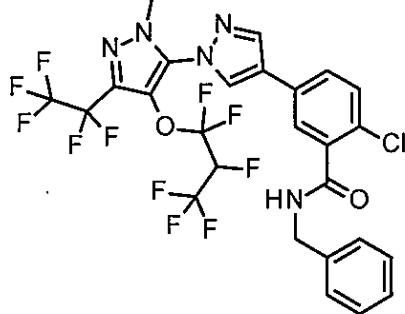
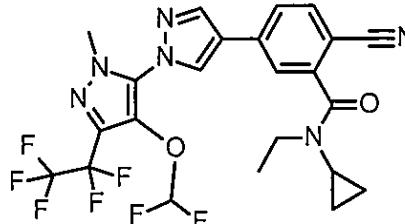
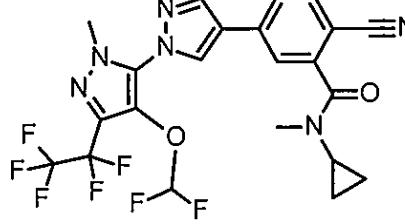
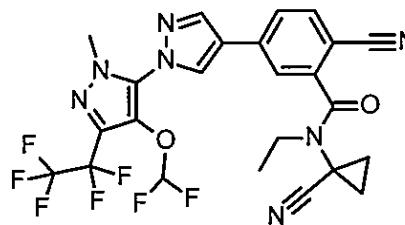
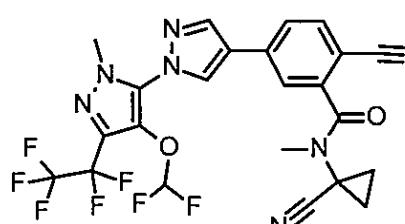
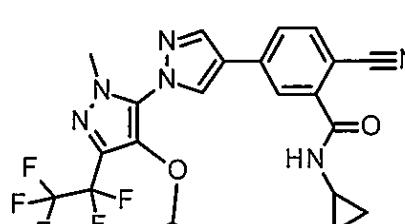
【表 1 - 7】

44		10
45		20
46		
47		30
48		40
49		

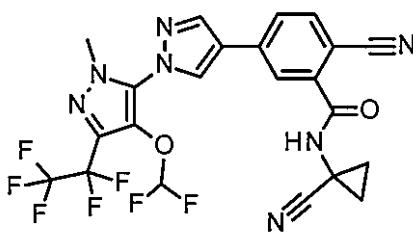
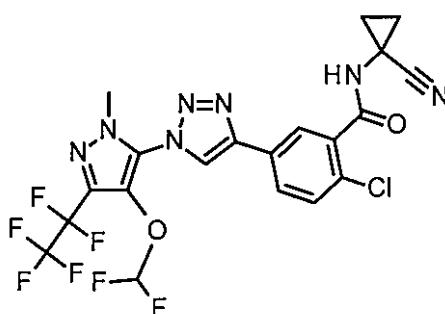
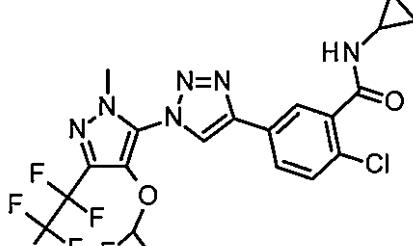
【表 1 - 8】

50		
51		10
52		20
53		
54		30
55		
56		40

【表 1 - 9】

57		10
58		
59		20
60		30
61		40
62		

【表 1 - 1 0】

63		
64		10
65		20

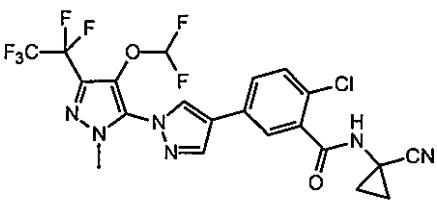
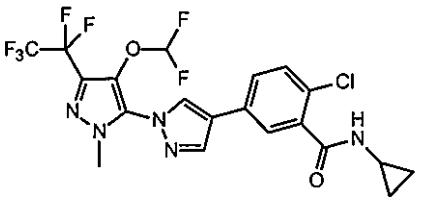
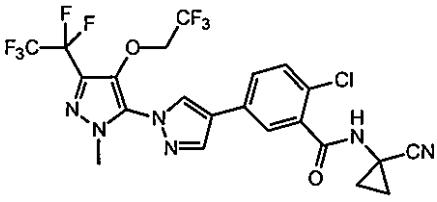
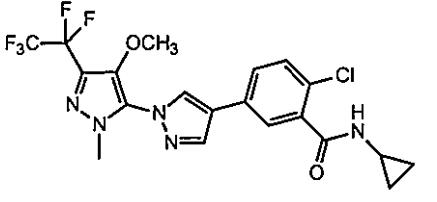
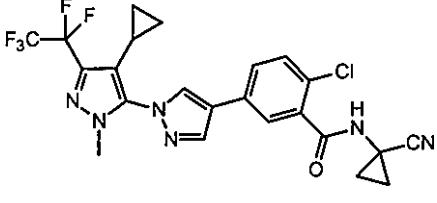
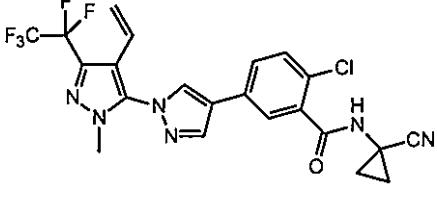
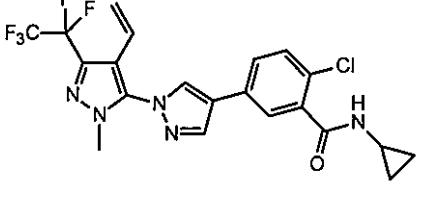
【0038】

実施形態 25.2：以下から選択される、実施形態 1 に係る化合物または塩である。

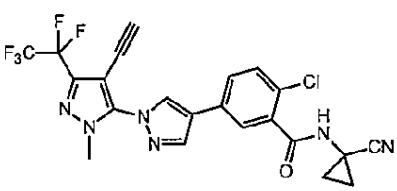
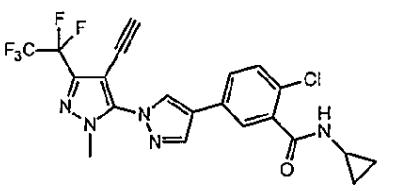
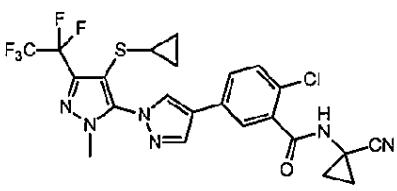
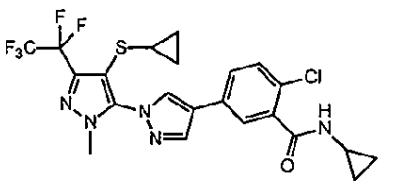
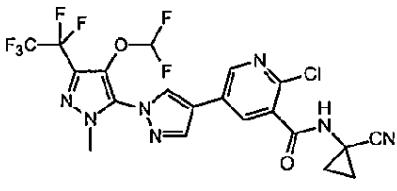
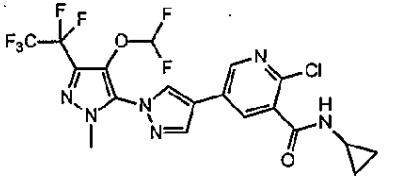
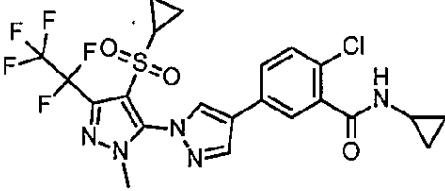
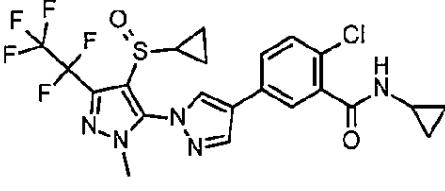
【0039】

30

【表 2 - 1】

1		
2		10
3		20
6		
9		30
15		
16		40

【表 2 - 2】

17		
18		10
19		
20		20
21		30
22		
33		40
34		

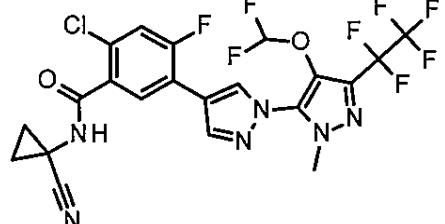
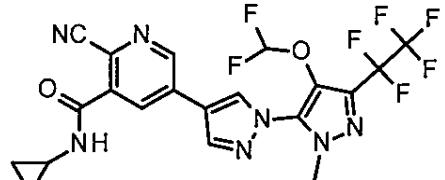
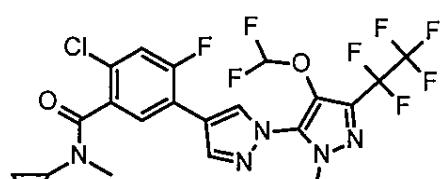
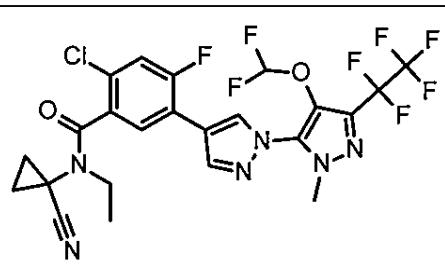
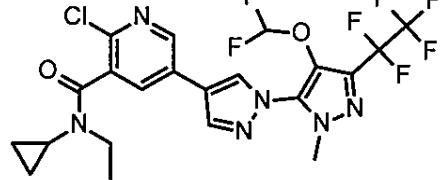
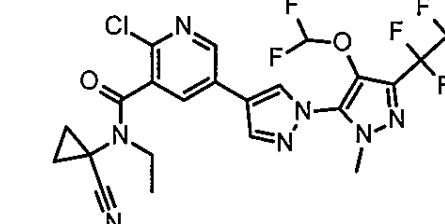
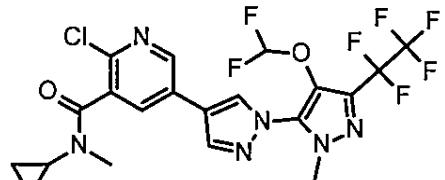
【表 2 - 3】

35		
36		10
37		20
38		
39		30
40		40
41		

【表 2 - 4】

42		
43		10
44		20
45		30
46		40
47		

【表 2 - 5】

48		
49		10
50		20
51		
52		30
53		40
54		

【表 2 - 6】

55		
56		10
57		20
58		30
59		
60		40

【表 2 - 7】

61		
62		10
63		20
64		30
65		40

## 【発明を実施するための形態】

## 【0040】

定義：

本明細書において用いられる場合、「アルキル」という用語は（単独でまたは化学基の一部として）、好ましくは1～6個の炭素原子を有する直鎖または分岐炭化水素、例えばメチル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチル、イソブチル、s-ブチル、t-ブチル、ペンチル、1-メチルブチル、2-メチルブチル、3-メチルブチル、1，50

2 - ジメチルプロピル、1 , 1 - ジメチルプロピル、2 , 2 - ジメチルプロピル、1 - エチルプロピル、ヘキシリ、1 - メチルペンチル、2 - メチルペンチル、3 - メチルペンチル、4 - メチルペンチル、1 , 2 - ジメチルプロピル、1 , 3 - ジメチルブチル、1 , 4 - ジメチルブチル、2 , 3 - ジメチルブチル、1 , 1 - ジメチルブチル、2 , 2 - ジメチルブチル、3 , 3 - ジメチルブチル、1 , 1 , 2 - トリメチルプロピル、1 , 2 , 2 - トリメチルプロピル、1 - エチルブチルおよび2 - エチルブチルを表す。例えばメチル、エチル、n - プロピル、イソプロピル、n - ブチル、イソブチル、s - ブチルまたはt - ブチルといった1 ~ 4個の炭素原子を有するアルキル基が好ましい。

#### 【0041】

「アルケニル」という用語は（単独でまたは化学基の一部として）、好ましくは2 ~ 6個の炭素原子および少なくとも1つの二重結合を有する直鎖または分岐炭化水素、例えばビニル、2 - プロペニル、2 - ブテニル、3 - ブテニル、1 - メチル - 2 - プロペニル、2 - メチル - 2 - プロペニル、2 - ペンテニル、3 - ペンテニル、4 - ペンテニル、1 - メチル - 2 - ブテニル、2 - メチル - 2 - ブテニル、3 - メチル - 2 - ブテニル、1 - メチル - 3 - ブテニル、2 - メチル - 3 - ブテニル、3 - メチル - 3 - ブテニル、1 , 1 - ジメチル - 2 - プロペニル、1 , 2 - ジメチル - 2 - プロペニル、1 - エチル - 2 - プロペニル、2 - ヘキセニル、3 - ヘキセニル、4 - ヘキセニル、5 - ヘキセニル、1 - メチル - 2 - ペンテニル、2 - メチル - 2 - ペンテニル、3 - メチル - 2 - ペンテニル、4 - メチル - 2 - ペンテニル、3 - メチル - 3 - ペンテニル、4 - メチル - 3 - ペンテニル、1 - メチル - 4 - ペンテニル、2 - メチル - 4 - ペンテニル、3 - メチル - 4 - ペンテニル、4 - メチル - 4 - ペンテニル、1 , 1 - ジメチル - 2 - ブテニル、1 , 1 - ジメチル - 3 - ブテニル、1 , 2 - ジメチル - 2 - ブテニル、1 , 2 - ジメチル - 3 - ブテニル、1 , 3 - ジメチル - 2 - ブテニル、2 , 2 - ジメチル - 3 - ブテニル、2 , 3 - ジメチル - 2 - ブテニル、2 , 3 - ジメチル - 3 - ブテニル、1 - エチル - 2 - ブテニル、1 - エチル - 3 - ブテニル、2 - エチル - 2 - ブテニル、2 - エチル - 3 - ブテニル、1 , 1 , 2 - トリメチル - 2 - プロペニル、1 - エチル - 1 - メチル - 2 - プロペニルおよび1 - エチル - 2 - メチル - 2 - プロペニルを表す。例えば2 - プロペニル、2 - ブテニルまたは1 - メチル - 2 - プロペニルといった2 ~ 4個の炭素原子を有するアルケニル基が好ましい。

#### 【0042】

「アルキニル」という用語は、単独でまたは化学基の一部として、好ましくは2 ~ 6個の炭素原子および少なくとも1つの三重結合を有する直鎖または分岐炭化水素を表し、例えば2 - プロピニル、2 - ブチニル、3 - ブチニル、1 - メチル - 2 - プロピニル、2 - ペンチニル、3 - ペンチニル、4 - ペンチニル、1 - メチル - 3 - ブチニル、2 - メチル - 3 - ブチニル、1 - メチル - 2 - ブチニル、1 , 1 - ジメチル - 2 - プロピニル、1 - エチル - 2 - プロピニル、2 - ヘキシニル、3 - ヘキシニル、4 - ヘキシニル、5 - ヘキシニル、1 - メチル - 2 - ペンチニル、1 - メチル - 3 - ペンチニル、1 - メチル - 4 - ペンチニル、2 - メチル - 3 - ペンチニル、2 - メチル - 4 - ペンチニル、3 - メチル - 4 - ペンチニル、4 - メチル - 2 - ペンチニル、1 , 1 - ジメチル - 3 - ブチニル、1 , 2 - ジメチル - 3 - ブチニル、2 , 2 - ジメチル - 3 - ブチニル、1 - エチル - 3 - ブチニル、2 - エチル - 3 - ブチニル、1 - エチル - 1 - メチル - 2 - プロピニルおよび2 , 5 - ヘキサジニルである。2 ~ 4個の炭素原子を有するアルキニルが好ましく、例えばエチニル、2 - プロピニルまたは2 - ブチニル - 2 - プロペニルである。

#### 【0043】

「シクロアルキル」という用語は（単独でまたは化学基の一部として）、好ましくは3 ~ 10個の炭素原子を有する飽和または部分飽和单環式、二環式または三環式炭化水素、例えばシクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシリ、シクロヘプチル、シクロオクチル、ビシクロ [ 2 . 2 . 1 ] ヘプチル、ビシクロ [ 2 . 2 . 2 ] オクチルまたはアダマンチルを表す。

例えばシクロプロピルまたはシクロブチルといった3、4、5、6または7個の炭素原

10

20

30

40

50

子を有するシクロアルキルが好ましい。

【0044】

「ヘテロシクロアルキル」という用語は（単独でまたは化学基の一部として）、好ましくは3～10個の炭素原子を有する飽和または部分飽和單環式、二環式または三環式炭化水素、例えばシクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシリル、シクロヘプチル、シクロオクチル、ビシクロ[2.2.1]ヘプチル、ビシクロ[2.2.2]オクチルまたはアダマンチルを表し、ここで、1個または複数個の環原子、好ましくは1～4個、より好ましくは1、2または3個の環原子は、N、O、S、P、B、SiおよびSeから、より好ましくはN、OおよびSから独立して選択され、ここで、O原子は、相互に隣接して位置することはできない。 10

【0045】

「アルキルシクロアルキル」という用語は、好ましくは4～10個または4～7個の炭素原子を有する單環式、二環式または三環式アルキルシクロアルキル、例えばエチルシクロプロピル、イソプロピルシクロブチル、3-メチルシクロペンチルおよび4-メチル-シクロヘキシリルを表す。例えばエチルシクロプロピルまたは4-メチル-シクロヘキシリルといった4、5または7個の炭素原子を有するアルキルシクロアルキルが好ましい。

【0046】

「シクロアルキルアルキル」という用語は、好ましくは4～10個または4～7個の炭素原子を有する單環式、二環式または三環式シクロアルキルアルキル、例えばシクロプロピルメチル、シクロブチルメチル、シクロペンチルメチル、シクロヘキシリルメチルおよびシクロペンチルエチルを表す。例えばシクロプロピルメチルまたはシクロブチルメチルといった4、5または7個の炭素原子を有するシクロアルキルアルキルが好ましい。 20

【0047】

「ハロゲン」または「ハロ」という用語は、フルオロ、クロロ、ブロモまたはヨード、特にフルオロ、クロロまたはブロモを表す。例えばハロアルキル、ハロシクロアルキル、ハロアルキルオキシ、ハロアルキルスルファニル、ハロアルキルスルフィニルまたはハロアルキルスルホニルといったハロゲンで置換された化学基は、1個または置換基の最大数以下のハロゲンで置換されている。「アルキル」、「アルケニル」または「アルキニル」がハロゲンで置換されている場合、ハロゲン原子は同一であることも異なっていることも可能であり、同一の炭素原子または異なる炭素原子に結合していることが可能である。 30

【0048】

「ハロシクロアルキル」という用語は、好ましくは3～10個の炭素原子を有する單環式、二環式または三環式ハロシクロアルキル、例えば1-フルオロ-シクロプロピル、2-フルオロ-シクロプロピルまたは1-フルオロ-シクロブチルを表す。3、5または7個の炭素原子を有するハロシクロアルキルが好ましい。

【0049】

「ハロアルキル」、「ハロアルケニル」または「ハロアルキニル」という用語は、ハロゲン、好ましくは同一または異なる1～9個のハロゲン原子で置換されたアルキル、アルケニルまたはアルキニルを表し、例えばCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>CI、CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>F、CHCIC<sub>2</sub>H<sub>3</sub>、CHFC<sub>2</sub>H<sub>3</sub>、CH<sub>2</sub>CI、CH<sub>2</sub>Fのようなモノハロアルキル(=モノハロアルキル)；CCl<sub>3</sub>またはCF<sub>3</sub>またはCF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>のようなパーザロアルキル；CHF<sub>2</sub>、CH<sub>2</sub>F、CH<sub>2</sub>CHFCI、CF<sub>2</sub>CF<sub>2</sub>H、CH<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>のようなポリハロアルキルである。ハロアルケニル、およびハロゲンによって置換されている他の基についても同様である。 40

【0050】

ハロアルコキシの例は、例えばOCF<sub>3</sub>、OC HF<sub>2</sub>、OC H<sub>2</sub>F、OC F<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>、OC H<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>、OC F<sub>3</sub>、OC HF<sub>2</sub>、OC H<sub>2</sub>F、OC F<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>、OC H<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>である。

【0051】

ハロアルキルのさらなる例は、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオロメチル、1-フルオロエチル、2-フルオロエチル、2,2-ジフルオロエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、2,2,2-トリクロロエチル、2-クロロ-2,

2 - ジフルオロエチル、ペンタフルオロエチルおよびペンタフルオロ - t - ブチルである。

**【 0 0 5 2 】**

1 ~ 4 個の炭素原子と、フルオロ、クロロまたはブロモから選択される 1 ~ 9 個、好ましくは 1 ~ 5 個の同一または異なるハロゲン原子とを有するハロアルキルが好ましい。

**【 0 0 5 3 】**

1 または 2 個の炭素原子と、フルオロまたはクロロから選択される 1 ~ 5 個の同一または異なるハロゲン原子を有するハロアルキル、例えばジフルオロメチル、トリフルオロメチルまたは 2 , 2 - ジフルオロエチルが特に好ましい。

**【 0 0 5 4 】**

「ヒドロキシアルキル」という用語は、好ましくは 1 ~ 6 個の炭素原子を有する直鎖または分岐鎖アルコール、例えばメタノール、エタノール、n - プロパノール、イソプロパノール、n - ブタノール、イソブタノール、s - ブタノールおよび t - ブタノールを表す。1 ~ 4 個の炭素原子を有するヒドロキシアルキルが好ましい。

**【 0 0 5 5 】**

「アルコキシ」という用語は、好ましくは 1 ~ 6 個の炭素原子を有する直鎖または分岐鎖 O - アルキル、例えばメトキシ、エトキシ、n - プロポキシ、イソプロポキシ、n - ブトキシ、イソブトキシ、s - ブトキシおよび t - ブトキシを表す。1 ~ 4 個の炭素原子を有するアルコキシが好ましい。

**【 0 0 5 6 】**

「ハロアルコキシ」という用語は、好ましくは 1 ~ 6 個の炭素原子を有するハロゲンで置換された直鎖または分岐鎖 O - アルキル、例えばジフルオロメトキシ、トリフルオロメトキシ、2 , 2 - ジフルオロエトキシ、1 , 1 , 2 , 2 - テトラフルオロエトキシ、2 , 2 , 2 - トリフルオロエトキシおよび 2 - クロロ - 1 , 1 , 2 - トリフルオロエトキシを表す。

**【 0 0 5 7 】**

1 ~ 4 個の炭素原子を有するハロアルコキシが好ましい。

**【 0 0 5 8 】**

「アルキルスルファニル」という用語は、好ましくは 1 ~ 6 個の炭素原子を有する直鎖または分岐鎖 S - アルキル、例えばメチルチオ、エチルチオ、n - プロピルチオ、イソブロピルチオ、n - ブチルチオ、イソブチルチオ、s - ブチルチオおよび t - ブチルチオを表す。1 ~ 4 個の炭素原子を有するアルキルスルファニルが好ましい。ハロアルキルスルファニル、すなわちハロゲン置換されたアルキルスルファニルの例は、例えばジフルオロメチルチオ、トリフルオロメチルチオ、トリクロロメチルチオ、クロロジフルオロメチルチオ、1 - フルオロエチルチオ、2 - フルオロエチルチオ、2 , 2 - ジフルオロエチルチオ、1 , 1 , 2 , 2 - テトラフルオロエチルチオ、2 , 2 , 2 - トリフルオロエチルチオまたは 2 - クロロ - 1 , 1 , 2 - トリフルオロエチルチオである。

**【 0 0 5 9 】**

「アルキルスルフィニル」という用語は、好ましくは 1 ~ 6 個の炭素原子を有する直鎖または分岐鎖アルキルスルフィニル、例えばメチルスルフィニル、エチルスルフィニル、n - プロピルスルフィニル、イソプロピルスルフィニル、n - ブチルスルフィニル、イソブチルスルフィニル、s - ブチルスルフィニルおよび t - ブチルスルフィニルを表す。

**【 0 0 6 0 】**

1 ~ 4 個の炭素原子を有するアルキルスルフィニルが好ましい。

**【 0 0 6 1 】**

ハロアルキルスルフィニル、すなわちハロゲン置換されたアルキルスルフィニルの例は、ジフルオロメチルスルフィニル、トリフルオロメチルスルフィニル、トリクロロメチルスルフィニル、クロロジフルオロメチルスルフィニル、1 - フルオロエチルスルフィニル、2 - フルオロエチルスルフィニル、2 , 2 - ジフルオロエチルスルフィニル、1 , 1 , 2 , 2 - テトラフルオロエチルスルフィニル、2 , 2 , 2 - トリフルオロエチルスルフィ

10

20

30

40

50

ニルおよび 2 - クロロ - 1 , 1 , 2 - トリフルオロエチルスルフィニルである。

【0062】

「アルキルスルホニル」という用語は、好ましくは 1 ~ 6 個の炭素原子を有する直鎖または分岐鎖アルキルスルホニル、例えばメチルスルホニル、エチルスルホニル、n - プロピルスルホニル、イソプロピルスルホニル、n - ブチルスルホニル、イソブチルスルホニル、s - ブチルスルホニルおよび t - ブチルスルホニルを表す。

【0063】

1 ~ 4 個の炭素原子を有するアルキルスルホニルが好ましい。

【0064】

ハロアルキルスルホニル、すなわちハロゲン置換されたアルキルスルホニルの例は、例えばジフルオロメチルスルホニル、トリフルオロメチルスルホニル、トリクロロメチルスルホニル、クロロジフルオロメチルスルホニル、1 - フルオロエチルスルホニル、2 - フルオロエチルスルホニル、2 , 2 - ジフルオロエチルスルホニル、1 , 1 , 2 , 2 - テトラフルオロエチルスルホニル、2 , 2 , 2 - トリフルオロエチルスルホニルおよび 2 - クロロ - 1 , 1 , 2 - トリフルオロエチルスルホニルである。

10

【0065】

「アルキルカルボニル」という用語は、好ましくは 2 ~ 7 個の炭素原子を有する直鎖または分岐鎖アルキル - C (= O) 、例えばメチルカルボニル、エチルカルボニル、n - プロピルカルボニル、イソプロピルカルボニル、s - ブチルカルボニルおよび t - ブチルカルボニルを表す。

20

【0066】

1 ~ 4 個の炭素原子を有するアルキルカルボニルが好ましい。

【0067】

「シクロアルキルカルボニル」という用語は、シクロアルキル部分に好ましくは 3 ~ 10 個の炭素原子を有するシクロアルキル - カルボニル、例えばシクロプロピルカルボニル、シクロブチルカルボニル、シクロペンチルカルボニル、シクロヘキシリ - カルボニル、シクロヘプチル - カルボニル、シクロオクチルカルボニル、ビシクロ [ 2 . 2 . 1 ] ヘプチル、ビシクロ [ 2 . 2 . 2 ] オクチルカルボニルおよびアダマンチルカルボニルを表す。シクロアルキル部分に 3 、 5 または 7 個の炭素原子を有するシクロアルキルカルボニルが好ましい。

30

【0068】

「アルコキカルボニル」という用語は（単独でまたは化学基の一部として）、アルコキ部分に好ましくは 1 ~ 6 個の炭素原子または 1 ~ 4 個の炭素原子を有する直鎖または分岐鎖アルコキカルボニル、例えばメトキカルボニル、エトキカルボニル、n - プロポキシカルボニル、イソプロピル - アミノカルボニル、s - ブトキカルボニルおよび t - ブトキカルボニルを表す。

【0069】

「アルキルアミノカルボニル」という用語は、アルキル部分に好ましくは 1 ~ 6 個の炭素原子または 1 ~ 4 個の炭素原子を有する直鎖または分岐鎖アルキルアミノカルボニル、例えばメチルアミノカルボニル、エチルアミノカルボニル、n - プロピルアミノカルボニル、イソプロピル - アミノカルボニル、s - ブチルアミノカルボニルおよび t - ブチルアミノカルボニルを表す。

40

【0070】

「N , N - ジアルキルアミノ - カルボニル」という用語は、アルキル部分に好ましくは 1 ~ 6 個の炭素原子または 1 ~ 4 個の炭素原子を有する直鎖または分岐鎖 N , N - ジアルキルアミノカルボニル、例えば N , N - ジメチルアミノ - カルボニル、N , N - ジエチルアミノ - カルボニル、N , N - ジ ( n - プロピルアミノ ) - カルボニル、N , N - ジ - ( イソプロピルアミノ ) - カルボニルおよび N , N - ジ - ( s - ブチルアミノ ) - カルボニルを表す。

【0071】

50

「アリール」という用語は、好ましくは6～14個、より好ましくは6～10個の環炭素原子を有する単環式、二環式または三環式芳香族系、例えばフェニル、ナフチル、アントリル、フェナントレニル、好ましくはフェニルを表す。「アリール」はまた、多環式系、例えばテトラヒドロナフチル、インデニル、インダニル、フルオレニル、ビフェニルを表す。アリールアルキルが置換アリールの例であり、これは、アリールまたはアルキル部分の両方において同一または異なる置換基でさらに置換されていてもよい。ベンジルおよび1-フェニルエチルがこのようなアリールアルキルの例である。

#### 【0072】

「ヘテロシクリル」、「複素環」または「複素環系」という用語は少なくとも1つの環を有する炭素環系を表し、この環において、少なくとも1個の炭素原子は、好ましくはN、O、S、P、B、Si、Seから選択されるヘテロ原子によって置換されており、ならびにこの環は飽和、不飽和または部分飽和であり、ならびにこの環は無置換であるか、または置換基Zで置換されており、ここで、結合するための結合は環原子に位置している。別段の定義がある場合を除き、複素環は、好ましくはN、OおよびSから選択される、好ましくは3～9個の環原子、好ましくは3～6個の環原子、ならびに1個または複数個、好ましくは1～4個、より好ましくは1、2または3個のヘテロ原子を複素環中に有し、ここで、O原子は相互に隣接して位置することはできない。複素環は通常、5個以上の窒素、および/または3個以上の酸素原子および/または3個以上の硫黄原子を含有しない。複素環式置換基または複素環がさらに置換されている場合は、他の複素環とさらに環化され得る。

10

#### 【0073】

「複素環式」という用語はまた、例えば8-アザ-ビシクロ[3.2.1]オクタニルまたは1-アザ-ビシクロ[2.2.1]ヘプチルといった多環式系を含む。

#### 【0074】

「複素環式」という用語はまた、例えば1-オキサ-5-アザ-スピロ[2.3]ヘキシリルといったスピロ環式系を含む。

#### 【0075】

ヘテロシクリルの例は、例えばピペリジニル、ピペラジニル、モルホリニル、チオモルホリニル、ジヒドロピラニル、テトラヒドロピラニル、ジオキサンニル、ピロリニル、ピロリジニル、イミダゾリニル、イミダゾリジニル、チアゾリジニル、オキサゾリジニル、ジオキソラニル、ジオキソリル、ピラゾリジニル、テトラヒドロフラニル、ジヒドロフラニル、オキセタニル、オキシラニル、アゼチジニル、アジリジニル、オキサゼチジニル、オキサジリジニル、オキサゼパニル、オキサジナニル、アゼパニル、オキソピロリジニル、ジオキソピロリジニル、オキソモルホリニル、オキソピペラジニルおよびオキセパニルである。

20

#### 【0076】

ヘテロアリール、すなわち芳香族複素環式系が特に重要である。

#### 【0077】

「ヘテロアリール」という用語は、ヘテロ芳香族基、すなわち、上記のヘテロ環の定義に定める完全不飽和芳香族複素環基を表す。「ヘテロアリール」は、N、OおよびSから選択される1～3個、好ましくは1または2個の同一または異なるヘテロ原子を有する5～7員環を有する。「ヘテロアリール」の例は、フリル、チエニル、ピラゾリル、イミダゾリル、1,2,3-および1,2,4-トリアゾリル、イソオキサゾリル、チアゾリル、イソチアゾリル、1,2,3-、1,3,4-、1,2,4-および1,2,5-オキサジアゾリル、アゼピニル、ピロリル、ピリジル、ピリダジニル、ピリミジニル、ピラジニル、1,3,5-、1,2,4-および1,2,3-トリアジニル、1,2,4-、1,3,2-、1,3,6-および1,2,6-オキサジニル、オキセピニル、チエピニル、1,2,4-トリアゾロニルおよび1,2,4-ジアゼピニルである。

30

#### 【0078】

ハロゲンは、一般にフッ素、塩素、臭素またはヨウ素である。これはまた、ハロアルキ

40

50

ルまたはハロフェニルなどの他の意味との組合せにおけるハロゲンにも対応して適用される。

**【0079】**

ハロアルキル基は、1～6個の炭素原子の鎖長を有することが好ましい。ハロアルキルは、例えば、フルオロメチル、ジフルオロメチル、トリフルオロメチル、クロロメチル、ジクロロメチル、トリクロロメチル、2,2,2-トリフルオロエチル、2-フルオロエチル、2-クロロエチル、ペントフルオロエチル、1,1-ジフルオロ-2,2,2-トリクロロエチル、2,2,3,3-テトラフルオロエチルおよび2,2,2-トリクロロエチルである。

**【0080】**

アルコキシは、例えば、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、i-プロポキシ、n-ブトキシ、イソブトキシ、sec-ブトキシおよびt-ブトキシ、ならびに異性体ペンチルオキシおよびヘキシルオキシラジカルである。

**【0081】**

アルコキシアルキル基は、1～6個の炭素原子の鎖長を有することが好ましい。

**【0082】**

アルコキシアルキルは、例えば、メトキシメチル、メトキシエチル、エトキシメチル、エトキシエチル、n-プロポキシメチル、n-プロポキシエチル、イソプロポキシメチルまたはイソプロポキシエチルである。

**【0083】**

アルコキシカルボニルは、例えばメトキシカルボニル(C<sub>1</sub>アルコキシカルボニルである)、エトキシカルボニル、プロポキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、n-ブトキシカルボニル、t-ブトキシカルボニル、n-ペントオキシカルボニルまたはヘキシオキシカルボニルである。

**【0084】**

シクロアルキル基は、好ましくは3～6個の環炭素原子を有し、例えばシクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチルおよびシクロヘキシルである。

**【0085】**

少なくとも1つの塩基性中心(basic centre)を有する実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物は、例えば酸付加塩、例えば無機強酸、例えば鉛酸、例えば過塩素酸、硫酸、硝酸、亜硝酸、リン酸またはハロゲン化水素酸との酸付加塩、強有機カルボン酸、例えば非置換であるかまたは例えはハロゲンで置換されるC<sub>1</sub>～C<sub>4</sub>アルカンカルボン酸、例えば酢酸、例えば飽和または不飽和ジカルボン酸、例えばシウ酸、マロン酸、コハク酸、マレイン酸、フマル酸またはフタル酸、例えばヒドロキシカルボン酸、例えばアスコルビン酸、乳酸、リンゴ酸、酒石酸またはクエン酸、または例えは安息香酸との酸付加塩、または有機スルホン酸、例えば非置換であるかまたは例えはハロゲンで置換されるC<sub>1</sub>～C<sub>4</sub>アルカン-またはアリールスルホン酸、例えばメタン-またはp-トルエンスルホン酸との酸付加塩を形成することができる。少なくとも1つの酸性基を有する実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物は、例えば、塩基との塩、例えば無機塩、例えばアルカリ金属塩またはアルカリ土類金属塩、例えばナトリウム塩、カリウム塩またはマグネシウム塩、またはアンモニアまたは有機アミンとの塩、例えばモルホリン、ピペリジン、ピロリジン、モノ-、ジ-またはトリ-低級アルキルアミン、例えばエチル-、ジエチル-、トリエチル-またはジメチルプロピルアミン、またはモノ-、ジ-またはトリヒドロキシ-低級アルキルアミン、例えばモノ-、ジ-またはトリエタノールアミンを形成することができる。

**【0086】**

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物はまた、塩形成の最中に形成され得る水和物も含む。

**【0087】**

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物は、当業者に周知である多様な方法ま

10

20

30

40

50

たはスキーム 1 ~ 4 に示されている方法によって形成され得る。調製に関するさらなる説明は、国際公開第 2015 / 067646 号、国際公開第 2015 / 150442 号、国際公開第 2015 / 193218 号、国際公開第 2014 / 122083 号および国際公開第 2012 / 107434 号に見出すことが可能である。

## 【0088】

実施形態のいずれか 1 つに係る化合物は、当業者に公知の多様な方法またはスキーム 1 ~ 4 に示される方法によって形成され得る。

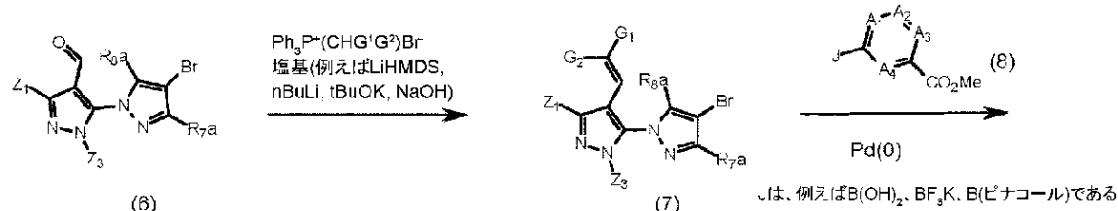
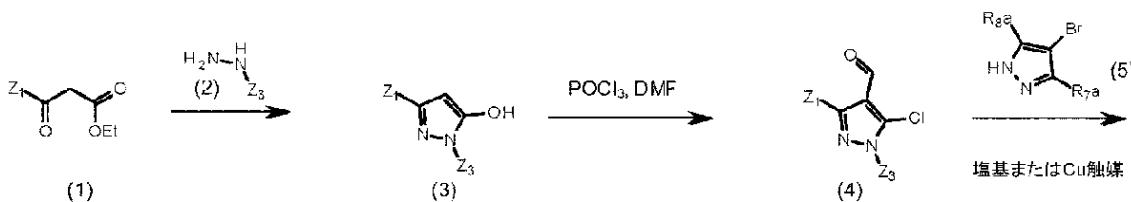
## 【0089】

例えば、式 (Ia) または (Ib) の化合物は、スキーム 1 に従って調製可能である。

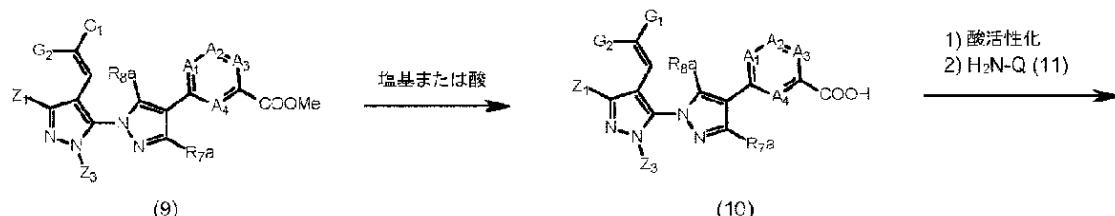
## 【化 12】

10

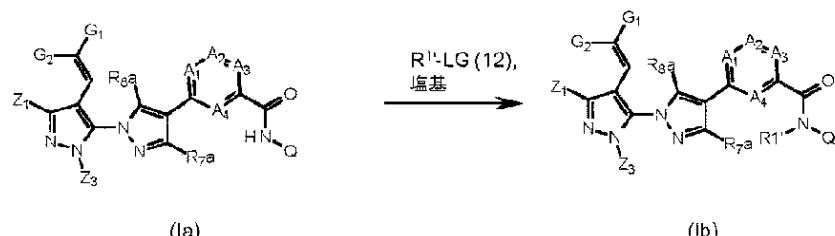
## スキーム 1:



20



30



40

式中、 $R^1$ 、 $Q$ 、 $A^1$ 、 $A^2$ 、 $A^3$ 、 $A^4$ 、 $R^{7a}$ 、 $R^{8a}$ 、 $Z^1$  および  $Z^3$  は、実施形態 1 ~ 25 のいずれか 1 つにおいて定義されているとおりであり、 $G^1$  および  $G^2$  は、H、ハロゲン、 $C_{1-2}$ -アルキルまたは  $C_{1-2}$ -ハロアルキルから独立して選択され、 $R^1$  は、 $R^1$  と同様であるが、H ではない。式 (1)、(2)、(5)、(8)、(11) の化合物または  $P_h_3P(CHG^1G^2)Br$  は、市販されているか、または化学文献から公知である。式 (3) の化合物は、例えば米国特許第 5536701 号明細書に記載のプロセスに従って調製可能である。式 (4) の化合物は、Synth. Commun. 2004, 34, 1541 (ビルスマイヤー反応) に従って調製可能である。式 (7) の化合物は、Org. Lett. 2014, 16, 6120 または国際公開第 2012 / 069948 号 (ウイッティヒオレフィン化) に従って調製可能である。式 (9) の化合物は、N. Miyaur

50

a , A . S u z u k i , C h e m . R e v . 1 9 9 5 , 9 5 , 2 4 5 7 - 2 4 8 3 または G . A . M o l a n d e r , L . J e a n - G e r a r d , O r g . R e a c t . 2 0 1 3 , 7 9 , 1 - 3 1 6 に記載されているとおり、式(7)の化合物とボロン酸、エステル（例えばピナコールエステル）または式(8)のトリフルオロボレートとの古典的なスズキカップリングにより入手可能である。

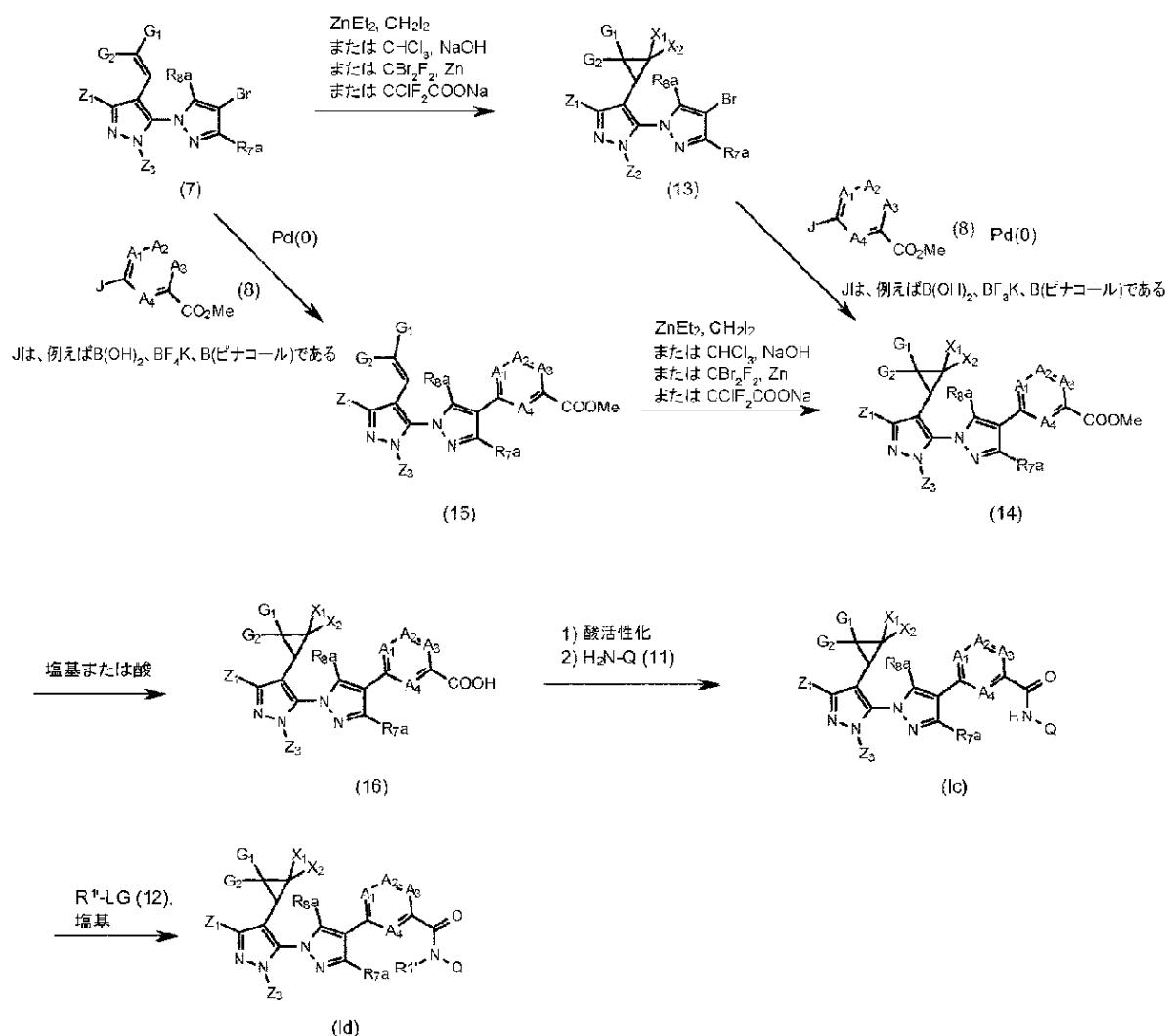
## 【0090】

式(Ic)または(Id)の化合物は、スキーム2に従って調製可能である。

## 【化13】

## スキーム2:

10



式中、R<sup>1</sup>、Q、A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>、A<sup>4</sup>、R<sup>7a</sup>、R<sup>8a</sup>、Z<sup>1</sup>およびZ<sup>3</sup>は、実施形態のいずれか1つにおいて定義されているとおりであり、G<sup>1</sup>およびG<sup>2</sup>は、H、ハロゲン、C<sub>1-2</sub>-アルキルまたはC<sub>1-2</sub>-ハロアルキルから独立して選択され、X<sup>1</sup>およびX<sup>2</sup>は、H、C1、FまたはBrから独立して選択され、R<sup>1</sup>は、R<sup>1</sup>と同様であるが、Hではない。式(7)の化合物の調製は、スキーム1に記載されている。式(13)または(14)の化合物は、式(7)または(15)の化合物から、例えば国際公開第03097637号、Synthesis 2015, 47, 1593 (ZnEt<sub>2</sub>、CH<sub>2</sub>I<sub>2</sub>、シモンズスミス反応)、国際公開第09024614号、Organometallics, 2009, 28, 2646 (CHCl<sub>3</sub>、NaOH、TBAB)、国際公開第06082001号、J. Fluorine Chem. 2002, 115, 79 (CBr<sub>2</sub>F<sub>2</sub>、Zn)または国際公開第04042845号 (CCl<sub>2</sub>COONa) に記載されている公知のプロセ

40

50

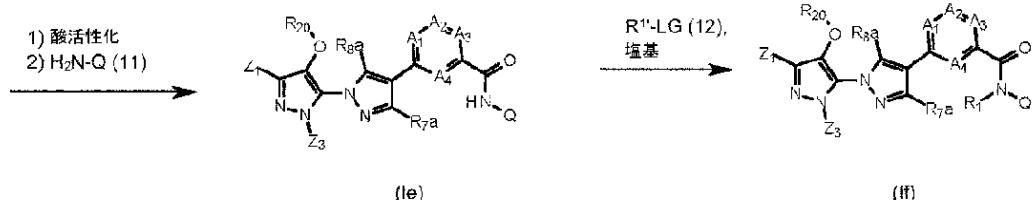
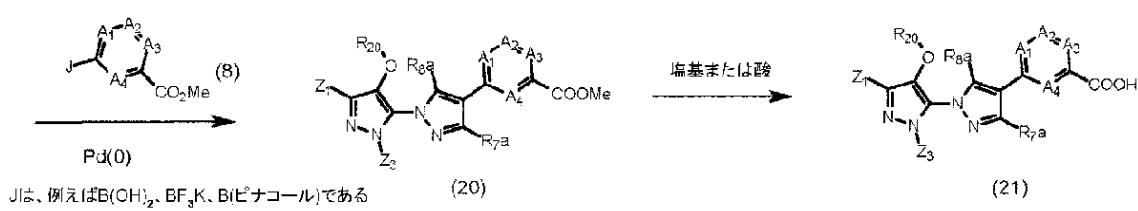
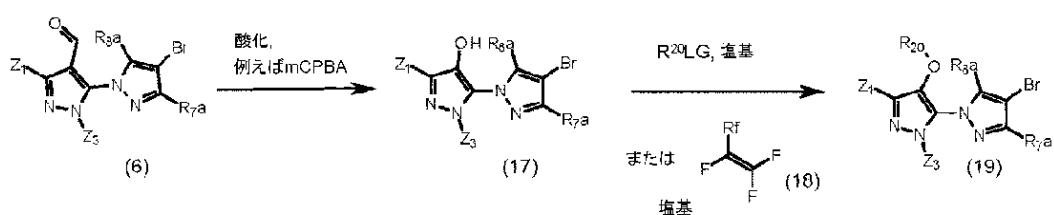
スに従って調製可能である。式(14)または(15)の化合物は、N. Miyaura, A. Suzuki, Chem. Rev. 1995, 95, 2457-2483またはG. A. Molander, L. Jean-Gerard, Org. React. 2013, 79, 1-316に記載されているとおり、式(13)または(7)の化合物と、ボロン酸、エステル(例えはピナコールエステル)または式(8)のトリフルオロボレートとの古典的なスズキカップリングにより入手可能である。

[ 0 0 9 1 ]

式 ( I e ) または ( I f ) の化合物は、スキーム 3 に従って調製可能である。

【化 1 4】

### スキーム3:



式中、R<sup>1</sup>、Q、A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>、A<sup>4</sup>、R<sup>7a</sup>、R<sup>8a</sup>、Z<sup>1</sup>およびZ<sup>3</sup>は、実施形態1～25のいずれか1つにおいて定義されているとおりであり、R<sup>1</sup>は、R<sup>1</sup>と同様であるが、Hではない。R<sup>20</sup>は、C<sub>1-3</sub>-アルキル、C<sub>1-3</sub>-ハロアルキル、C<sub>3-5</sub>-シクロアルキル、C<sub>3-5</sub>-ハロシクロアルキルである。R<sup>f</sup>は、Fまたはフッ素化C<sub>1-3</sub>-アルキルであり、L<sup>G</sup>は、例えばハロゲン、OMs(メシレート)、OTS(トシレート)、OTf(トリフレート)といった脱離基である。

[ 0 0 9 2 ]

式(6)の化合物の調製は、スキーム1に記載されている。式(17)の化合物は、例えば国際公開第07060525号に記載のプロセス(バイエル-ビリガー酸化)に従って調製可能である。式(19)の化合物は、式(17)の化合物とR<sup>20</sup>LGまたは式(18)の化合物とを、NaH、NaHCO<sub>3</sub>、Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub>、DBUなどの塩基の存在下でTHF、CH<sub>3</sub>CN、DMF、DMAなどの溶剤中において反応させることにより入手可能である。LGは、例えばハロゲン、OMs、OTs、OTfといった脱離基である。式(20)の化合物は、N.Miyaura, A.Suzuki, Chem. Rev. 1995, 95, 2457-2483またはG.A.Molander, L.Jean-Gerard, Org. React. 2013, 79, 1-316に記載されているとおり、式

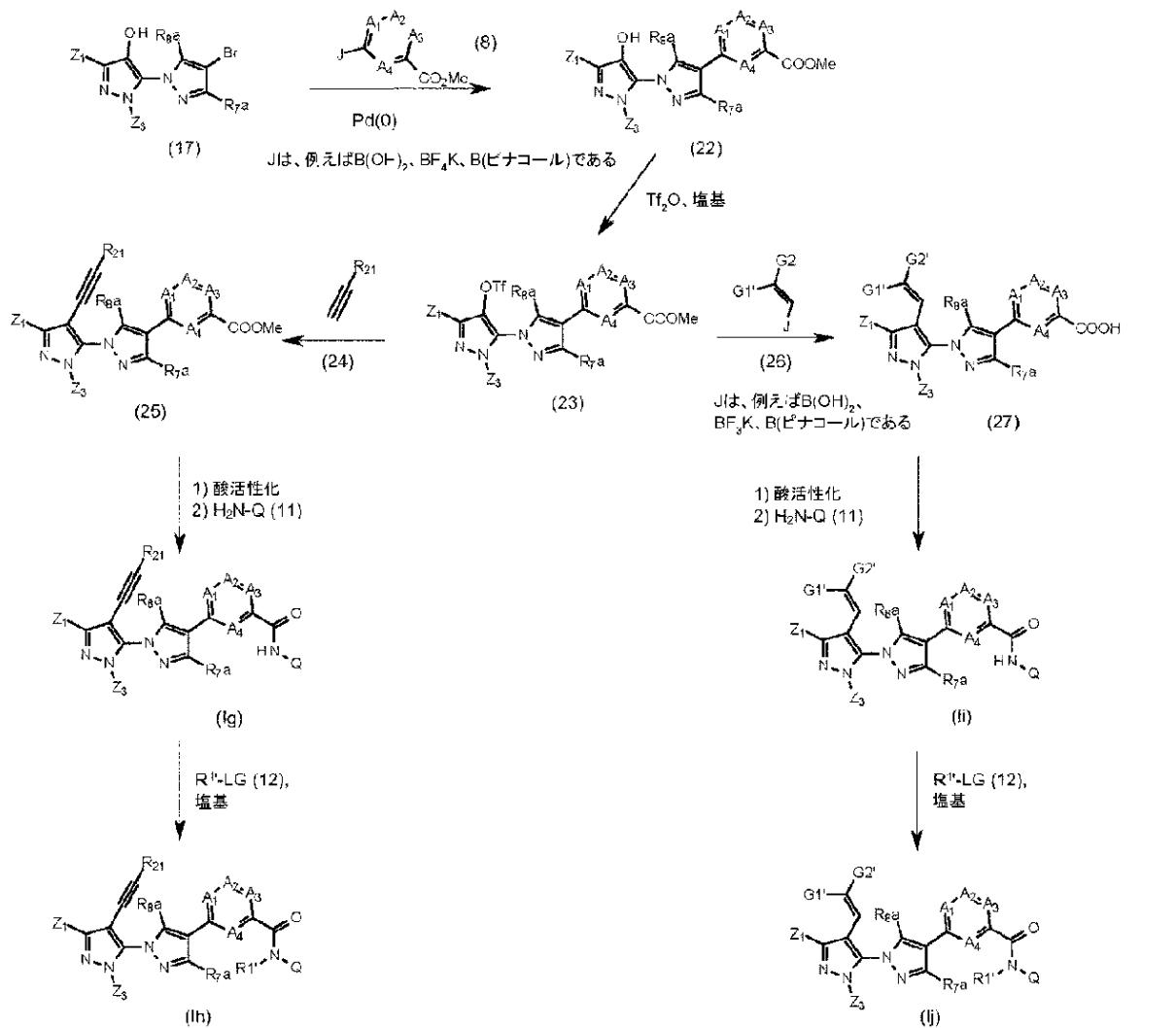
(19) の化合物と、ボロン酸、エステル（例えばピナコールエステル）または式(8)のトリフルオロボレートとの古典的なスズキカップリングにより入手可能である。

## 【0093】

式(1g)、(1h)、(1i)または(1j)の化合物は、スキーム4に従って調製可能である。

## 【化15】

## スキーム4:



式中、R<sup>1</sup>、Q、A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>、A<sup>4</sup>、R<sup>7a</sup>、R<sup>8a</sup>、Z<sup>1</sup>およびZ<sup>3</sup>は、実施形態のいずれか1つにおいて定義されているとおりであり、G<sup>1</sup>、およびG<sup>2</sup>、は、独立して、HまたはC<sub>1-2</sub>-アルキルであり、R<sup>21</sup>は、HまたはCH<sub>3</sub>であり；R<sup>1'</sup>は、R<sup>1</sup>と同様であるが、Hではない。

## 【0094】

式(17)の化合物の調製は、スキーム3に記載されている。式(22)の化合物は、N. Miya ura, A. Suzuki, Chem. Rev. 1995, 95, 2457-2483またはG. A. Molander, L. Jean-Gerard, Org. React. 2013, 79, 1-316に記載されているとおり、式(17)の化合物と、ボロン酸、エステルまたは式(8)のトリフルオロボレートとの古典的なスズキカップリングにより入手可能である。式(25)の化合物は、式(23)の化合物および式(24)の化合物のクロスカップリングによって入手可能である（例えばChem. Rev. 2007, 107, 874-922、菌頭反応）。式(27)の化合物は、式(26)の化合物の式(26)の化合物によるクロスカップリング（スズキカップリング）によって

入手可能である。

**【0095】**

25に記載の化合物は、実施形態1～25のいずれか1つに記載の出発化合物の1つ以上の置換基を、慣例的な方法で、本発明に係る他の置換基で置換することにより、実施形態1～25のいずれか1つに記載の別の化合物へとそれ自体公知の方法で転化され得る。

**【0096】**

それぞれ好適な反応条件および出発材料の選択に応じて、例えば、1つの反応工程において、1つの置換基を、本発明に係る別の置換基で単に置換することが可能であり、または複数の置換基が、同じ反応工程において、本発明に係る他の置換基で置換され得る。

**【0097】**

式(I)の化合物の塩は、それ自体公知の方法で調製され得る。従って、例えば、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物の酸付加塩が、好適な酸または好適なイオン交換試薬による処理によって得られ、塩基による塩が、好適な塩基または好適なイオン交換試薬による処理によって得られる。

**【0098】**

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物の塩は、例えば、好適な塩基性化合物または好適なイオン交換試薬による処理により、遊離化合物の酸付加塩へと、および例えば好適な酸または好適なイオン交換試薬による処理により、塩基による塩へと慣例的な方法で転化され得る。

**【0099】**

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物の塩は、例えば塩化銀を形成する無機塩が不溶性であり、従って反応混合物から沈殿する好適な溶媒中で、例えば、塩酸塩などの無機酸塩を酸のナトリウム塩、バリウム塩または銀塩などの好適な金属塩、例えば酢酸銀で処理することにより、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物の他の塩、酸付加塩、例えば、他の酸付加塩へとそれ自体公知の方法で転化され得る。

**【0100】**

手順または反応条件に応じて、塩形成特性を有する実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物が、遊離形態または塩の形態で得られる。

**【0101】**

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物および必要に応じてその互変異性体は、それぞれ遊離形態または塩形態で、分子中に現れる不斉炭素原子の数、絶対および相対配置に応じて、および/または分子中に現れる非芳香族二重結合の配置に応じて、例えば、対掌体および/またはジアステレオマーなどの純粋な立体異性体の形態で、あるいは鏡像異性体混合物、例えば、ラセミ体、ジアステレオマー混合物またはラセミ体混合物などの立体異性体混合物として、可能な異性体の1つの形態でまたはこれらの混合物として存在することができ；本発明は、純粋な立体異性体に関し、可能な全ての立体異性体混合物にも関し、立体化学の詳細がそれぞれ特に記載されていない場合でも、上記および下記においてこの意味でそれぞれ理解されるべきである。

**【0102】**

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物のジアステレオマー混合物またはラセミ混合物は、どの出発材料および手順が選択されたかに応じて得られる遊離形態または塩形態で、例えば、分別結晶化、蒸留および/またはクロマトグラフィにより、成分の物理化学的差異に基づいて、純粋なジアステレオマーまたはラセミ体へと公知の方法で分離され得る。

**【0103】**

同様の方法で得られるラセミ体などの鏡像異性体混合物は、公知の方法により、例えば、光学活性溶媒からの再結晶化により、キラル吸着剤におけるクロマトグラフィ、例えば、好適な微生物を用いたアセチルセルロースにおける高速液体クロマトグラフィ(HPLC)により、例えば、1つのみの鏡像異性体が複合されるキラルクラウンエーテルを用いた、包接化合物の形成を介した特定の固定化酵素による開裂により、またはジアステレオ

10

20

30

40

50

マー塩への転化により、例えば、塩基性最終生成物ラセミ体をカルボン酸、例えばショウノウ酸、酒石酸またはリンゴ酸、またはスルホン酸、例えばカンファースルホン酸などの光学活性酸と反応させ、このように得られるジアステレオマー混合物を、例えば、異なる溶解度に基づく分別結晶によって分離して、好適な物質、例えば塩基性物質の作用により、所望の鏡像異性体がそれから放出され得るジアステレオマーを得ることによって光学対掌体へと分解され得る。

#### 【0104】

純粋なジアステレオマーまたは鏡像異性体は、本発明に従って、好適な立体異性体混合物を分離することによるだけでなく、ジアステレオ選択的またはエナンチオ選択的合成の一般に知られている方法によつても、例えば、立体化学特性を有する出発材料を用いて、本発明に係る方法を行うことによつても得られる。

10

#### 【0105】

N-オキシドは、酸無水物、例えば無水トリフルオロ酢酸の存在下で、実施形態1～25のいずれか1つに記載の式Iの化合物を好適な酸化剤、例えばH<sub>2</sub>O<sub>2</sub>/尿素付加物と反応させることによつて調製され得る。このような酸化は、例えば、J. Med. Chem., 32(12), 2561-73, 1989または国際公開第00/15615号といった文献から公知である。

#### 【0106】

個々の成分が異なる生物学的活性を有する場合、それぞれ、生物学的に有効な立体異性体、例えば鏡像異性体またはジアステレオマー、または立体異性体混合物、例えば鏡像異性体混合物またはジアステレオマー混合物を単離または合成することが有利である。

20

#### 【0107】

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物および必要に応じてその互変異性体は、それぞれ遊離形態または塩形態で、必要に応じて、水和物の形態で得ることもでき、および/または他の溶媒、例えば、固体形態で存在する化合物の結晶化に使用され得た溶媒を含む。

#### 【0108】

以下の実施例は本発明を例示するものであり、限定するものではない。

#### 【0109】

本発明の化合物は、低施用量で効力が高いことにより公知の化合物と区別可能であり、これは、実施例においてアウトラインされている実験手法を用い、必要に応じて、例えば50 ppm、12.5 ppm、6 ppm、3 ppm、1.5 ppmまたは0.8 ppmといった低施用量を用いて当業者により検証可能である。

30

#### 【0110】

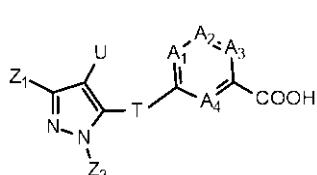
本発明はまた、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物の調製に有用な中間体を提供する。一定の中間体は新規であり、従つて本発明のさらなる態様を構成する。

#### 【0111】

新規中間体の一群は、式(II)

#### 【化16】

40



(II)

の化合物であり、式中、A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>、A<sup>4</sup>、T、U、Z<sup>1</sup>およびZ<sup>3</sup>は、実施形態1～25のいずれか1つにおいて定義されているとおりである。A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>、A<sup>4</sup>、U、Z<sup>1</sup>およびZ<sup>3</sup>について好ましいものは、実施形態1～25のいずれか1つに係る化合物の対

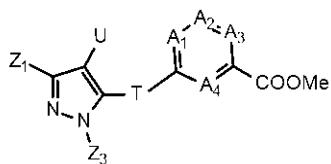
50

応する置換基について規定されている好ましいものと同じである。

【0112】

新規中間体の他の群は、式(III)

【化17】



10

(III)

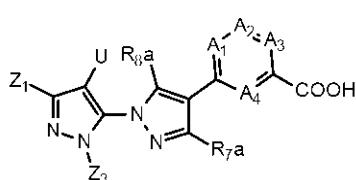
の化合物であり、式中、 $A^1$ 、 $A^2$ 、 $A^3$ 、 $A^4$ 、 $U$ 、 $Z^1$ および $Z^3$ は、実施形態1～25のいずれか1つにおいて定義されているとおりである。 $A^1$ 、 $A^2$ 、 $A^3$ 、 $A^4$ 、 $U$ 、 $Z^1$ および $Z^3$ について好ましいものは、実施形態1～25のいずれか1つに係る化合物の対応する置換基について規定されている好ましいものと同じである。

【0113】

新規中間体の一群は、式(IV)

【化18】

20



(IV)

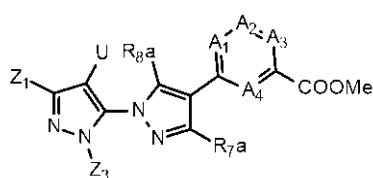
の化合物であり、式中、 $A^1$ 、 $A^2$ 、 $A^3$ 、 $A^4$ 、 $U$ 、 $R^{7a}$ 、 $R^{8a}$ 、 $Z^1$ および $Z^3$ は、実施形態1～25のいずれか1つにおいて定義されているとおりである。 $A^1$ 、 $A^2$ 、 $A^3$ 、 $A^4$ 、 $U$ 、 $R^{7a}$ 、 $R^{8a}$ 、 $Z^1$ および $Z^3$ について好ましいものは、実施形態1～25のいずれか1つに係る化合物の対応する置換基について規定されている好ましいものと同じである。

30

【0114】

新規な中間体の他の群は、式(V)

【化19】



40

(V)

の化合物であり、式中、 $A^1$ 、 $A^2$ 、 $A^3$ 、 $A^4$ 、 $U$ 、 $R^{7a}$ 、 $R^{8a}$ 、 $Z^1$ および $Z^3$ は、実施形態1～25のいずれか1つに定義されているとおりである。 $A^1$ 、 $A^2$ 、 $A^3$ 、 $A^4$ 、 $U$ 、 $R^{7a}$ 、 $R^{8a}$ 、 $Z^1$ および $Z^3$ について好ましいものは、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物の対応する置換基について好ましいと記載されたものと同じである。

【0115】

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物は、低い施用量でも有害生物防除の分野で予防的におよび／または治療的に有益な活性成分であり、これは、非常に好ましい殺生物スペクトルを有し、温血動物種、魚類および植物によって良好な耐容性を示される。

50

本発明に係る活性成分は、昆虫またはダニ目(*Acarina*)の代表例などの、通常の感受性の動物有害生物だけでなく、耐性がある動物有害生物の全てまたは個々の発育段階に対しても作用する。本発明に係る活性成分の殺虫または殺ダニ活性は、直接、すなわち、直ちにまたはいくらかの時間が経過してから初めて、例えば脱皮中に起こる有害生物の破壊として、または間接的に、例えば、減少した産卵および/または孵化率として現れることがある。

## 【0116】

上記の動物有害生物の例は以下のとおりである：

ダニ目(*Acarina*)から、例えば、アカリツス属(*Acalitus spp.*)、アカルス属(*Acarus spp.*)、アカリカルス属(*Acaricalus spp.*)、アセリア属(*Aceria spp.*)、アシブトコナダニ(*Acarus sirro*)、キララマダニ属(*Amblyomma spp.*)、ナガヒメダニ属(*Argas spp.*)、ウシマダニ属(*Boophilus spp.*)、ブレビバルパス属(*Brevipalpus spp.*)、ブリオビア属(*Bryobia spp.*)、カリビトリメルス属(*Calipitrimerus spp.*)、ショクヒヒゼンダニ属(*Chorioptes spp.*)、ワクモ(*Dermayssus gallinace*)、デルマトファゴイデス属(*Dermatophagooides spp.*)、エオテラニカス属(*Eotetranychus spp.*)、エリオフィエス属(*Eriophyes spp.*)、ヘミタルソネムス属(*Hemitarsonemus spp.*)、イボマダニ属(*Hyalomma spp.*)、タネガタマダニ属(*Ixodes spp.*)、オリゴニクス属(*Oligonychus spp.*)、カズキダニ属(*Ornithodoros spp.*)、ポリファゴタルソネ・ラタス(*Polyphagotarsone latus*)、パノニクス属(*Panonychus spp.*)、ミカンサビダニ(*Phyllocoptera oleivora*)、フィトネムス属(*Phytonemus spp.*)、ポリファゴタロソネムス属(*Polyphagotarsonemus spp.*)、キュウセンヒゼンダニ属(*Psoroptes spp.*)、コイタマダニ属(*Rhipicephalus spp.*)、リゾグリフス属(*Rhizoglyphus spp.*)、サルコプテス属(*Sarcopetes spp.*)、ステネオタルソネムス属(*Steneotaronemus spp.*)、ホコリダニ属(*Tarsonemus spp.*)およびテトラニクス属(*Tetranychus spp.*)；

シラミ目(*Anoplura*)から、例えば、ブタジラミ属(*Haematopinus spp.*)、リノグナツス属(*Linognathus spp.*)、ペディクリス属(*Pediculus spp.*)、ペムフィグス属(*Pemphigus spp.*)およびフィロキセラ属(*Phylloxera spp.*)；

鞘翅目(*Coleoptera*)から、例えば、アグリオテス属(*Agriotes spp.*)、アンフィマロン・マジャレ(*Amphimallon majale*)、セマダラコガネ(*Anomala orientalis*)、アントノムス属(*Anthonomus spp.*)、マグソコガネ属(*Aphodius spp.*)、アスチラス・アトロマクラタス(*Astylus atromaculatus*)、アテニウス属(*Ataenius spp.*)、アトマリア・リネアリス(*Atomaria linearis*)、カエトクネマ・チビアリス(*Chaetocnema tibialis*)、セロトマ属(*Cerotoma spp.*)、コノデルス属(*Conoderus spp.*)、コスマポリテス属(*Cosmopolites spp.*)、コチニス・ニチダ(*Cotinis nitida*)、クルクリオ属(*Curculio spp.*)、シクロセファラ属(*Cyclocephala spp.*)、デルメステス属(*Dermestes spp.*)、ジアブロチカ属(*Diabrotica spp.*)、アブデルスツノカブトムシ(*Diloboderus abderus*)、エピラクナ属(*Epilachna spp.*)、エレムヌス属(*Eremnus spp.*)、ヘテロニクス・アラトル(*Heteronychus arator*)、コーヒーノミキクイムシ(*Hypot* 50

*henemus hampei*)、ラグリア・フイロサ(*Lagria villosa*)、コロラドハムシ(*Leptinotarsa decemlineata*)、リッソルホプトルス属(*Lissorrhopterus spp.*)、リオゲニス属(*Liogenys spp.*)、マエコラスピス属(*Maecolaspis spp.*)、アカビロウドコガネ(*Maladera castanea*)、メガセルス属(*Megascelis spp.*)、メリゲテス・アエネウス(*Meligethes aeneus*)、メロロンタ属(*Melolontha spp.*)、マイオクロウス・アルマツス(*Myochrous armatus*)、オリカエフィルス属(*Orycaephilus spp.*)、オチオリンクス属(*Otiorrhynchus spp.*)、フィロファガ属(*Phyllophaga spp.*)、フリクチヌス属(*Phlyctinus spp.*)、ポピリア属(*Popillia spp.*)、シリオデス属(*Psylliodes spp.*)、リゾマツス・アウブチリス(*Rhyssomatus aubtilis*)、リゾペルタ属(*Rhizophorha spp.*)、コガネムシ科(*Scarabaeidae*)、シトフィルス属(*Sitophilus spp.*)、シトルガ属(*Sitotroga spp.*)、ソマチカス属(*Somaticus spp.*)、スフェノフォラス属(*Sphenophorus spp.*)、ステルネクススブ・シグナツス(*Sternechus subsignatus*)、ゴミムシダマシ属(*Tenebrio spp.*)、トリボリウム属(*Trifolium spp.*)およびトロゴデルマ属(*Trogoderma spp.*);

双翅目(Diptera)から、例えば、ヤブカ属(*Aedes spp.*)、ハマダラカ属(*Anopheles spp.*)、アンテリゴナ・ソカタ(*Antherigon a soccata*)、オリーブミバエ(*Bactrocea oleae*)、ビビオ・ホルツラヌス(*Bibio hortulanus*)、ブラジシア属(*Bradysia spp.*)、クロバエ(*Calliphora erythrocephala*)、セラチチス属(*Ceratitidis spp.*)、オビキンバエ属(*Chrysomyia spp.*)、イエカ属(*Culex spp.*)、クテレブラ属(*Cuterebra spp.*)、ダクス属(*Dacus spp.*)、デリア属(*Delia spp.*)、キイロショウジョウバエ(*Drosophila melanogaster*)、ヒメイエバエ属(*Fannia spp.*)、ガストロフィラス属(*Gastrophilus spp.*)、ゲオミザ・トリブンクタタ(*Geomyza tripunctata*)、ツェツエバエ属(*Glossina spp.*)、ヒフバエ属(*Hypoderma spp.*)、ヒッポボスカ属(*Hippobosca spp.*)、リリオミザ属(*Liriomyza spp.*)、キンバエ属(*Lucilia spp.*)、メラナグロミザ属(*Melanagromyza spp.*)、イエバエ属(*Musca spp.*)、ヒツジバエ属(*Oestrus spp.*)、オルセオリア属(*Orseolia spp.*)、キモグリバエ(*Oscinella frict*)、アカザモグリハナバエ(*Pegomyia hyoscyami*)、ホルビア属(*Phorbia spp.*)、ラゴレチス属(*Rhagoletis spp.*)、リベリア・クアドリファシアタ(*Rivelia quadrifasciata*)、スカテラ属(*Scatella spp.*)、キノコバエ属(*Sciara spp.*)、サシバエ属(*Stomoxys spp.*)、アブ属(*Tabanus spp.*)、タニア属(*Tannia spp.*)およびガガンボ属(*Tipula spp.*);

半翅目(Hemiptera)から、例えば、アカントコリス・スカブラトル(*Acanthocoris scabrador*)、アクロステルナム属(*Acrosternum spp.*)、ウススジカスミカメムシ(*Adelphocoris lineolatus*)、アンブリペルタ・ニチダ(*Amblypelta nitida*)、バチコエリア・タラシナ(*Bathycoelia thalassina*)、ブリサス属(*Bli ssus spp.*)、トコジラミ属(*Cimex spp.*)、クラビグララ・トメントシコリス(*Clavigralla tomentosicollis*)、クレオンチアデス属(*Creontiades spp.*)、ジスタンチエラ・テオブロマ(*Dist*

antiella theobroma)、ジケロプス・フルカツス (*Dichelops furcatus*)、ジスデルクス属 (*Dysdercus spp.*)、エデッサ属 (*Edessa spp.*)、ユーキスツス属 (*Euchistus spp.*)、ヒメナガメ (*Eurydema pulchrum*)、エウリガステル属 (*Eurygaster spp.*)、クサギカメムシ (*Halyomorpha halys*)、ホルシアス・ノビレルス (*Horcias nobilellus*)、レプトコリサ属 (*Leptocoris spp.*)、メクラカメムシ属 (*Lygus spp.*)、マルガロデス属 (*Margarodes spp.*)、ムルガンチア・ヒストリオニク (*Murgantia histrionica*)、ネオメガロトムス属 (*Neomegalotomus spp.*)、タバコカスミカメムシ (*Nesidiocoris tenuis*)、ネザラ属 (*Nezara spp.*)、ニシウス・シムランス (*Nysius simulanus*)、オエバルス・インスラリス (*Oebalus insularis*)、ピエスマ属 (*Piesma spp.*)、ピエゾドルス属 (*Piezodorus spp.*)、ロドニウス属 (*Rhodnius spp.*)、サールベルゲラ・シングラリス (*Sahlbergella singularis*)、スカプトコリス・カスタネア (*Scaptocoris castanea*)、スコチノファラ属 (*Scotinophara spp.*)、チアンタ属 (*Thyanta spp.*)、サシガメ属 (*Triatoma spp.*)、ヴァチガ・イルデンス (*Vatiga illudens*)；  
 アシルトシウム・ピスム (*Acyrthosium pisum*)、アダルゲス属 (*Adalges spp.*)、アガリアナ・エンシゲラ (*Agalliana ensigera*)、アゴノセナ・タルギオニイ (*Agonoscena targionii*)、アレウロジクス属 (*Aleurodicus spp.*)、アレウロカンツス属 (*Aleurocanthus spp.*)、アレウロロブス・バロデンシス (*Aleurolobus barodensis*)、アレウロトリクス・フロッコスス (*Aleurothrixus floccosus*)、アレイロデス・ブラシカエ (*Aleyrodes brassicae*)、フタテンミドリヨコバイ (*Amarasca biguttula*)、アムリトズス・アトキンソニ (*Amritodus atkinsoni*)、アノニジエラ属 (*Aonidiella spp.*)、アリマキ科 (*Aphididae*)、ワタアブラムシ属 (*Aphis spp.*)、アスピジオツス属 (*Aspidiotus spp.*)、ジャガイモヒゲナガアブラムシ (*Aulacorthum solani*)、バクテリセラ・コッケレリ (*Bactericera cockerelli*)、ベミシア属 (*Bemisia spp.*)、ブラキカウズス属 (*Brachycaudus spp.*)、ダイコンアブラムシ (*Brevicoryne brassicae*)、カコブシラ属 (*Cacopsylla spp.*)、ニンジンフタオアブラムシ (*Cavarieilla aegopodi Scop.*)、セロプラスター属 (*Ceroplastes spp.*)、クリソムファルス・アオニジウム (*Chrysomphalus aonidium*)、オンシツマルカイガラムシ (*Chrysomphalus dictyospermum*)、シカデラ属 (*Cicadella spp.*)、シロオオヨコバイ (*Cofana spectra*)、クリプトミズス属 (*Cryptomyzus spp.*)、シカデユリナ属 (*Cicadulina spp.*)、ヒラタカタカイガラムシ (*Coccus hesperidum*)、ダルブルス・マイジス (*Dalbulus maidis*)、ジアレウロデス属 (*Dialeurodes spp.*)、ミカンキジラミ (*Diaphorina citri*)、ジウラフィス・ノキシア (*Diuraphis noxia*)、ジサフィス属 (*Dysaphis spp.*)、エンポアスカ属 (*Empoasca spp.*)、リンゴワタムシ (*Eriosoma larigerum*)、エリスロネウラ属 (*Erythroneura spp.*)、ガスカルジア属 (*Gascardia spp.*)、グリカスピス・プリンプレコンベイ (*Glycaspis brimblecombei*)、ヒアダフィス・シュードブラシカエ (*Hyadaphis pseudo brassicae*)、ヒアロプテルス属 (*Hyalopterus spp.*)、ヒペロミズス・パリズス (*Hyperomyzus pallidus*)、リュウガンズキンヨ  
 10  
 20  
 30  
 40  
 50

コバイ (*Idioscopus clypealis*)、ヤコビアスカ・リビカ (*Jacobiasca lybica*)、ラオデルファクス属 (*Laodelphax spp.*)、ミズキカタカイガラムシ (*Lecanium corni*)、レピドサフェス属 (*Lepidosaphes spp.*)、ニセダイコンアブラムシ (*Lopaphis erysimi*)、リオゲニス・マイジス (*Lyogenys maidis*)、マクロシフム属 (*Macrosiphum spp.*)、マハナルヴァ属 (*Mahanarva spp.*)、メタカルファ・ブルイノサ (*Metcalfa pruinosa*)、ムギウスイロアブラムシ (*Metopolophium dirrhodum*)、ミンズス・クルズス (*Myndus crudus*)、ミズス属 (*Myzus spp.*)、ネオトキソプテラ属 (*Neotoxoptera spp.*)、ツマグロヨコバイ属 (*Nephrotix spp.*)、ニラバルバタ属 (*Nilaparvata spp.*)、ナシミドリオオアブラムシ (*Nippolachnus piri Mats*)、オドナスピス・ルタエ (*Odonaspis ruthae*)、オレグマ・ラニグラ・ゼンター (*Orgma lanigera Zehnter*)、ヤマモモコナジラミ (*Parabemisia myricae*)、パラトリオザ・コッケレリ (*Paratrioza cockerelli*)、パルラトリア属 (*Parlatoria spp.*)、ペムフィグス属 (*Pemphigus spp.*)、トウモロコシウンカ (*Peregrinus maidis*)、ペルキンシエラ属 (*Perkinsiella spp.*)、ホップイボアブラムシ (*Phorodon humuli*)、フィロキセラ属 (*Phylloxera spp.*)、プランコッカス属 (*Planococcus spp.*)、シューダウラカスピス属 (*Pseudaulacaspis spp.*)、シュードコッカス属 (*Pseudococcus spp.*)、ワタノミハムシ (*Pseudatomoscelis seriatus*)、ブシラ属 (*Psylla spp.*)、ブルビナリア・エチオピカ (*Pulvinaria aethiopica*)、クアドラズビジオツス属 (*Quadrastidiotus spp.*)、クエサダ・ギガス (*Quesada gigas*)、イナズマヨコバイ (*Recilia dorsalis*)、ロパロシフム属 (*Rhopalosiphum spp.*)、サイセチア属 (*Saissetia spp.*)、スカホイデウス属 (*Scaphoideus spp.*)、スチザフィス属 (*Schizaphis spp.*)、シトビオン属 (*Sitobion spp.*)、セジロウンカ (*Sogatella furcifera*)、スピシスチルス・フェスチヌス (*Spissistilus festinus*)、タロファガス・プロセルピナ (*Tarophagus Proserpina*)、トキソプテラ属 (*Toxoptera spp.*)、トリアレウロデス属 (*Trialeurodes spp.*)、トリジスカス・スポロボリ (*Tridiscus sporoboli*)、トリオニムス属 (*Trionymus spp.*)、ミカントガリキジラミ (*Triozahyoscyami*)、ニセヤノネカイガラムシ (*Unaspis citri*)、ジギナ・フラミゲラ (*Zygina flammigera*)、ジギニジア・スクテラリス (*Zyginiidia scutellaris*)；

膜翅目 (*Hymenoptera*) から、例えば、ヒメハキリアリ属 (*Acromyrmex*)、アルゲ属 (*Argus spp.*)、ハキリアリ属 (*Atta spp.*)、セフス属 (*Cephus spp.*)、ジプリオン属 (*Diprion spp.*)、マツハバチ科 (*Diprionidae*)、シマトウヒハバチ (*Gilpinia polytoma*)、ホプロカンパ属 (*Hoplocampa spp.*)、ケアリ属 (*Lasius spp.*)、イエヒメアリ (*Monomorium pharaonis*)、ネオジプリオン属 (*Neodiprion spp.*)、シュウカクアリ属 (*Pogonomyrmex spp.*)、スレノプシス・インビクタ (*Solenopsis invicta*)、ソレノブシス属 (*Solenopsis spp.*) およびベスパ属 (*Vespa spp.*)；

等翅目 (*Isoptera*) から、例えば、コプトテルメス属 (*Coptotermes spp.*)、コルニテルネス・クムランス (*Cornitermes cumulans*)

s)、インシシテルメス属(*Incisitermes spp.*)、マクロテルメス属(*Macrotermes spp.*)、マストテルメス属(*Mastotermes spp.*)、ミクロテルメス属(*Microtermes spp.*)、ヤマトシロアリ属(*Reticulitermes spp.*)；ソレノプシス・ゲミナテ(*Solenopsis geminata*)

鱗翅目(*Lepidoptera*)から、例えば、アクレリス属(*Acleris spp.*)、アドキソフィエス属(*Adoxophyes spp.*)、アエゲリア属(*Aegeria spp.*)、アグロティス属(*Agrotis spp.*)、アラバマ・アルギラセア(*Alabama argillacea*)、アミロイス属(*Amylois spp.*)、アンチカルシア・ゲマタリス(*Anticarsia gemmatalis*)、アルチップス属(*Archips spp.*)、アルギレスチア属(*Argyresthia spp.*)、アルギロタエニア属(*Argyrotaenia spp.*)、アウトグラファ属(*Autographa spp.*)、ブックラトリクス・ツルベリエラ(*Bucculatrix thurberella*)、アフリカズイム(*Busseola fusca*)、スジマラダメイガ(*Cadra cautella*)、モモシンクイガ(*Carposina nipponensis*)、チロ属(*Chilo spp.*)、コリストネウラ属(*Choristoneura spp.*)、クリソテウチア・トピアリア(*Chrysoteuchia topiaria*)、ブドウホソハマキ(*Clytia ambigua*)、クナファロクロシス属(*Cnaphalocrocis spp.*)、クネファシア属(*Cnephasia spp.*)、コチリス属(*Cochylis spp.*)、コレオフォラ属(*Coleophora spp.*)、コリアス・レスビア(*Colias lesbia*)、ワタアカキリバ(*Cosmophila flava*)、クラムバス属(*Crambus spp.*)、ケブカノメイガ(*Crocidolomia binotalis*)、クリプトフレビア・ロイコトレタ(*Cryptophlebia leucotreta*)、シダリマ・ペルスペクタリス(*Cydalima perspectalis*)、シジア属(*Cydia spp.*)、ジアファニア・ペルスペクタリス(*Diaphania perspectalis*)、ジアトラエア属(*Diatraea spp.*)、ジパロプシス・カスタネア(*Diparopsis castanea*)、エアリアス属(*Earias spp.*)、エルダナ・サッカリナ(*Eldana saccharina*)、エフェスチア属(*Ephestia spp.*)、エピノチア属(*Epinotia spp.*)、エスチグメネ・アクレア(*Estigmene acrea*)、エチエラ・ジンキネラ(*Etiella zinckinella*)、ユーコスマ属(*Eucosma spp.*)、ブドウホソハマキ(*Eupoecilia ambigua*)、ユープロクチス属(*Euproctis spp.*)、ユークソア属(*Euxoa spp.*)、フェルチア・ジャクリフェリア(*Feltia jaculifera*)、グラホリタ属(*Grapholita spp.*)、ヘディア・ヌビフェラナ(*Hedya nubiferana*)、ヘリオティス属(*Heliothis spp.*)、ハイマダラノメイガ(*Helicula undalis*)、ヘルペトグラマ属(*Herpetogramma spp.*)、アメリカシロヒトリ(*Hyphantria cunea*)、ケイフェリア・リコペルシセラ(*Keiferia lycopersicella*)、モロコシマダラメイガ(*Lasmopalpus lignosellus*)、レウコプテラ・シテラ(*Leucoptera scitella*)、リトコレチス属(*Lithocolethis spp.*)、ホソバヒメハマキ(*Lobesia botrana*)、ロキソステグ・ビフィダリス(*Loxostege bifidalis*)、リマントリア属(*Lymantria spp.*)、リオネチア属(*Lyonetia spp.*)、マラコソマ属(*Malacosoma spp.*)、ヨトウガ(*Mamestra brassicae*)、タバコスズメガ(*Manduca sexta*)、ミチムナ属(*Mythimna spp.*)、ノクトゥア属(*Noctua spp.*)、オペロフテラ属(*Operophtera spp.*)、オルニオデス・インディカ(*Orniodes indica*)、アワ

10

20

30

40

50

ノメイガ(*Ostrinia nubilalis*)、パメネ属(*Pammene* spp.)、パンデミス属(*Pandemis* spp.)、マツキリガ(*Panolis flammea*)、パパイペマ・ネブリス(*Papaipema nebris*)、ワタアカミムシ(*Pectinophora gossypiella*)、コーヒーハモグリバエ(*Perileucoptera coffeella*)、シューダレチア・ウニブンクタ(*Pseudaleitia unipuncta*)、ジャガイモガ(*Phthorimaea operculella*)、モンシロチョウ(*Pieris rapae*)、ピエリス属(*Pieris* spp.)、コナガ(*Plutella xylostella*)、ブレイス属(*Prays* spp.)、シードブルシア属(*Pseudoplusia* spp.)、ラキブルシア・ヌ(*Rachiplusia nu*)、リチア・アルビコスタ(*Richia albicosta*)、シルポファガ属(*Scirpophaga* spp.)、セサミア属(*Sesamia* spp.)、スバルガノチス属(*Sparaganothis* spp.)、スピドブテラ属(*Spodoptera* spp.)、シレブタ・デロガテ(*Sylepta derogata*)、シナンテドン属(*Synanthedon* spp.)、タウメトポエア属(*Thaumetopoea* spp.)、トルトリックス属(*Tortrix* spp.)、イラクサギンウワバ(*Trichoplusia ni*)、トマトキバガ(*Tuta absoluta*)、およびスガ属(*Yponomeuta* spp.);

食毛目(*Mallophaga*)から、例えば、ダマリネア属(*Damalinea* spp.)およびケモノハジラミ属(*Trichodectes* spp.);

直翅目(*Orthoptera*)から、例えば、ゴキブリ属(*Blatta* spp.)、チャバネゴキブリ属(*Blattella* spp.)、ケラ属(*Gryllota lpa* spp.)、マデラゴキブリ(*Leucophaea maderae*)、トノサマバッタ属(*Locusta* spp.)、ネオクルチラ・ヘキサダクチラ(*Neocurtilla hexadactyla*)、ワモンゴキブリ属(*Periplaneta* spp.)、スカプテリスカス属(*Scapteriscus* spp.)、およびコオロギ属(*Schistocerca* spp.);

チャタテムシ目(*Psocoptera*)から、例えば、リポセリス属(*Liposcelis* spp.);

ノミ目(*Siphonaptera*)から、例えば、ナガノミ属(*Ceratophyllus* spp.)、イヌノミ属(*Ctenocephalides* spp.)およびケオプスネズミノミ(*Xenopsylla cheopis*);

総翅目(*Thysanoptera*)から、例えば、カリオトリップス・ファセオリ(*Calliothrips phaseoli*)、ハナアザミウマ属(*Frankliniella* spp.)、ヘリオトリップス属(*Heliothrips* spp.)、ヘルシノトリップス属(*Hercinothrips* spp.)、パルテノトリップス属(*Parthenothrips* spp.)、シルトトリップス・アウランティ(*Scirtothrips aurantiii*)、ダイズアザミウマ(*Sericothrips variabilis*)、タエニオトリップス属(*Taeniothrips* spp.)、アザミウマ属(*Thrips* spp.);

シミ目(*Thysanura*)から、例えば、セイヨウシミ(*Lepisma saccharina*).

### 【0117】

本発明に係る活性成分は、特に植物、特に有用な植物および農業、園芸および森林における観賞植物、またはこのような植物の果実、花、葉、茎、塊茎または根などの器官において発生する上記のタイプの有害生物を防除、すなわち、抑制または破壊するのに使用され得、場合によっては、後の時点で形成される植物器官でさえ、これらの有害生物から保護されたままである。

### 【0118】

好適な標的作物は、特に、コムギ、オオムギ、ライムギ、オートムギ、イネ、トウモロ

10

20

30

40

50

コシまたはソルガムなどの穀物；テンサイまたは飼料用ビートなどのビート；果実、例えば、リンゴ、セイヨウナシ、プラム、モモ、アーモンド、サクランボまたは液果類、例えばイチゴ、ラズベリーまたはブラックベリーなどの、仁果類、核果類または柔らかい果物；インゲンマメ、レンズマメ、エンドウマメまたはダイズなどのマメ科作物；ナタネ、カラシナ、ケシ、オリーブ、ヒマワリ、ヤシ、ヒマ、カカオまたはアメリカホドイモ（ground nut）などの油脂作物；カボチャ、キュウリまたはメロンなどのウリ科植物；ワタ、アマ、麻またはジュートなどの纖維植物；オレンジ、レモン、グレープフルーツまたはタンジェリンなどの柑橘類の果物；ホウレンソウ、レタス、アスパラガス、キャベツ、ニンジン、タマネギ、トマト、ジャガイモまたはピーマンなどの野菜類；アボカド、シナモンまたはショウノウなどのクスノキ科（Lauraceae）の植物；およびさらにタバコ、堅果類、コーヒー、ナス、サトウキビ、茶、コショウ、ブドウ、ホップ、オオバコ科の植物、ラテックス植物および観賞植物である。10

## 【0119】

本発明に係る活性成分は、ワタ、野菜、トウモロコシ、イネおよびダイズ作物におけるマメアブラムシ（*Aphis craccivora*）、ディアブロチカ・バルテアタ（*Diabrotica balteata*）、ニセアメリカタバコガ（*Heliothis virescens*）、モモアカアブラムシ（*Myzus persicae*）、コナガ（*Plutella xylostella*）およびエジプトヨトウ（*Spodoptera littoralis*）を防除するのに特に好適である。本発明に係る活性成分は、さらに、マメストラ属（*Mamestra*）（好ましくは、野菜中）、コドリンガ（*Cydia pomonella*）（好ましくは、リンゴ中）、エンポアスカ属（*Empoasca*）（好ましくは、野菜、ブドウ園中）、レプチノタルサ属（*Leptinotarsa*）（好ましくは、ジャガイモ中）およびニカメイガ（*Chilo suppressalis*）（好ましくは、イネ中）を防除するのに特に好適である。20

## 【0120】

さらなる態様において、本発明は、植物寄生性線虫（内部寄生性、半内部寄生性および外部寄生性線虫）、特にネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウ（*Meloiodogyne hapla*）、サツマイモネコブセンチュウ（*Meloiodogyne incognita*）、ジャワネコブセンチュウ（*Meloiodogyne javanica*）、アレナリアネコブセンチュウ（*Meloiodogyne arenaria*）および他のメロイドギネ属（*Meloiodogyne*）種；シスト形成センチュウ、ジャガイモシストセンチュウ（*Globodera rostochiensis*）および他のグロボデラ属（*Globodera*）種；ムギシストセンチュウ（*Heterodera avenae*）、ダイズシストセンチュウ（*Heterodera glycines*）、テンサイシストセンチュウ（*Heterodera schachtii*）、クローバシストセンチュウ（*Heterodera trifolii*）、および他のヘテロデラ属（*Heterodera*）種；タネコブセンチュウ、アンギナ属（*Anguina*）種；クキセンチュウおよびハセンチュウ、アフェレンコイデス属（*Aphelenchoides*）種；刺毛センチュウ（*Sting nematode*）、ベロノライムス・ロンギカウダツス（*Belonolaimus longicaudatus*）および他のベロノライムス属（*Belonolaimus*）種；マツセンチュウ、マツノザイセンチュウ（*Bursaphelenchus xylophilus*）および他のバーサフェレンカス属（*Bursaphelenchus*）種；ワセンチュウ（*Ring nematode*）、クリコネマ属（*Criconema*）種、クリコネメラ属（*Criconemella*）種、クリコネモイデス属（*Criconemooides*）種、メソクリコネマ属（*Mesocriconema*）種；クキおよびリンケイセンチュウ、イモグサレセンチュウ（*Ditylenchus destructor*）、ナミクキセンチュウ（*Ditylenchus dipsaci*）および他のジチレンクス属（*Ditylenchus*）種；キリセンチュウ（*Awl nematode*）、ドリコドルス属（*Dolichodorus*）種；ラセンセンチュウ（*Spiral nematode*）、ヘリオコチレ304050

ンクス・マルチシンクツス (*Helioctylenchus multicinctus*) および他のヘリオコチレンクス属 (*Helicotylenchus*) 種；サヤセンチュウおよびサヤワセンチュウ (*Sheath and sheathoid nematode*)、ヘミシクリオホラ属 (*Hemicycliophora*) 種およびヘミクリコネモイデス属 (*Hemicriconemoides*) 種；ヒルスマニエラ属 (*Hirshmanniella*) 種；ヤリセンチュウ (*Lance nematode*)、ホプロライムス (*Hoploaimus*) 種；ニセネコブセンチュウ、ナコブス属 (*Nacobbus*) 種；ハリセンチュウ (*Needle nematode*)、ロンギドルス・エロンガツス (*Longidorus elongatus*) および他のロンギドルス属 (*Longidorus*) 種；ピンセンチュウ (*Pin nematode*)、プラチレンクス属 (*Pratylenchus*) 種；ネグサレセンチュウ (*Lesion nematode*)、ムギネグサレセンチュウ (*Pratylenchus neglectus*)、キタネグサレセンチュウ (*Pratylenchus penetrans*)、プラチレンクス・カービタツス (*Pratylenchus curvitatus*)、プラチレンクス・ゴオディ (*Pratylenchus goodeyi*) および他のプラチレンクス属 (*Pratylenchus*) 種；ネモグリセンチュウ (*Burrowing nematode*)、バナナネモグリセンチュウ (*Radopholus similis*) および他のラドホルス属 (*Radopholus*) 種；ニセフクロセンチュウ (*Reniform nematode*)、ロチレンクス・ロブスタス (*Rotylenchus robustus*)、ロチレンクス・レニフォルミス (*Rotylenchus reniformis*) および他のロチレンクス属 (*Rotylenchus*) 種；スクテロネマ属 (*Scutellonema*) 種；ミハリセンチュウ (*Stubby root nematode*)、トリコドルス・プリミチブス (*Trichodorus primitivus*) および他のトリコドルス属 (*Trichodorus*) 種、パラトリコドルス属 (*Paratrichodorus*) 種；イシュクセンチュウ (*Stunt nematode*)、ナミイシュクセンチュウ (*Tylenchorhynchus claytoni*)、チレンコリンクス・デュビウス (*Tylenchorhynchus dubius*) および他のチレンコリンクス属 (*Tylenchorhynchus*) 種；ミカンセンチュウ (*Citrus nematode*)、チレンクルス属 (*Tylenchulus*) 種；オオハリセンチュウ (*Dagger nematode*)、キシフィネマ属 (*Xiphinema*) 種などの植物寄生性線虫；ならびにスバンギナ属 (*Subanguina spp.*)、ヒプソペリン属 (*Hypsoperine spp.*)、マクロポストニア属 (*Macroposthonia spp.*)、メリニウス属 (*Melinius spp.*)、ブンクトデラ属 (*Punctodera spp.*)、およびキニスルシウス属 (*Quinquisulcious spp.*) などの他の植物寄生性線虫種による植物および植物の部分への被害を防除する方法にも関する。

#### 【0121】

実施形態 1 ~ 25 のいずれか 1 つに記載の化合物は、軟体動物に対しても活性を有し得る。軟体動物の例としては、例えば、スクミリンゴガイ科 (*Ampullariidae*)；アリオン属 (*Arion*) (コウラクロナメクジ (*A. ater*)、*A. サーカムスクリプツス* (*A. circumscriptus*)、*A. ホルテンシス* (*A. hortensis*)、*A. ルーファス* (*A. rufus*))；オナジマイマイ科 (*Bradybaenidae*) (ブラジバエナ・フルチクム (*Bradybaena fruticum*))；オウシュウマイマイ属 (*Cepaea*) (ニワノオウシュウマイマイ (*C. hortensis*)、モリマイマイ (*C. Nemoralis*))；オクロジナ (*Ochlodina*)；デロセラス属 (*Deroceras*) (D. アグレスチス (*D. agrestis*)、D. エムピリコルム (*D. empiricorum*)、D. ラエヴェ (*D. laeve*)、D. レチクラツム (*D. reticulatum*))；ディスクス属 (*Discus*) (D. ロツンダツス (*D. rotundatus*))；ユーオムファリア属 (*Euomphalia*)；ガルバ属 (*Galba*) (G. トルンクラタ (*G. trunc*

*ulata*) ; ヘリセリア属 (*Helicelia*) (*H. itala*) 、*H. obvia*) ; マイマイ科 (*Helicidae*) ヘリシゴナ・アルブストルム (*Helicigona arbustorum*) ; ヘリコディスクス属 (*Helicodiscus*) ; ヘリクス属 (*Helix*) (*H. aperta*) ; リマックス属 (*Limax*) (*L. cinereoniger*) 、キイロナメクジ (*L. flavus*) 、チャコウラナメクジ (*L. marginatus*) 、マダラコウラナメクジ (*L. maximus*) 、*L. tenellus*) ; モノアライガイ属 (*Lymnaea*) ; ミラックス属 (*Milax*) (*ニワコウラナメクジ* (*M. galathaea*) 、*M. marginatus*) 、*M. sowerbyi*) ; オペアス属 (*Opeas*) ; リンゴガイ属 (*Pomacea*) (スクミリンゴガイ (*P. canaliculata*) ) ; ミジンマイマイ属 (*Vallonia*) およびザニトイデス属 (*Zanitoides*) が挙げられる。  
10

## 【0122】

「作物」という用語は、例えば、毒素産生細菌、特にバチルス属 (*Bacillus*) の細菌に由来する公知のような1つまたは複数の選択的に作用する毒素を合成することができるよう、組み換えDNA技術の使用によって形質転換された作物も含むことが理解されるべきである。

## 【0123】

このようなトランスジェニック植物によって発現され得る毒素としては、例えば、セレウス菌 (*Bacillus cereus*) またはバチルス・ポピリエ (*Bacillus popilliae*) に由来する殺虫タンパク質；または - エンドトキシン、例えば *Cry1Ab*、*Cry1Ac*、*Cry1F*、*Cry1Fa2*、*Cry2Ab*、*Cry3A*、*Cry3Bb1* または *Cry9C* などの、バチルス・チューリングンシス (*Bacillus thuringiensis*) に由来する殺虫タンパク質、または植物性殺虫タンパク質 (*Vip*) 、例えば、*Vip1*、*Vip2*、*Vip3* または *Vip3A*；または細菌コロニー形成線虫、例えば、フォトラブダス・ルミネセンス (*Photorhabdus luminescens*) 、キセノラブダス・ネマトフィルス (*Xenorhabdus nematophilus*) などのフォトラブダス属 (*Photorhabdus spp.*) またはキセノラブダス属 (*Xenorhabdus spp.*) の殺虫タンパク質；サソリ毒素、クモ形類毒素、ハチ毒素および他の昆虫に特有の神経毒素などの、動物によって產生される毒素；ストレプトマイセス属 (*Streptomyces*) 毒素などの、真菌によって產生される毒素、エンドウレクチン、オオムギレクチンまたはユキノハナレクチンなどの植物レクチン；凝集素；トリプシン阻害剤、セリンプロテアーゼ阻害剤、パタチン、シスタチン、パパイン阻害剤などのプロティナーゼ阻害剤；リシン、トウモロコシ - RIP、アブリン、ルフィン、サボリンまたはブリオジンなどのリボソーム不活性化タンパク質 (RIP) ; 3 - ヒドロキシステロイドオキシダーゼ、エクジステロイド - UDP - グリコシル - トランスフェラーゼ、コレステロールオキシダーゼ、エクジソン阻害剤、HMG - COA - レダクターゼなどのステロイド代謝酵素、ナトリウムチャネルまたはカルシウムチャネルの遮断薬などのイオンチャネル遮断薬、幼若ホルモンエステラーゼ、利尿ホルモン受容体、スチルベンシンターゼ、ビベンジルシンターゼ、キチナーゼおよびグルカナーゼが挙げられる。  
20  
30  
40

## 【0124】

本発明に関して、 - エンドトキシンは、例えば *Cry1Ab*、*Cry1Ac*、*Cry1F*、*Cry1Fa2*、*Cry2Ab*、*Cry3A*、*Cry3Bb1* または *Cry9C* 、または植物性殺虫タンパク質 (*Vip*) 、例えば *Vip1*、*Vip2*、*Vip3* または *Vip3A* 、また、明確にハイブリッド毒素、切断毒素 (*truncated toxin*) および改变毒素によって理解される。ハイブリッド毒素は、それらのタンパク質の異なるドメインの新たな組合せによって組み換えにより產生される（例えば、国際公開第02 / 15701号を参照）。切断毒素、例えば、切断 *Cry1Ab* が公知である。改变毒素  
50

の場合、天然毒素の1つまたは複数のアミノ酸が置換される。このようなアミノ酸置換では、好ましくは、天然に存在しないプロテアーゼ認識配列が、毒素に挿入され、例えば、Cry3A055の場合、カテプシン-G-認識配列が、Cry3A毒素に挿入される（国際公開第03/018810号を参照）。

#### 【0125】

このような毒素またはこののような毒素を合成することが可能なトランスジェニック植物の例が、例えば、欧州特許出願公開第0374753号明細書、国際公開第93/07278号、国際公開第95/34656号、欧州特許出願公開第0427529号明細書、欧州特許出願公開第451878号明細書および国際公開第03/052073号に開示されている。10

#### 【0126】

このようなトランスジェニック植物の調製のための方法は、当業者に一般に知られており、例えば、上記の刊行物に記載されている。CryI型のデオキシリボ核酸およびそれらの調製が、例えば、国際公開第95/34656号、欧州特許出願公開第0367474号明細書、欧州特許出願公開第0401979号明細書および国際公開第90/13651号から公知である。10

#### 【0127】

トランスジェニック植物に含まれる毒素は、害虫に対する耐性を植物に与える。このような昆虫は、昆虫の分類群において見られるが、甲虫（鞘翅目（Coleoptera））、双翅昆虫（双翅目（Diptera））および蛾（鱗翅目（Lepidoptera））において特に一般的に見られる。20

#### 【0128】

殺虫剤耐性（insecticidal resistance）をコードし、1つまたは複数の毒素を発現する1つまたは複数の遺伝子を含むトランスジェニック植物が公知であり、それらのいくつかが市販されている。このような植物の例は、Yield Guard（登録商標）（Cry1Ab毒素を発現するトウモロコシ品種）；Yield Guard Rootworm（登録商標）（Cry3Bb1毒素を発現するトウモロコシ品種）；Yield Guard Plus（登録商標）（Cry1AbおよびCry3Bb1毒素を発現するトウモロコシ品種）；Starlink（登録商標）（Cry9C毒素を発現するトウモロコシ品種）；Herculex I（登録商標）（Cry1Fa2毒素、および除草剤グルホシネットアンモニウムに対する耐性を得るために酵素ホスフィノトリシンN-アセチルトランスフェラーゼ（PAT）を発現するトウモロコシ品種）；NuCOT N 33 B（登録商標）（Cry1Ac毒素を発現するワタ品種）；Bollgard I（登録商標）（Cry1Ac毒素を発現するワタ品種）；Bollgard II（登録商標）（Cry1AcおよびCry2Ab毒素を発現するワタ品種）；VipCot（登録商標）（Vip3AおよびCry1Ab毒素を発現するワタ品種）；NewLeaf（登録商標）（Cry3A毒素を発現するジャガイモ品種）；NatureGard（登録商標）、Agrisure（登録商標）GT Advantage（GA21グリホサート耐性形質）、Agrisure（登録商標）CB Advantage（Bt11アワノメイガ（CB）形質）およびProtecta（登録商標）である。3040

#### 【0129】

このようなトランスジェニック作物のさらなる例は以下のとおりである：

1. Syngenta Seeds SAS (Chemin de l'Hobit 27, F-31 790 St. Sauveur, France) 製のBt11トウモロコシ、登録番号C/FR/96/05/10。切断Cry1Ab毒素のトランスジェニック発現により、ヨーロッパアワノメイガ（アワノメイガ（Ostrinia nubilalis））およびセサミア・ノナグリオイデス（Sesamia nonagrioides）による攻撃に対する耐性を与えられた遺伝子組み換えトウモロコシ。Bt11トウモロコシは、除草剤グルホシネットアンモニウムに対する耐性を得るために酵素PATも遺伝子組み換えにより発現する。50

## 【0130】

2. Syngenta Seeds SAS (Chemin de l'Hobit 27, F-31 790 St. Sauveur, France) 製の Bt176 トウモロコシ、登録番号 C / FR / 96 / 05 / 10。Cry1Ab 毒素のトランスジェニック発現により、ヨーロッパアワノメイガ（アワノメイガ (*Ostrinia nubilalis*) およびセサミア・ノナグリオイデス (*Sesamia nonagrioides*)）による攻撃に対する耐性を与えた遺伝子組み換えトウモロコシ。Bt176 トウモロコシは、除草剤グルホシネットアンモニウムに対する耐性を得るために酵素 PAT も遺伝子組み換えにより発現する。

## 【0131】

3. Syngenta Seeds SAS (Chemin de l'Hobit 27, F-31 790 St. Sauveur, France) 製の MIR604 トウモロコシ、登録番号 C / FR / 96 / 05 / 10。改変 Cry3A 毒素のトランスジェニック発現により、耐虫性にされたトウモロコシ。この毒素は、カテプシン-G-プロテアーゼ認識配列の挿入によって修飾された Cry3A055 である。このようなトランスジェニックトウモロコシ植物の調製が、国際公開第 03/018810 号に記載されている。

## 【0132】

4. Monsanto Europe S.A. (270-272 Avenue de Tervuren, B-1150 Brussels, Belgium) 製の MON 863 トウモロコシ、登録番号 C / DE / 02 / 9。MON 863 は、Cry3Bb1 毒素を発現し、特定の鞘翅目 (Coleoptera) 昆虫に対する耐性を有する。

## 【0133】

5. Monsanto Europe S.A. (270-272 Avenue de Tervuren, B-1150 Brussels, Belgium) 製の IPC 531 ワタ、登録番号 C / ES / 96 / 02。

## 【0134】

6. Pioneer Overseas Corporation (Avenue Tedesco, 7 B-1160 Brussels, Belgium) 製の 1507 トウモロコシ、登録番号 C / NL / 00 / 10。特定の鱗翅目 (Lepidoptera) 昆虫に対する耐性を得るためにタンパク質 Cry1F および除草剤グルホシネットアンモニウムに対する耐性を得るために PAT タンパク質の発現のための遺伝子組み換えトウモロコシ。

## 【0135】

7. Monsanto Europe S.A. (270-272 Avenue de Tervuren, B-1150 Brussels, Belgium) 製の NK603 × MON 810 トウモロコシ、登録番号 C / GB / 02 / M3 / 03。遺伝子組み換え品種 NK603 および MON 810 を交配することによる従来法で育種した雑種トウモロコシ品種からなる。NK603 × MON 810 トウモロコシは、除草剤 Roundup (登録商標) (グリホサートを含有する) に対する耐性を有する、アグロバクテリウム属 (*Agrobacterium* sp.) 菌株 CP4 から得られるタンパク質 CP4 EPSPS、およびヨーロッパアワノメイガを含む特定の鱗翅目 (Lepidoptera) に対する耐性をもたらす、バチルス・チューリングンシス亜種クルスター (Bacillus thuringiensis subsp. kurstaki) から得られる Cry1Ab 毒素も遺伝子組み換えにより発現する。

## 【0136】

昆虫耐性植物のトランスジェニック作物は、BATS (Zentrum fuer Biosticherheit und Nachhaltigkeit, Zentrum BATS, Clarastrasse 13, 4058 Basel, Switzerland) Report 2003, (<http://bats.ch>) にも記載されている。

10

20

30

40

50

## 【0137】

「作物」という用語は、例えば、いわゆる「病原性関連タンパク質」(P R P、例えば、**、**欧州特許出願公開第0392225号明細書を参照)などの、選択的作用を有する抗病原性物質(*ant i pathogenic substance*)を合成することができるよう、組み換えDNA技術の使用によって形質転換された作物も含むことが理解されるべきである。このような抗病原性物質およびこのような抗病原性物質を合成することができるトランスジェニック植物の例が、例えば、**、**欧州特許出願公開第0392225号明細書、国際公開第95/33818号および欧州特許出願公開第0353191号明細書から公知である。このようなトランスジェニック植物を产生する方法は、当業者に一般に知られており、例えば、上記の刊行物に記載されている。

10

## 【0138】

作物はまた、真菌(例えば、フザリウム属(*Fusarium*)、炭疽病菌(*Anthracnose*)またはフィトフトラ属(*Phytophthora*))、細菌(例えば、シュードモナス属(*Pseudomonas*))またはウイルス(例えば、ジャガイモ葉巻き病ウイルス、トマト黄化壞疽ウイルス、キュウリモザイクウイルス)病原体に対する増強された耐性のために修飾され得る。

## 【0139】

作物はまた、ダイズシスト線虫などの線虫に対する増強された耐性を有するものを含む。

## 【0140】

無生物的なストレスに対して許容性である作物は、例えばN F - Y B または技術分野において公知である他のタンパク質の発現を介して、干ばつ、高度の塩、高温、低温、霜あるいは光放射に対する増強された許容性を有するものを含む。

20

## 【0141】

このようなトランスジェニック植物によって発現され得る抗病原性物質としては、例えば、ナトリウムチャネルまたはカルシウムチャネルの遮断薬などのイオンチャネル遮断薬、**、**例えばウイルス性K P 1、K P 4またはK P 6毒素；スチルベンシンターゼ；ビベンジルシンターゼ；キチナーゼ；グルカナーゼ；いわゆる「病原性関連タンパク質」(P R P；**、**欧州特許出願公開第0392225号明細書を参照)；微生物によって產生される抗病原性物質、**、**例えばペプチド抗生物質または複素環式抗生物質(例えば、国際公開第95/33818号を参照)または植物病原体防御に関与するタンパク質またはポリペプチド因子(国際公開第03/000906号に記載されている、いわゆる「植物病害抵抗性遺伝子」)が挙げられる。

30

## 【0142】

本発明に係る組成物のさらなる使用分野は、貯蔵品および貯蔵室の保護および原料(木材および織物など)、床仕上げ材および建築物の保護、および衛生分野において、特に上記のタイプの有害生物からのヒト、家畜および生産性家畜(*productive live stock*)の保護である。

## 【0143】

本発明は、有害生物(蚊および他の病原媒介動物など；[http://www.who.int/malaria/vector\\_control/irs/en/](http://www.who.int/malaria/vector_control/irs/en/)も参照)を防除するための方法も提供する。一実施形態において、有害生物を防除するための方法は、本発明の組成物を標的有害生物に、その生息地に、または表面もしくは基材にラテックス塗布、ローラ塗布、噴霧、塗布または浸漬によって施用する工程を含む。例として、壁、天井または床面などの表面のIRS(屋内残留噴霧)施用が、本発明の方法によって想定されている。別の実施形態において、このような組成物を網、衣類、寝具、カーテンおよびテントの形態(またはこれらの製造に使用され得る形態)の不織布または布帛材料などの基材に施用することが想定されている。

40

## 【0144】

別の実施形態において、このような有害生物を防除するための方法は、有効な残存性の

50

有害生物防除活性を表面または基材に与えるように、殺有害生物的に有効な量の本発明の組成物を標的有害生物に、その生息地に、または表面もしくは基材に施用する工程を含む。このような施用は、本発明の殺有害生物組成物をブラシ塗布、ローラ塗布、噴霧、塗布または浸漬することによって行われ得る。例として、壁、天井または床面などの表面におけるIRS施用は、有効な残存性の有害生物防除活性を表面に与えるように本発明の方法によって想定されている。別の実施形態において、網、衣類、寝具、カーテンおよびテントの形態（またはこれらの製造に使用され得る形態）の布帛材料などの基材における有害生物の残存性防除のためにこのような組成物を施用することが想定されている。

## 【0145】

処理されるべき不織布、布帛または網を含む基材は、綿、ラフィア、ジュート、亜麻、サイザル、麻布もしくは羊毛などの天然纖維、またはポリアミド、ポリエステル、ポリプロピレン、ポリアクリロニトリルなどの合成纖維で作製され得る。ポリエステルが特に好適である。織物処理の方法は、例えば、国際公開第2008/151984号、国際公開第2003/034823号、米国特許第5631072号明細書、国際公開第2005/64072号、国際公開第2006/128870号、欧州特許第1724392号明細書、国際公開第2005/113886号または国際公開第2007/090739号から公知である。

## 【0146】

本発明に係る組成物のさらなる使用分野は、全ての観賞用樹木ならびにあらゆる種類の果樹および堅果の成る木の樹幹注入／幹処理の分野である。

## 【0147】

樹幹注入／幹処理の分野において、本発明に係る化合物は、上記の鱗翅目（Lepidoptera）および鞘翅目（Coleoptera）の木材穿孔性（wood-boring）昆虫に対して、特に以下の表AおよびBに列挙される木材穿孔性昆虫（woodborer）に対して特に好適である。

## 【0148】

## 【表3】

表A.経済的に重要な外来ウッドボーラーの例。

科	種	寄生される宿主または作物	30
タマムシ科 (Buprestidae)	アオナガタマムシ ( <i>Agrilus planipennis</i> )	セイヨウトネリコ	
カミキリムシ科 (Cerambycidae)	アノブルラグラブリペニス ( <i>Anoplura glabripennis</i> )	広葉樹	
	サクキクイムシ ( <i>Xylosandrus crassiusculus</i> )	広葉樹	
キクイムシ科 (Scolytidae)	クスノオオキクイムシ ( <i>X. multilatus</i> )	広葉樹	40
	マツノキクイムシ ( <i>Tomicus piniperda</i> )	針葉樹	

## 【0149】

【表4-1】

表B.経済的に重要な自生ウッドボーラーの例。

科	種	寄生される宿主または作物	
	アグリルスアンキシウス ( <i>Agrilus anxius</i> )	カバノキ	
	アグリルスピリツス ( <i>Agrilus politus</i> )	ヤナギ、カエデ	10
	アグリルスサイ( <i>Agrilus sayi</i> )	ヤマモモ、オシダ	
	アグリルスピッタチコリス ( <i>Agrilus vittaticollis</i> )	リンゴ、セイヨウナシ、クランベリー、ナナカマドの実、サンザシ	
タマムシ科 (Buprestidae)	クリソボトリスフェモラタ ( <i>Chrysobothris femorata</i> )	リンゴ、アンズ、ブナ、トネリコ バカエデ、サクランボ、クリ、スグリ、ニレ、サンザシ、エノキ、 ヒッコリー、セイヨウトチノキ、 リンデン、カエデ、ローワン、オーク、 ペカン、セイヨウナシ、モモ、 カキ、セイヨウスモモ、ポプラ、 マルメロ、アメリカハナズオウ、 ナナカマドの実、スズカケノキ、 クルミ、ヤナギ	20
	テキサニアカンペストリス ( <i>Texania campestris</i> )	シナノキ、ブナ、カエデ、オーク、 スズカケノキ、ヤナギ、ユリノキ	
	ゴエスプルベルレンツス ( <i>Goes pulverulentus</i> )	ブナ、ニレ、ナッタール(Nuttall)、 ヤナギ、ブラックオーク(black oak)、アメリカキレハガシワ (Cherrybark oak)、ミズナラ、ス ズカケノキ	30
	ゴエスチグリヌス ( <i>Goes tigrinus</i> )	オーク	
カミキリムシ科 (Cerambycidae)	ネオクリツスアクミナツス ( <i>Neoclytus acuminatus</i> )	セイヨウトネリコ、ヒッコリー、 オーク、クルミ、カバノキ、ブナ、 カエデ、イースタンホップホーン ビーン(Eastern hophornbeam)、 ハナミズキ、カキ、アメリカハナ ズオウ、セイヨウヒイラギ、エノ キ、黒色イナゴ、アメリカサイカ チ、ユリノキ、クリ、オーセージ オレンジ、サッサフラス、ライラ ック、マウンテンマホガニー、セ イヨウナシ、サクランボ、セイヨ ウスモモ、モモ、リンゴ、ニレ、	40

【表4-2】

		シナノキ、モミジバフウ
ネオブチコデストリリネツス ( <i>Neoptychodes trilineatus</i> )	イチジク、ハンノキ、クワ、ヤナギ、ネタリーフハックベリー (Netleaf hackberry)	
オベレアオセラータ( <i>Oberea ocellata</i> )	ヌルデ、リンゴ、モモ、セイヨウスモモ、セイヨウナシ、スグリ、セイヨウヤブイチゴ	10
オベレアトリプンクタータ ( <i>Oberea tripunctata</i> )	ハナミズキ、ガマズミ属 (Viburnum)、ニレ、サワーウッド、ブルーベリー、ツツジ属 (Rhododendron)、アザレア、月桂樹、ポプラ、ヤナギ、クワ	
オンシデレスシングラータ ( <i>Oncideres cingulata</i> )	ヒッコリー、ペカン、カキ、ニレ、サワーウッド、シナノキ、アメリカサイカチ、ハナミズキ、ユーカリ属、オーク、エノキ、カエデ、果樹	20
サペルダカルカラタ( <i>Saperda calcarata</i> )	ポプラ	
ストロフィオナニテンス ( <i>Strophiona nitens</i> )	クリ、オーク、ヒッコリー、クルミ、ブナ、カエデ	
コルチルスコルンビアヌス ( <i>Corthylus columbianus</i> )	カエデ、オーク、ユリノキ、ブナ、トネリコバカエデ、スズカケノキ、カバノキ、シナノキ、クリ、ニレ	30
デンドロクトヌスフロンタリス ( <i>Dendroctonus frontalis</i> )	マツ	
ドリオコエテスベツラエ ( <i>Dryocoetes betulae</i> )	カバノキ、モミジバフウ、セイヨウミザクラ、ブナ、セイヨウナシ	
モナルトルムファスシアツム ( <i>Monarthrum fasciatum</i> )	オーク、カエデ、カバノキ、クリ、モミジバフウ、ヌマミズキ、ポプラ、ヒッコリー、ミモザ、リンゴ、モモ、マツ	
キクイムシ科 (Scolytidae)		40
フロエオトリブシリミナリス ( <i>Phloeotribus liminaris</i> )	モモ、サクランボ、セイヨウスモモ、アメリカザクラ、ニレ、クワ、ローワン	
シュードピチオフトルスブルイ ノスス ( <i>Pseudopityophthorus pruinosis</i> )	オーク、アメリカブナ、アメリカザクラ、チックソープラム (Chickasaw plum)、クリ、カエデ、ヒッコリー、クマシデ、アサダ	

## 【表4-3】

スカシバガ科 (Sesiidae)	パラントレネシムランス オーク、アメリカグリ ( <i>Paranthrene simulans</i> )	
	サンニナウロセリフォルミス カキ ( <i>Sannina uroceriformis</i> )	
	シナンテドンエキシチオサ モモ、セイヨウスモモ、ネクタリン、サクランボ、アンズ、アーモンド、アメリカザクラ	10
	シナンテドンピクチペス モモ、セイヨウスモモ、サクランボ、ブナ、アメリカザクラ	
	シナンテドンルプロファスシア アメリカヌマミズキ ( <i>Synanthedon rubrofascia</i> )	
シナントレネシムランス ハナミズキ、ペカン、ヒッコリー、 ( <i>Paranthrene simulans</i> )	シナントレネシムランス ハナミズキ、ペカン、ヒッコリー、 ( <i>Paranthrene simulans</i> )	
	シナンテドンシツラ ハナミズキ、ペカン、ヒッコリー、 ( <i>Synanthedon scitula</i> )	20
	シナンテドンシツラ ハナミズキ、ペカン、ヒッコリー、 ( <i>Synanthedon scitula</i> )	
ビタセアポリスチフォルミス ブドウ ( <i>Vitacea polistiformis</i> )	シナントレネシムランス ハナミズキ、ペカン、ヒッコリー、 ( <i>Paranthrene simulans</i> )	
	シナントレネシムランス ハナミズキ、ペカン、ヒッコリー、 ( <i>Paranthrene simulans</i> )	

## 【0150】

衛生分野において、本発明に係る組成物は、カタダニ(hard tick)、ヒメダニ(soft tick)、疥癬ダニ、ツツガムシ、ハエ(サシバエおよび舐性(licking))のハエ)、寄生性のハエ幼虫、シラミ、ケジラミ、ハジラミおよびノミなどの外部寄生生物に対して有効である。

30

## 【0151】

このような寄生生物の例は以下のとおりである：

シラミ目(Anoplurida)のうち：ブタジラミ属(Haematopinus spp.)、ホソジラミ属(Linognathus spp.)、ペディクルス属(Pediculus spp.)およびケジラミ属(Phthirus spp.)、ソレノポテス属(Solenopotes spp.)。

## 【0152】

ハジラミ目(Mallopida)のうち：トリメノポン属(Trimenopon spp.)、タンカクハジラミ属(Menopon spp.)、トリノトン属(Trinoton spp.)、ボビコラ属(Bovicola spp.)、ウェルネッキエラ属(Werneckeella spp.)、レピケントロン属(Lepikentron spp.)、ダマリナ属(Damalina spp.)、トリコデクテス属(Trichodectes spp.)およびフェリコラ属(Felicola spp.)。

40

## 【0153】

双翅目(Diptera)ならびにその亜目であるネマトセリナ亜目(Nematocerina)および短角亜目(Brachycerina)のうち、例えば、ヤブカ属(Aedes spp.)、ハマダラカ属(Anopheles spp.)、イエカ属(Culex spp.)、ブヨ属(Simulium spp.)、ツノマユブユ属(Eusimulium spp.)、サシチョウバエ属(Phlebotomus spp.)

50

. )、ルツオミヤ属 (*Lutzomyia* spp.)、キュリコイデス属 (*Culicoides* spp.)、メクラアブ属 (*Chrysops* spp.)、ヒボミトラ属 (*Hybomitra* spp.)、キイロアブ属 (*Atylotus* spp.)、アブ属 (*Tabanus* spp.)、ゴマフアブ属 (*Haematopota* spp.)、フィリポミア属 (*Philipomyia* spp.)、ブラウラ属 (*Braula* spp.)、イエバエ属 (*Musca* spp.)、トゲアシメタトイ属 (*Hydrotaea* spp.)、サシバエ属 (*Stomoxyx* spp.)、ヘマトビア属 (*Haematobia* spp.)、モレリア属 (*Morellia* spp.)、ヒメイエバエ属 (*Fannia* spp.)、ツェツエバエ属 (*Glossina* spp.)、オオクロバエ属 (*Calliphora* spp.)、キンバエ属 (*Lucilia* spp.)、オビキンバエ属 (*Chrysomyia* spp.)、ヴォールファールトニクバエ属 (*Wohlfahrtia* spp.)、ニクバエ属 (*Sarcophaga* spp.)、ヒツジバエ属 (*Oestrus* spp.)、ウシバエ属 (*Hypoderma* spp.)、ウマバエ属 (*Gasterophilus* spp.)、シラミバエ属 (*Hippobosca* spp.)、シカシラミバエ属 (*Lipoptena* spp.) およびヒツジシラミバエ属 (*Melophagus* spp.)。 10

#### 【0154】

ノミ目 (*Siphonapterida*) のうち、例えば、ヒトノミ属 (*Pulex* spp.)、イヌノミ属 (*Ctenocephalides* spp.)、ネズミノミ属 (*Xenopsylla* spp.)、ナガノミ属 (*Ceratophyllus* spp.)。 20

#### 【0155】

異翅目 (*Heteroptera*) のうち、例えば、トコジラミ属 (*Cimex* spp.)、サシガメ属 (*Triatomata* spp.)、ロドニウス属 (*Rhodnius* spp.)、パンストロギルス属 (*Panstrongylus* spp.)。

#### 【0156】

ゴキブリ目 (*Blattaria*) のうち、例えば、トウヨウゴキブリ (*Blatta orientalis*)、ワモンゴキブリ (*Periplaneta americana*)、チャバネゴキブリ (*Blattellagermanica*) およびスペラ属 (*Supella* spp.)。 30

#### 【0157】

ダニ亜綱 (*Acaria* (*Acarida*)) ならびにマダニ亜目 (*Metastigmata*) および中気門亜目 (*Mesostigmata*) のうち、例えば、ナガヒメダニ属 (*Argas* spp.)、カズキダニ属 (*Ornithodoros* spp.)、オトビウス属 (*Otobius* spp.)、タネガタマダニ属 (*Ixodes* spp.)、キララマダニ属 (*Amblyomma* spp.)、ウシマダニ属 (*Boophilus* spp.)、カクマダニ属 (*Dermacentor* spp.)、チマダニ属 (*Haemophysalis* spp.)、イボマダニ属 (*Hyalomma* spp.)、コイタマダニ属 (*Rhipicephalus* spp.)、デルマニスス属 (*Dermanyssus* spp.)、ライリエチア属 (*Raiillietia* spp.)、ニューモニスス属 (*Pneumonyssus* spp.)、ステルノストマ属 (*Sternostoma* spp.) およびバロア属 (*Varroa* spp.)。 40

#### 【0158】

ダニ目 (*Actinedida*) (前気門類 (*Prostigmata*)) およびカイチュウ目 (*Acaridida*) (コナダニ亜目 (*Astigmata*)) のうち、例えば、アカラピス属 (*Acarapis* spp.)、ツメダニ属 (*Cheyletiella* spp.)、オルニソケイレチア属 (*Ornithochyletia* spp.)、ミオビア属 (*Myobia* spp.)、ヒツジツメダニ属 (*Psorergates* spp.)、ニキビダニ属 (*Demodex* spp.)、ツツガムシ属 (*Trombicula* spp.)、リストロホルス属 (*Listrophorus* spp.) 50

、コナダニ属 (*Acarus spp.*)、チロファグス属 (*Tyrophagus spp.*)、ゴミコナダニ属 (*Caloglyphus spp.*)、ヒポデクテス属 (*Hypodectes spp.*)、ブテロリクス属 (*Pterolichus spp.*)、キュウセンヒゼンダニ属 (*Psoroptes spp.*)、ショクヒヒゼンダニ属 (*Chorioptes spp.*)、ミニヒゼンダニ属 (*Otodectes spp.*)、ヒゼンダニ属 (*Sarcopotes spp.*)、ショウセンコウヒゼンダニ属 (*Notoedres spp.*)、クネミドコプテス属 (*Knemidocoptes spp.*)、シトジテス属 (*Cytodites spp.*) およびラミノシオプテス属 (*Laminozioptes spp.*)。

## 【0159】

10

本発明に係る組成物はまた、木材、織物、プラスチック、接着剤、のり、塗料、紙および厚紙、皮革、床仕上げ材および建築物などの材料の場合、昆虫の寄生から保護するのに好適である。

## 【0160】

本発明に係る組成物は、例えば、以下の有害生物に対して使用され得る：ヨーロッパイエカミキリ (*Hylobius bajulus*)、クロロホルス・ピロシス (*Chlorophorus pilosissimus*)、アノビウム・ブンクタツム (*Anobium punctatum*)、キセストビウム・ルホビロスム (*Xestobium rufillosum*)、ブチリヌスペクチコルニス (*Ptilinus suspectus*)、デンドロビウム・ペルチネクス (*Dendrobiumpertinax*)、マツザイシバンムシ (*Ernobius mollis*)、オオナガシバンムシ (*Prionium carpini*)、ヒラタキクイムシ (*Lyctus brunneus*)、アフリカヒラタキクイムシ (*Lyctus africanus*)、アメリカヒラタキクイムシ (*Lyctus planicollis*)、ナラヒラタキクイムシ (*Lyctus linearis*)、リクトス・ブベセンス (*Lyctus pubescens*)、トロゴキシロン・エクアレ (*Trogoxylon aequale*)、ミンテスルギコリス (*Minthesrugicollis*)、キシリボルス属種 (*Xyleborus spec.*)、トリプトデンドロン属種 (*Trypodesdendron spec.*)、アパテ・モナクス (*Apate monachus*)、ボストリクス・カブシニス (*Bostrychus capucinus*)、ヘテロボストリクス・ブルンネウス (*Heterobostrychus brunneus*)、シノキシロン属種 (*Sinoxylon spec.*) およびチビタケナガシンクイムシ (*Dinoderus minutus*) などの甲虫、ならびにさらにコルリキバチ (*Sirex juvencus*)、モミノオオキバチ (*Urocerus gigas*)、ウロセルス・ギガス・タイグヌス (*Urocerus gigas taignus*) およびウロセルス・アウグル (*Urocerus augur*) などの膜翅類の昆虫 (*hymenopteran*)、ならびにカロテルメス・フラヴィコリス (*Kalotermes flavicollis*)、ニシインドカンザイシロアリ (*Cryptotermes brevis*)、ヘテロテルメス・インディコラ (*Heterotermes indicola*)、キアシシロアリ (*Reticulitermes flavipes*)、レティクリテルメス・サントネンシス (*Reticulitermes santonensis*)、レティキユリテルメス・ルシフグス (*Reticulitermes lucifugus*)、ムカシシロアリ (*Mastotermes darwiniensis*)、ネバダオオシロアリ (*Zootermopsis nevadensis*) およびイエシロアリ (*Coptotermes formosanus*) などのシロアリ、ならびにセイヨウシミ (*Leptisma saccharina*) などのシミ。

## 【0161】

30

一態様において、従って、本発明はまた、乳剤、懸濁濃縮物、マイクロエマルション、油分散性の、直接噴霧可能または希釈可能な液剤、延展可能なペースト、希釈乳剤、可溶性粉剤、分散性粉剤、水和剤、ダスト剤 (*dust*)、粒剤またはポリマー物質中への封

40

50

入物などの殺有害生物組成物にも関し、殺有害生物組成物は、実施形態 1 ~ 2 5 のいずれか 1 つに記載の活性成分の - 少なくとも - 1 つを含み、意図される目的および一般的な状況に合わせて選択されるべきである。これらの組成物において、活性成分は、純粋な形態、例えば特定の粒度の固体活性成分として、または好ましくは、增量剤、例えば、溶媒または固体担体など、または表面活性化合物（界面活性剤）などの、製剤化の技術分野で通常使用される補助剤の - 少なくとも - 1 つと一緒に用いられる。

#### 【 0 1 6 2 】

好適な溶媒の例は、非水素化または部分的に水素化された芳香族炭化水素、好ましくは、キシレン混合物、アルキル化ナフタレンまたはテトラヒドロナフタレンなどのアルキルベンゼンの C<sub>8</sub> ~ C<sub>12</sub> 留分、パラフィンまたはシクロヘキサンなどの脂肪族または脂環式炭化水素、エタノール、プロパノールまたはブタノール、グリコールなどのアルコールならびにプロピレングリコール、ジプロピレングリコールエーテル、エチレングリコールまたはエチレングリコールモノメチルエーテルまたはエチレングリコールモノエチルエーテルなどの、それらのエーテルおよびエステル、シクロヘキサン、イソホロンまたはジアセトンアルコールなどのケトン、N - メチルピロリド - 2 - オン、ジメチルスルホキシドまたは N , N - ジメチルホルムアミドなどの強い極性の溶媒、水、非エポキシ化またはエポキシ化またはエポキシ化植物油である。

#### 【 0 1 6 3 】

例えば、ダスト剤および分散性粉剤に使用される固体担体は、一般に、方解石、タルク、カオリン、モンモリロナイトまたはアタバランジャイトなどの粉碎された天然鉱物である。物理的特性を向上させるために、高度に分散したシリカまたは高度に分散した吸収性ポリマーを加えることも可能である。粒剤のための好適な粒子状吸着性担体は、軽石、レンガ砂（brick grit）、海泡石またはベントナイトなどの多孔質型であり、好適な非吸収性担体材料は、方解石または砂である。さらに、多くの無機性または有機性の粒状材料、特にドロマイトまたは粉碎した植物残渣が使用され得る。

#### 【 0 1 6 4 】

好適な表面活性化合物は、製剤化される活性成分のタイプに応じて、良好な乳化、分散および湿潤特性を有する非イオン性、カチオン性および / またはアニオン界面活性剤あるいは界面活性剤混合物である。後述される界面活性剤は、例としてみなされるに過ぎず；製剤化の技術分野において通常使用され、および本発明に従って好適な多くのさらなる界面活性剤が、関連文献に記載されている。

#### 【 0 1 6 5 】

好適な非イオン性界面活性剤は、特に脂肪族または脂環式アルコールのポリグリコールエーテル誘導体、飽和または不飽和脂肪酸のポリグリコールエーテル誘導体、またはアルキルフェノールのポリグリコールエーテル誘導体であり、これは、約 3 ~ 約 30 個のグリコールエーテル基および約 8 ~ 約 20 個の炭素原子を（環状）脂肪族炭化水素基に含有し得、または約 6 ~ 約 18 個の炭素原子をアルキルフェノールのアルキル部分に含有し得る。アルキル鎖中の 1 ~ 約 10 個の炭素原子および約 20 ~ 約 250 個のエチレングリコールエーテル基および約 10 ~ 約 100 個のプロピレングリコールエーテル基を有する、ポリプロピレングリコール、エチレンジアミノポリプロピレングリコールまたはアルキルポリプロピレングリコールとの水溶性ポリエチレンオキシド付加物も好適である。通常、上記の化合物は、1 つのプロピレングリコール単位につき 1 ~ 約 5 つのエチレングリコール単位を含む。挙げられる例は、ノニルフェノキシポリエトキシエタノール、ヒマシ油ポリグリコールエーテル、ポリプロピレングリコール / ポリエチレンオキシド付加物、トリブチルフェノキシポリエトキシエタノール、ポリエチレングリコールまたはオクチルフェノキシポリエトキシエタノールである。ポリオキシエチレンソルビタントリオレエートなどのポリオキシエチレンソルビタンの脂肪酸エステルも好適である。

#### 【 0 1 6 6 】

カチオン性界面活性剤は、特に置換基として約 8 ~ 約 22 個の C 原子を有する少なくと

10

20

30

40

50

も 1 つのアルキル基およびさらなる置換基として（非ハロゲン化またはハロゲン化）低級アルキルまたはヒドロキシアルキルまたはベンジル基を一般に有する第四級アンモニウム塩である。塩は、好ましくは、ハロゲン化物、メチル硫酸塩またはエチル硫酸塩の形態である。例は、塩化ステアリルトリメチルアンモニウムおよび臭化ベンジルビス（2 - クロロエチル）エチルアンモニウムである。

#### 【 0 1 6 7 】

好適なアニオン界面活性剤の例は、水溶性の石けんまたは水溶性の合成表面活性化合物である。好適な石けんの例は、オレイン酸またはステアリン酸の、または例えば、ヤシ油またはトール油から得られる天然脂肪酸混合物のナトリウム塩またはカリウム塩などの、約 10 ~ 約 22 個の C 原子を有する脂肪酸のアルカリ金属塩、アルカリ土類金属塩または（非置換または置換）アンモニウム塩であり；脂肪酸メチルタウレートも挙げられるべきである。しかしながら、合成界面活性剤、特に脂肪族スルホネート、脂肪族サルフェート、スルホン酸化ベンズイミダゾール誘導体またはアルキルアリールスルホネートがより高い頻度で使用される。一般に、脂肪族スルホネートおよび脂肪族サルフェートは、アルカリ金属塩、アルカリ土類金属塩または（置換または非置換）アンモニウム塩として存在し、一般に、約 8 ~ 約 22 個の C 原子のアルキル基を有し、アルキルはまた、アシル基のアルキル部分を含むものと理解されるべきであり；その挙げられる例は、リグノスルホン酸の、ドデシル硫酸エステルのまたは天然の脂肪酸から調製される脂肪族アルコールサルフェート混合物のナトリウム塩またはカルシウム塩である。この基は、脂肪族アルコール／エチレンオキシド付加物の硫酸エステルおよびスルホン酸の塩も含む。スルホン酸化ベンズイミダゾール誘導体は、好ましくは、2 つのスルホニル基および約 8 ~ 約 22 個の C 原子の脂肪酸基を含む。アルキルアリールスルホネートの例は、デシルベンゼンスルホン酸の、ジブチルナフタレンスルホン酸のまたはナフタレンスルホン酸／ホルムアルデヒド縮合物のナトリウム塩、カルシウム塩またはトリエタノールアンモニウム塩である。さらに、p - ノニルフェノール／(4 - 14) エチレンオキシド付加物のリン酸エステル、またはリン脂質の塩などの好適なホスフェートも可能である。

#### 【 0 1 6 8 】

一般に、組成物は、0 . 1 ~ 9 9 %、特に 0 . 1 ~ 9 5 % の活性成分および 1 ~ 9 9 . 9 %、特に 5 ~ 9 9 . 9 % の少なくとも 1 つの固体または液体補助剤を含み、組成物のうちの、一般に、0 ~ 2 5 %、特に 0 . 1 ~ 2 0 % が、界面活性剤であることが可能である（% はそれぞれ重量パーセントを意味する）。濃縮された組成物が、商品として好まれる傾向があるが、最終消費者は、一般に、かなり低い濃度の活性成分を有する希釀組成物を使用する。

#### 【 0 1 6 9 】

典型的に、葉面施用のためのプレミックス製剤は、0 . 1 ~ 9 9 . 9 %、特に 1 ~ 9 5 % の所望の成分、および 9 9 . 9 ~ 0 . 1 %、特に 9 9 ~ 5 % の固体または液体補助剤（例えば、水などの溶媒を含む）を含み、助剤は、プレミックス製剤を基準にして、0 ~ 5 0 %、特に 0 . 5 ~ 4 0 % の量の界面活性剤であり得る。

#### 【 0 1 7 0 】

通常、種子処理施用のためのタンクミックス製剤は、0 . 2 5 ~ 8 0 %、特に 1 ~ 7 5 % の所望の成分、および 9 9 . 7 5 ~ 2 0 %、特に 9 9 ~ 2 5 % の固体または液体助剤（例えば、水などの溶媒を含む）を含み、助剤は、タンクミックス製剤を基準にして、0 ~ 4 0 %、特に 0 . 5 ~ 3 0 % の量の界面活性剤であり得る。

#### 【 0 1 7 1 】

典型的に、種子処理施用のためのプレミックス製剤は、0 . 5 ~ 9 9 . 9 %、特に 1 ~ 9 5 % の所望の成分、および 9 9 . 5 ~ 0 . 1 %、特に 9 9 ~ 5 % の固体または液体補助剤（例えば、水などの溶媒を含む）を含み、助剤は、プレミックス製剤を基準にして、0 ~ 5 0 %、特に 0 . 5 ~ 4 0 % の量の界面活性剤であり得る。

#### 【 0 1 7 2 】

市販の製品は、好ましくは、濃縮物（例えば、プレミックス組成物（製剤））として製

10

20

30

40

50

剤化されるであろうが、最終使用者は、通常、希釈製剤（例えば、タンクミックス組成物）を用いるであろう。

【0173】

好ましい種子処理プレミックス製剤は、水性懸濁濃縮物である。この製剤は、流動床技術、ローラーミル法、ロトスタティック種子処理機（rotostatic seed treater）、およびドラムコーティング機（drum coaters）などの、従来の処理技術および機械を用いて種子に施用され得る。噴流床などの他の方法も有用であり得る。種子は、塗布の前に予め分級され得る。塗布の後、種子は、典型的に、乾燥され、次に分級のために分級機に移される。このような手順は、当該技術分野において公知である。

【0174】

一般に、本発明のプレミックス組成物は、0.5～99.9、特に1～95、有利には、1～50質量%の所望の成分、および99.5～0.1、特に99～5質量%の固体または液体補助剤（例えば、水などの溶媒を含む）を含有し、助剤（または補助剤）は、プレミックス製剤の質量を基準にして、0～50、特に0.5～40質量%の量の界面活性剤であり得る。

【0175】

プレミックス組成物用の茎葉製剤タイプの例は、以下のとおりである：

G R : 粒剤

W P : 水和剤

W G : 水和性顆粒（粉剤）

20

S G : 水溶性粒剤

S L : 可溶濃縮剤

E C : 乳化性濃縮物

E W : 水中油乳剤

M E : マイクロエマルション

S C : 水性懸濁濃縮物

C S : 水性カプセル懸濁剤

O D : 油系懸濁濃縮物、および

S E : 水性サスペンション（suspension）。

【0176】

30

一方、プレミックス組成物用の種子処理製剤タイプの例は、以下のとおりである：

W S : 種子処理スラリー用の水和剤

L S : 種子処理用の液剤

E S : 種子処理用の乳剤

F S : 種子処理用の懸濁濃縮物

W G : 水和性顆粒、および

C S : 水性カプセル懸濁剤。

【0177】

タンクミックス（tank-mix）組成物に好適な製剤タイプの例は、液剤、希釈乳剤、懸濁剤、またはそれらの混合物、およびダスト剤である。

40

【0178】

好ましい組成物は、特に以下のように構成される（% = 重量パーセント）。

乳剤：

活性成分：1～95%、好ましくは、5～20%

界面活性剤：1～30%、好ましくは、10～20%

溶媒：5～98%、好ましくは、70～85%

【0179】

ダスト剤：

活性成分：0.1～10%、好ましくは、0.1～1%

固体担体：99.9～90%、好ましくは、99.9～99%

50

## 【0180】

懸濁濃縮物：

活性成分：5～75%、好ましくは、10～50%

水：94～24%、好ましくは、88～30%

界面活性剤：1～40%、好ましくは、2～30%

## 【0181】

水和剤：

活性成分：0.5～90%、好ましくは、1～80%

界面活性剤：0.5～20%、好ましくは、1～15%

固体担体：5～99%、好ましくは、15～98%

10

## 【0182】

粒剤：

活性成分：0.5～30%、好ましくは、3～15%

固体担体：99.5～70%、好ましくは、97～85%

## 【実施例】

## 【0183】

実施形態1に係る以下の化合物は、本明細書に記載の方法または公知の方法に従って調製され得る。

## 【0184】

実験

20

以下の実施例は本発明の例示を意図しており、限定的であると解釈されるべきではない。

## 【0185】

「Mp」は融点( )を意味する。<sup>1</sup>H NMR測定をBrucker 400MHz 分光計で記録し、化学シフトを、TMS標準を基準としてppmで示す。示されるようにスペクトルを重溶媒中で測定した。

## 【0186】

LC MS法A：標準：

エレクトロスプレーソース(極性：陽イオンまたは陰イオン、キャピラリ：3.00kV、コーン範囲：30～60V、抽出器：2.00V、ソース温度：150、脱溶剤温度：350、コーンガス流：0L/Hr、脱溶剤ガス流：650L/Hr、質量範囲：100～900Da)およびWaters製のAcuity UPLC：バイナリポンプ、被加熱カラムコンパートメントおよびダイオード-アレイ検出器を備えたWaters製の質量分光計(SQDまたはZQシングル四重極型質量分析計)でスペクトルを記録した。溶剤デガッサ、バイナリポンプ、被加熱カラムコンパートメントおよびダイオード-アレイ検出器。カラム：Waters UPLC HSS T3、1.8μm、30×2.1mm、温度：60、DAD波長範囲(nm)：210～500、溶剤勾配：A=水+5% MeOH +0.05% HCOOH、B=アセトニトリル+0.05% HCOOH：勾配：勾配：0分間0%のB、100%のA；1.2～1.5分間100%のB；流量(ml/min)0.85。

30

## 【0187】

LC MS法B：標準長：

エレクトロスプレー源(極性：正イオンまたは負イオン、キャピラリ：3.00kV、コーン範囲：30～60V、抽出装置：2.00V、イオン源温度：150、脱溶媒和温度：350、コーンガス流：0L/時、脱溶媒和ガス流：650L/時、質量範囲：100～900Da)を備えたWaters製の質量分析計(SQDまたはZQシングル四重極質量分析計)およびWaters製のAcuity UPLC：バイナリポンプ、加熱されるカラムコンパートメントおよびダイオードアレイ検出装置で、スペクトルを記録した。溶媒脱ガス装置、バイナリポンプ、加熱されるカラムコンパートメントおよびダイオードアレイ検出装置。カラム：Waters UPLC HSS T3、1.8μ

40

50

m、 $30 \times 2.1\text{ mm}$ 、温度：60、DAD波長範囲(nm)：210～500、溶媒勾配：A = 水 + 5%のMeOH + 0.05%のHCOOH、B = アセトニトリル + 0.05%のHCOOH：勾配：勾配：0分間0%のB、100%のA；1.2～1.5分間100%のB；流量(mL/min)0.85。

## 【0188】

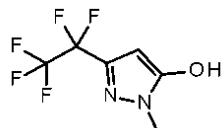
LC-MS法C：非偏極：

エレクトロスプレーソース(極性：陽イオンまたは陰イオン、キャピラリ：3.00kV、コーン範囲：30～60V、抽出器：2.00V、ソース温度：150、脱溶剤温度：350、コーンガス流：0L/hr、脱溶剤ガス流：650L/hr、質量範囲：1000～900Da)およびWaters製のAcuity UPLC：バイナリポンプ、被加熱カラムコンパートメントおよびダイオード-アレイ検出器を備えたWaters製の質量分光計(SQDまたはZQシングル四重極型質量分析計)でスペクトルを記録した。溶剤デガッサ、バイナリポンプ、被加熱カラムコンパートメントおよびダイオード-アレイ検出器。カラム：Waters UPLC HSS T3、 $1.8\mu\text{m}$ 、 $30 \times 2.1\text{ mm}$ 、温度：60、DAD波長範囲(nm)：210～500、溶剤勾配：A = 水 + 5% MeOH + 0.05% HCOOH、B = アセトニトリル + 0.05% HCOOH：勾配：勾配：0分間40%のB、60%のA；1.2～1.5分間100%のB；流量(mL/min)0.85。

## 【0189】

実施例1：2-クロロ-N-(1-シアノシクロプロピル)-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ベンズアミド。  
a) 2-メチル-5-(1,1,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-オールの調製

## 【化20】



エチル4,4,5,5,5-ペンタフルオロ-3-オキソ-ペンタノエート(30g、 $128\text{ mmol}$ )およびメチルヒドラジン(6.2g、 $135\text{ mmol}$ )の $120\text{ mL}$ のエタノール中の溶液を室温で一晩にわたりアルゴン雰囲気下で攪拌し、次いで反応混合物を60℃に24時間かけて加熱して完全な転換を行った。溶剤を減圧下で蒸発させ、残渣をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-オールをベージュ色の固体として得た。

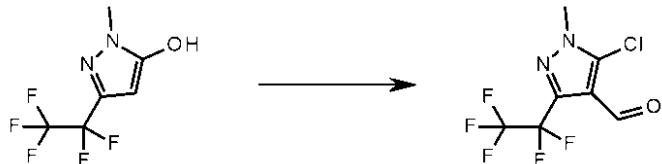
$^1\text{H NMR}$ (400MHz, DMSO- $d_6$ ) ppm 3.60(s, 3H) 5.71(s, 1H) 11.70(s, 1H).

LC-MS(方法B)： $t_R = 1.03\text{ min}$ ,  $m/z = 215 [M - 1]$ ,  $217 [M + 1]$ .

## 【0190】

b) 5-クロロ-1-メチル-3-(1,1,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-4-カルバルデヒドの調製

## 【化21】



アルゴン雰囲気下および0℃でPOCl<sub>3</sub>(16.3mL、 $175\text{ mmol}$ )を2.5mLのN,N-ジメチルホルムアミドに慎重に滴下した。この反応混合物に2-メチル-

5 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール - 3 - オール ( 5 g 、 23 . 1 mmol ) を添加し、次いで混合物を 100 °C で 18 時間加熱した。次いで、反応混合物を室温に冷却し、炭酸水素ナトリウムの水溶液にゆっくりと注ぎ入れ、この溶液を酢酸エチルで 3 回抽出し、硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下で蒸発させた。残渣をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、5 - クロロ - 1 - メチル - 3 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール - 4 - カルバルデヒドを黄色の油として得た。

<sup>1</sup>H NMR ( 400 MHz, CDCl<sub>3</sub> ) ppm 4 . 00 ( s , 3 H ) 10 . 00 ( s , 1 H )

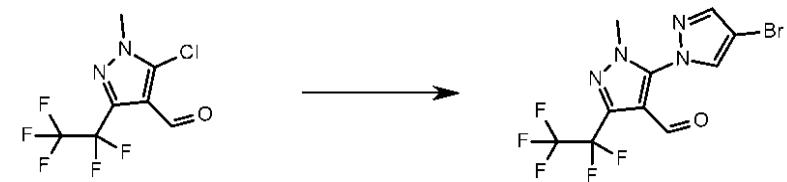
LC - MS ( 方法 B ) : t<sub>R</sub> = 1 . 37 min , m / z = 263 [ M + 1 ] .

10

【 0191 】

c ) 5 - ( 4 - ブロモピラゾール - 1 - イル ) - 1 - メチル - 3 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール - 4 - カルバルデヒドの調製

【 化 22 】



20

アルゴン雰囲気下で 5 - クロロ - 1 - メチル - 3 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール - 4 - カルバルデヒド ( 12 . 85 g 、 48 . 9 mmol ) をアセトニトリル ( 500 ml ) 中に溶解し、次いで炭酸セシウム ( 31 , 89 g 、 97 , 8 mmol ) を添加した。この混合物に 4 - ブロモ - 1H - ピラゾール ( 7 . 9 g 、 53 . 8 mmol ) を添加し、混合物を室温で 18 時間攪拌した。混合物を酢酸エチルで希釈し、水および塩水で洗浄し、有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下で蒸発させた。残渣をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、5 - ( 4 - ブロモピラゾール - 1 - イル ) - 1 - メチル - 3 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール - 4 - カルバルデヒドを白色の固体として得た。

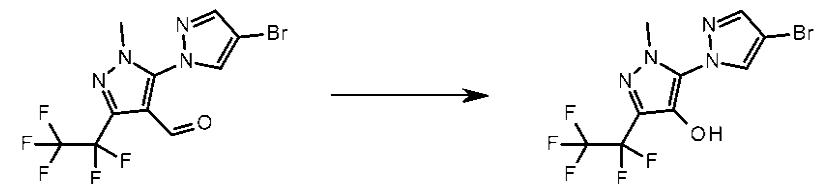
<sup>1</sup>H NMR ( 400 MHz, CDCl<sub>3</sub> ) ppm 3 . 98 ( s , 3 H ) 7 . 83 ( s , 1 H ) 8 . 09 ( s , 1 H ) 9 . 97 ( s , 1 H ) .

LC - MS ( 方法 B ) : t<sub>R</sub> = 1 . 63 min , m / z = 371 [ M - 1 ] , 373 [ M + 1 ] .

【 0192 】

d ) 5 - ( 4 - ブロモピラゾール - 1 - イル ) - 1 - メチル - 3 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール - 4 - オールの調製

【 化 23 】



40

5 - ( 4 - ブロモピラゾール - 1 - イル ) - 1 - メチル - 3 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール - 4 - カルバルデヒド ( 500 mg 、 1 . 34 mmol ) のジクロロメタン ( 5 ml ) 中の溶液にメタクロロ過安息香酸 ( 642 mg 、 2 . 68 mmol ) を添加した。混合物を室温で 5 日間攪拌した。混合物を酢酸エチルで希釈し、水、ならびに炭酸水素ナトリウムおよびチオ硫酸ナトリウムの水溶液で洗浄した。有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下で減量させた。残渣をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、5 - ( 4 - ブロモピラゾール - 1 - イル ) - 1 - メチル - 3 - ( 1

50

, 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 4 - オールを白色の固体として得た。

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.79 (s, 3H) 6.35 (s, 1H) 7.66 (s, 1H) 7.75 (s, 1H)

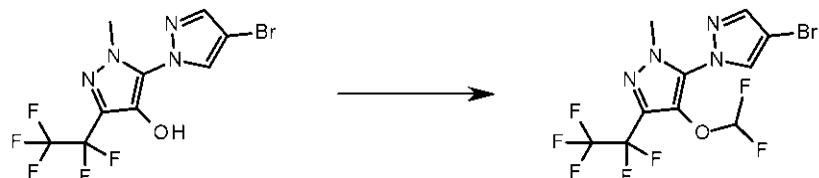
LC-MS (方法B) : t<sub>R</sub> = 1.39 min, m/z = 361 [M - 1], 363 [M + 1].

### 【0193】

e) 5 - (4 - ブロモピラゾール - 1 - イル) - 4 - (ジフルオロメトキシ) - 1 - メチル - 3 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾールの調製

### 【化24】

10



4 ml のアセトニトリル / 水 (1 : 1) の混合物中の 5 - (4 - ブロモピラゾール - 1 - イル) - 1 - メチル - 3 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 4 - オール (466 mg、1.29 mmol) および水酸化カリウム (1.44 g、25.81 mmol) の溶液に -78°で 1 - [[ブロモ(ジフルオロ)メチル] - エトキシ - ホスホリル] オキシエタン (689 mg、2.58 mmol) を添加した。混合物を室温に温め、密閉容器中で 3 時間搅拌した。反応を完了させるために、1 - [[ブロモ(ジフルオロ)メチル] - エトキシ - ホスホリル] オキシエタン (172 mg、0.645 mmol) を -78°で 添加し、反応を室温でさらに 1 時間搅拌した。反応混合物をエーテルで希釈し、塩水および水で洗浄した。有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下で減量させた。残渣をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、5 - (4 - ブロモピラゾール - 1 - イル) - 4 - (ジフルオロメトキシ) - 1 - メチル - 3 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾールを無色の油として得た。

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.87 (s, 3H) 6.08 - 6.52 (m, 1H) 7.78 (s, 1H) 7.81 (s, 1H).

LC-MS (方法B) : t<sub>R</sub> = 1.79 min, m/z = 409 [M - 1], 411 [M + 1].

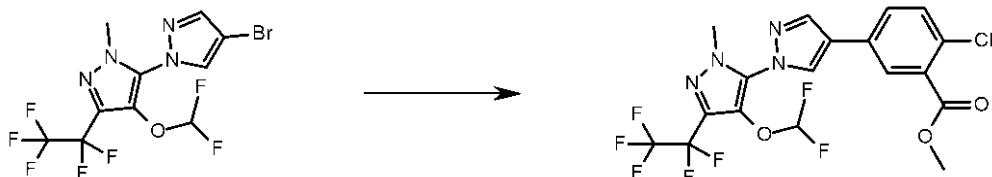
20

### 【0194】

f) 2 - クロロ - 5 - [1 - [4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル] ピラゾール - 4 - イル] 安息香酸メチルの調製

### 【化25】

30



40

マイクロ波チューブ中において、5 - (4 - ブロモピラゾール - 1 - イル) - 4 - (ジフルオロメトキシ) - 1 - メチル - 3 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール (50 mg、0.121 mmol)、5 - (4 - ブロモピラゾール - 1 - イル) - 4 - (ジフルオロメトキシ) - 1 - メチル - 3 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール (56 mg、0.182 mmol) およびフッ化セシウム (37 mg、0.243 mmol) を 4 ml のジオキサン / 水 (3 / 1) 中に溶解した。混合物をアルゴンで 5 分間バージした。Pd (dpdpf) Cl<sub>2</sub> (4.8 mg、0.006 mm

50

o 1 )を添加し、混合物に対してマイクロ波オーブン中において160°で30分間照射を行った。混合物を蒸発させ、酢酸エチルで希釈し、25mLの水で失活させ、酢酸エチルで3回抽出し、組み合わせた有機相を塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥させ、ろ過し、蒸発させた。黒色・茶色の樹脂をシリカゲルで精製して、2-クロロ-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]安息香酸メチルを無色の油として得た。

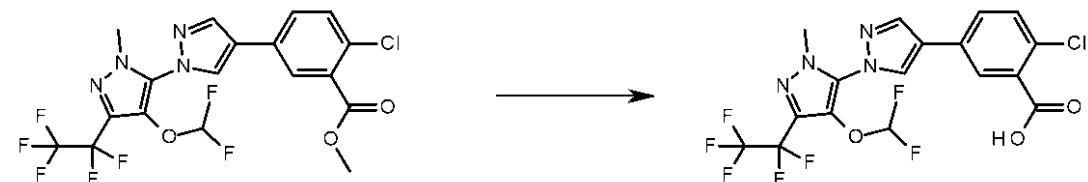
<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.93 (s, 3H) 3.98 (s, 3H) 6.11-6.51 (m, 1H) 7.49-7.54 (m, 1H) 7.49-7.54 (m, 1H) 7.55-7.60 (m, 1H) 7.97-8.04 (m, 2H) 8.13 (s, 1H) 10

LC-MS (方法B) : t<sub>R</sub> = 1.98 min, m/z = 499 [M - 1], 501 [M + 1].

### 【0195】

g) 2-クロロ-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]安息香酸の調製

### 【化26】



2-クロロ-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]安息香酸メチル(192 mg、0.38 mmol)を5mLのテトラヒドロフラン/水(4:1)中に溶解した。LiOH一水和物(46 mg、1.9 mmol)を一度に添加し、反応混合物を50°で3時間温めた。混合物を蒸発させ、酢酸エチルおよび25mLの水で希釈した。水性相をpH4に酸性化し、3×30mL酢酸エチルで抽出し、有機相を塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥させ、ろ過し、蒸発させた。残渣をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、2-クロロ-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]安息香酸を無色の油として得た。

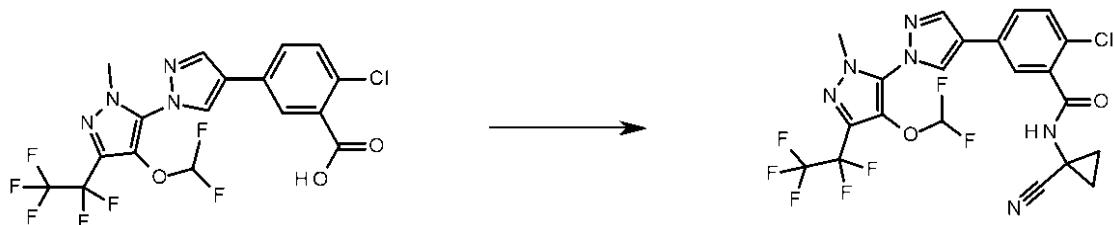
<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.94 (s, 3H) 6.13-6.51 (m, 1H) 7.54-7.58 (m, 1H) 7.61-7.66 (m, 1H) 8.04 (s, 1H) 8.13-8.18 (m, 2H).

LC-MS (方法B) : t<sub>R</sub> = 1.73 min, m/z = 485 [M - 1], 487 [M + 1].

### 【0196】

h) 2-クロロ-N-(1-シアノシクロプロピル)-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ベンズアミドの調製

## 【化27】



3 ml の DMF 中の 2 - クロロ - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] 安息香酸 (45 mg、0.092 mmol) 、1 - アミノ - 1 - シアノ - シクロプロパンヒドロクロリド (33.5 mg、0.277 mmol) 、EDCI (22.61 mg、0.115 mmol) およびトリエチルアミン (42.1 mg、0.416 mmol) の混合物を室温で 2 時間攪拌した。混合物を酢酸エチルで希釈し、水で失活させ、有機相を順次に水、および塩水で一回洗浄した。有機相を硫酸マグネシウムで乾燥させ、ろ過し、蒸発させた。粗生成物をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、2 - クロロ - N - (1 - シアノシクロプロピル) - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] ベンズアミドを白色の固体として得た。

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 1.41 - 1.46 (m, 2 H) 1.67 - 1.72 (m, 2 H) 3.93 (s, 3 H) 6.12 - 6.51 (m, 1 H) 7.46 (d, J = 8.07 Hz, 1 H) 7.57 (dd, J = 8.25, 2.38 Hz, 1 H) 7.96 (d, J = 2.20 Hz, 1 H) 8.03 (s, 1 H) 8.12 (s, 1 H).

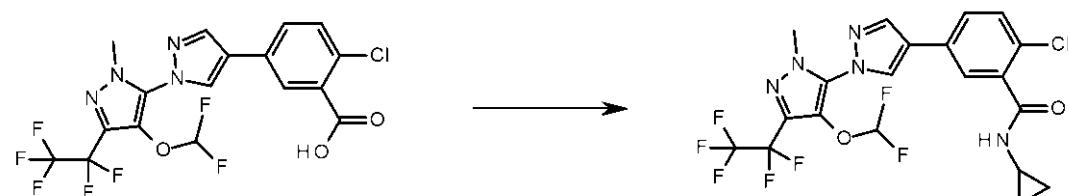
LC - MS (方法 B) : t<sub>R</sub> = 1.74 min, m/z = 549 [M - 1] , 551 [M + 1].

Mp : 138° - 139° C

## 【0197】

実施例 2 : 2 - クロロ - N - シクロプロピル - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] ベンズアミド

## 【化28】



3 ml の DMF 中の 2 - クロロ - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] 安息香酸 (45 mg、0.092 mmol) 、シクロピロピルアミン (15.84 mg、0.28 mmol) 、EDCI (22.61 mg、0.115 mmol) およびトリエチルアミン (32.75 mg、0.323 mmol) の混合物を室温で 2 時間攪拌した。混合物を酢酸エチルおよび水で希釈し、有機相を順次に水および塩水で一回洗浄した。有機相を硫酸マグネシウムで乾燥させ、ろ過し、蒸発させた。粗生成物をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、2 - クロロ - N - シクロプロピル - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] ベンズアミドを白色の固体として得た。

10

20

30

40

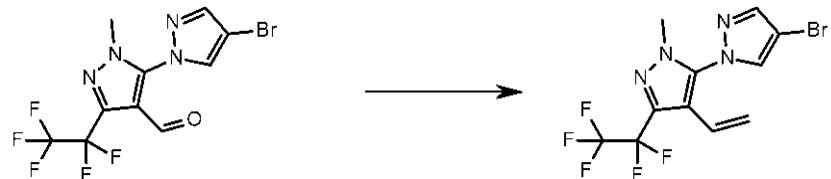
50

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 0.56 - 0.63 (m, 2H) 0.81 - 0.87 (m, 2H) 2.88 (tq, J = 7.08, 3.71 Hz, 1H) 3.85 (s, 3H) 6.02 - 6.46 (m, 2H) 7.33 - 7.48 (m, 2H) 7.75 - 7.96 (m, 2H) 7.98 - 8.07 (m, 1H).  
LC-MS (方法B) : t<sub>R</sub> = 1.77 min, m/z = 524 [M - 1], 526 [M + 1].

## 【0198】

実施例15: 2-クロロ-N-(1-シアノシクロプロピル)-5-[1-[2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ベンズアミド  
a) 5-(4-ブロモピラゾール-1-イル)-1-メチル-3-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾールの調製

## 【化29】



乾燥THF (100 ml) 中の臭化メチル(トリフェニル)ホスホニウム (7.3 g、20 mmol) の攪拌混合物にアルゴン雰囲気下において -78 でヘキサン (13 ml、20 mmol) 中の n-BuLi (1.6 mol/L) を滴下した。得られた混合物を -78 で 30 分間攪拌した。この黄色の混合物に 5-(4-ブロモピラゾール-1-イル)-1-メチル-3-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-4-カルバルデヒド (5.0 g、13 mmol) の THF 中の溶液を添加した。混合物を室温に温めた。反応混合物を水性塩化アンモニウムで失活させ、次いで酢酸エチルで希釈し、有機相を水および塩水で洗浄し、マグネシウムで乾燥させ、減圧下で蒸発させた。粗生成物をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、5-(4-ブロモピラゾール-1-イル)-1-メチル-3-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾールを白色の固体として得た。

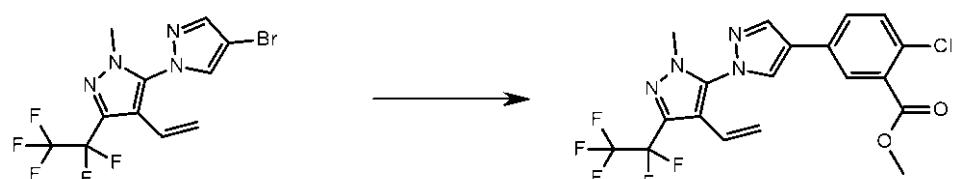
<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.73 - 3.76 (m, 3H) 4.91 (d, J = 17.97 Hz, 1H) 5.20 - 5.28 (m, 1H) 6.44 - 6.53 (m, 1H) 7.66 (s, 1H) 7.85 (s, 1H).

LC-MS (方法B) : t<sub>R</sub> = 1.89 min, m/z = 369 [M - 1].

## 【0199】

b) 2-クロロ-5-[1-[2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]安息香酸メチルの調製

## 【化30】



5-(4-ブロモピラゾール-1-イル)-1-メチル-3-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾール (1.2 g、3.2 mmol)、2-クロロ-5-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)安息香酸メチル (1.2 g、3.9 mmol) および炭酸ナトリウム (1.7 g、16 mmol) を 10 ml の 1,2-ジメトキシエタンおよび 2 ml の水中に溶解した。混

10

20

30

40

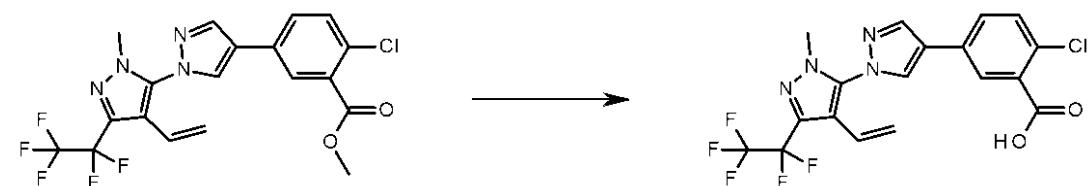
50

合物をアルゴンで5分間バージした。次いで、Pd(PPh<sub>3</sub>)<sub>4</sub>(560mg、0.49mmol)を添加し、混合物に対してマイクロ波オーブン中において100で40分間照射を行った。反応が完了しておらず、0.05当量のPd(PPh<sub>3</sub>)<sub>4</sub>を添加し、混合物に対してマイクロ波オーブン中において120で20分間照射をさらに行つた。混合物をセライトでろ過し、乾燥するまで蒸発させ、粗混合物をシリカゲルで分離して、2-クロロ-5-[1-[2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]安息香酸塩を黄色の油として得た。

<sup>1</sup>H NMR(400MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.81(s, 3H) 3.99(s, 3H) 4.95(d, J=17.97Hz, 1H) 5.20-5.25(m, 1H) 6.52(dd, J=17.97, 11.74Hz, 1H) 7.52-7.55(m, 1H) 7.58-7.62(m, 1H) 7.91(d, J=0.73Hz, 1H) 8.01(d, J=2.20Hz, 1H) 8.17(d, J=0.73Hz, 1H).  
LC-MS(方法B): t<sub>R</sub>=2.09min, m/z=459[M-1], 461[M+1].

### 【0200】

c) 2-クロロ-5-[1-[2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]安息香酸の調製  
【化31】



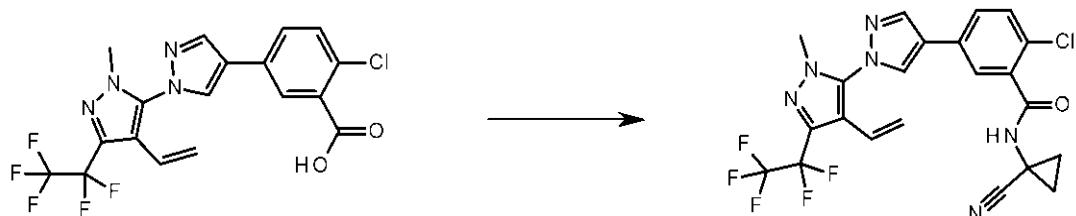
2-クロロ-5-[1-[2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]安息香酸メチル(450mg、0.976mmol)をTHFおよび水の混合物(5ml、4:1)中に溶解した。LiOH-水和物(233mg、9.76mmol)を一度に添加し、反応混合物を室温で一晩攪拌した。混合物を蒸発させ、酢酸エチルで希釈し、25mlの水で失活させ、pH4に酸性化した。水性相を酢酸エチルで3回抽出し、組み合わせた有機相を塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥させ、ろ過し、蒸発させた。粗生成物をシリカゲルで精製して、2-クロロ-5-[1-[2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]安息香酸を白色の固体として得た。

<sup>1</sup>H NMR(400MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.82(s, 3H) 4.96(d, J=17.97Hz, 1H) 5.23(dd, J=11.74, 1.10Hz, 1H) 6.52(dd, J=17.97, 11.74Hz, 1H) 7.56-7.59(m, 1H) 7.64-7.68(m, 1H) 7.93(d, J=0.73Hz, 1H) 8.19(dd, J=3.30, 1.47Hz, 2H).  
LC-MS(方法B): t<sub>R</sub>=1.8min, m/z=445[M-1], 447[M+1].

### 【0201】

d) 2-クロロ-N-(1-シアノシクロプロピル)-5-[1-[2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ベンズアミドの調製

## 【化32】



5 ml の DMF 中の 2 - クロロ - 5 - [ 1 - [ 2 - メチル - 5 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) - 4 - ビニル - ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] 安息香酸 ( 158 mg, 0 . 353 mmol ) 、 1 - アミノ - 1 - シアノ - シクロプロパンヒドロクロリド ( 128 mg, 1 . 06 mmol ) 、 EDCI ( 86 . 47 mg, 0 . 44 mmol ) 、 HOAT ( 62 mg, 0 . 44 mmol ) およびトリエチルアミン ( 161 mg, 1 . 6 mmol ) の混合物を室温で 16 時間攪拌した。混合物を酢酸エチルおよび水で希釈した。有機相を順次に水および塩水で一回、かつ塩酸溶液 ( 1 N ) で洗浄した。有機相を硫酸マグネシウムで乾燥させ、ろ過し、蒸発させた。粗生成物をクロマトグラフィにより精製して、 2 - クロロ - N - ( 1 - シアノシクロプロピル ) - 5 - [ 1 - [ 2 - メチル - 5 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) - 4 - ビニル - ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] ベンズアミドを白色の固体として得た。

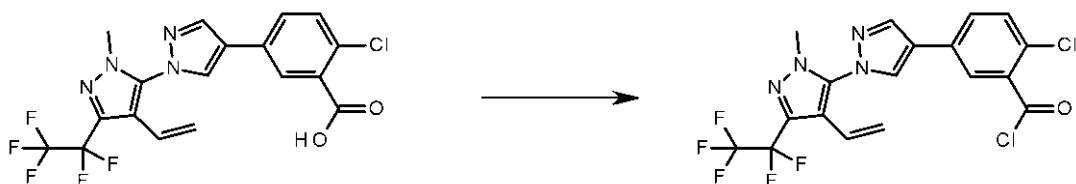
<sup>1</sup>H NMR ( 400 MHz, CDCl<sub>3</sub> ) ppm 1 . 41 - 1 . 44 ( m , 2 H ) 1 . 68 - 1 . 72 ( m , 2 H ) 3 . 79 ( s , 3 H ) 4 . 92 ( d , J = 17 . 97 Hz , 1 H ) 5 . 17 - 5 . 23 ( m , 1 H ) 6 . 49 ( dd , J = 17 . 79 , 11 . 55 Hz , 1 H ) 6 . 90 ( s , 1 H ) 7 . 45 ( d , J = 8 . 07 Hz , 1 H ) 7 . 57 ( dd , J = 8 . 44 , 2 . 20 Hz , 1 H ) 7 . 90 ( s , 1 H ) 7 . 96 ( d , J = 2 . 20 Hz , 1 H ) 8 . 14 ( d , J = 0 . 73 Hz , 1 H ) .  
LC - MS ( 方法 B ) : t<sub>R</sub> = 1 . 77 min , m / z = 509 [ M - 1 ] , 511 [ M + 1 ] .

## 【0202】

実施例 16 : 2 - クロロ - N - シクロプロピル - 5 - [ 1 - [ 2 - メチル - 5 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) - 4 - ビニル - ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] ベンズアミドの調製

a ) 2 - クロロ - 5 - [ 1 - [ 2 - メチル - 5 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) - 4 - ビニル - ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] 塩化ベンゾイルの調製

## 【化33】



2 - クロロ - 5 - [ 1 - [ 2 - メチル - 5 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) - 4 - ビニル - ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] 安息香酸 ( 実施例 3 、ステップ c ; 50 mg, 0 . 111 mmol ) の 5 ml の乾燥ジクロロメタン中の懸濁液にアルゴン雰囲気中において二塩化オキサリル ( 2 ml ) および 1 滴の DMF を順次に添加した。ガスの発生が停止するまで反応混合物を攪拌した。乾燥するまで減圧下で溶剤を除去し、粗生成物を次のステップに直接用いた。

## 【0203】

b ) 2 - クロロ - N - シクロプロピル - 5 - [ 1 - [ 2 - メチル - 5 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) - 4 - ビニル - ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 -

10

20

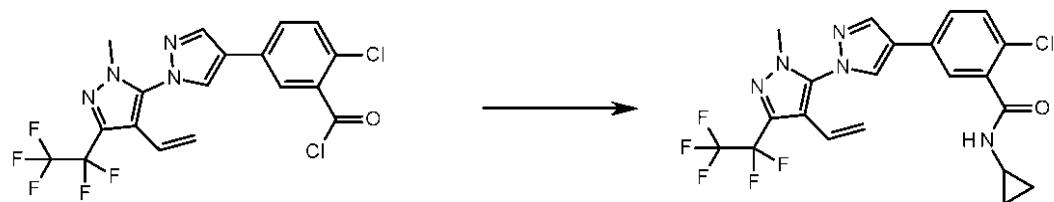
30

40

50

## イル]ベンズアミドの調製

【化34】



シクロプロパンアミン（19 mg、0.335 mmol）および2-クロロ-5-[1-[2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)-4-ビニル-ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]塩化ベンゾイル（52 mg、0.111 mmol）の3 mlのTHF中の溶液にピリジン（44 mg、0.0559 mmol）を室温で添加した。反応混合物を16時間かけて60℃に加熱した。混合物を水および酢酸エチルで希釈し、水／塩水および希塩酸（1N）で洗浄した。有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下で蒸発させた。粗生成物をフラッシュクロマトグラフィにより精製して、白色の固体を得た。

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 0.66 - 0.70 (m, 2H) 0.89 - 0.94 (m, 2H) 2.91 - 2.97 (m, 1H) 3.78 (s, 3H) 4.88 - 4.95 (m, 1H) 5.19 (dd, J = 11.55, 0.92 Hz, 1H) 6.40 (br. s., 1H) 6.49 (dd, J = 17.97, 11.37 Hz, 1H) 7.41 - 7.45 (m, 1H) 7.49 - 7.53 (m, 1H) 7.87 (d, J = 0.73 Hz, 2H) 8.13 (d, J = 0.73 Hz, 1H).

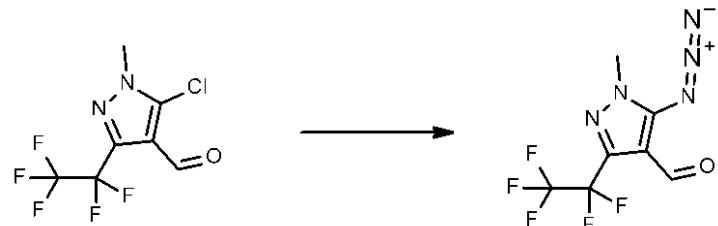
LC-MS (方法B) : t<sub>R</sub> = 1.86 min, m/z = 484 [M - 1], 486 [M + 1].

【0204】

実施例64：2-クロロ-N-(1-シアノシクロプロピル)-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]トリアゾール-4-イル]ベンズアミドの調製

a) 5-アジド-1-メチル-3-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-4-カルバルデヒドの調製

【化35】



5-クロロ-1-メチル-3-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-4-カルバルデヒド（1.0 g、3.8 mmol）をジメチルスルホキシド（5.0 ml）中に溶解し、次いでアジ化ナトリウム（0.28 g、4.2 mmol）を添加した。混合物を室温で一晩攪拌した（18時間）。混合物をジエチルエーテルで希釈し、水および塩水で洗浄し、有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、減圧下で蒸発させて粗生成物を得、これを次のステップで用いた。

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.78 (s, 3H), 9.92 (s, 1H).

LC-MS (方法A) : t<sub>R</sub> = 1.00 min.

【0205】

b) 2-クロロ-5-[1-[4-ホルミル-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]トリアゾール-4-イル]安息香酸メチ

10

20

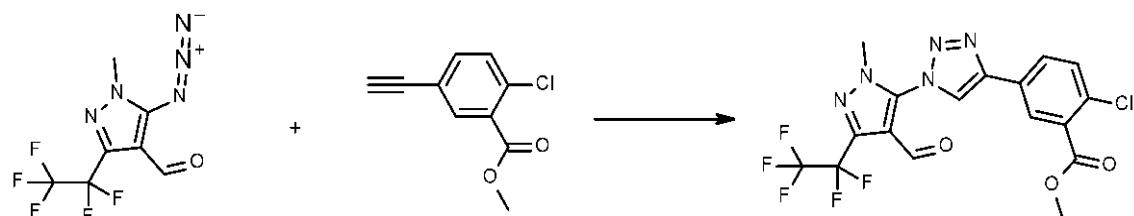
30

40

50

ルの調製

【化 3 6】



t - プタノール (4 ml) および水 (2 ml) の混合物中の 5 - アジド - 1 - メチル - 3 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 4 - カルバルデヒド (1 . 0 g、3 . 7 mmol) の溶液に 2 - クロロ - 5 - エチニル - 安息香酸メチル (0 . 60 g、3 . 1 mmol) 、L - アスコルビン酸ナトリウム塩 (0 . 062 g、0 . 31 mmol) および硫酸銅 (II) 五水和物 (0 . 0049 g、0 . 031 mmol) を添加した。混合物を室温で一晩攪拌した (18 時間)。混合物を酢酸エチルで希釈し、水および塩水で洗浄し、有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、ろ過し、減圧下で蒸発させた。粗生成物をフラッショクロマトグラフィ (シリカ、0 ~ 25 % のシクロヘキサン / 酢酸エチル勾配) により精製して、黄色の固体を得た。

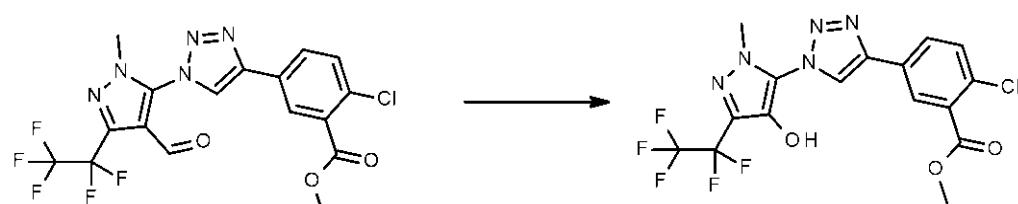
<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3 . 99 (s, 3 H) , 4 . 08 (s, 3 H) , 7 . 61 (d, J = 8 . 4 Hz, 1 H) , 8 . 02 (dd, J = 8 . 4 , 2 . 2 Hz, 1 H) , 8 . 38 (d, J = 2 . 2 Hz, 1 H) , 8 . 50 (s, 1 H) , 10 . 03 (s, 1 H) .

LC - MS (方法 A) : t<sub>R</sub> = 1 . 12 min, m/z = 464 [M + 1] .

【0206】

c) 2 - クロロ - 5 - [1 - [4 - ヒドロキシ - 2 - メチル - 5 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル] トリアゾール - 4 - イル] 安息香酸メチルの調製

【化 3 7】



2 - クロロ - 5 - [1 - [4 - ホルミル - 2 - メチル - 5 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル] トリアゾール - 4 - イル] 安息香酸メチル (1 . 5 g、3 . 2 mmol) のトリフルオロ酢酸 (4 . 2 ml) 中の攪拌溶液に尿素過酸化水素 (0 . 63 g、6 . 5 mmol) を、5 回に分けて 25 分間の時間をかけ、室温においてアルゴン雰囲気下で添加した。反応混合物を室温で 2 時間攪拌し、次いで 40 度 1 時間攪拌した。混合物を酢酸エチルで希釈し、続いて水、炭酸水素ナトリウムの水溶液および飽和メタ重亜硫酸ナトリウム溶液で洗浄した。有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、ろ過し、減圧下で蒸発させた。残渣をフラッショクロマトグラフィにより精製して、表題の化合物を黄色の固体として得た。

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3 . 99 (2 × 重複 s, 6 H) , 5 . 35 (br . s, 1 H) , 7 . 59 (d, J = 8 . 4 Hz, 1 H) , 7 . 97 (dd, J = 8 . 4 , 2 . 2 Hz, 1 H) , 8 . 22 (s, 1 H) , 8 . 31 (d, J = 2 . 2 Hz, 1 H) .

LC - MS (方法 A) : t<sub>R</sub> = 1 . 04 min, m/z = 450 [M - 1] , 452 [M + 1] .

【0207】

10

20

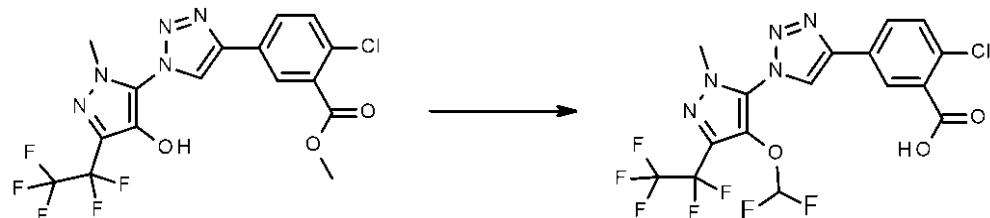
30

40

50

d) 2 - クロロ - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1, 1, 2, 2, 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] トリアゾール - 4 - イル ] 安息香酸の調製

## 【化 3 8】



10

- 7 8 に冷却したアセトニトリル / 水 = 1 : 1 混合物 (10.6 ml) 中の 2 - クロロ - 5 - [ 1 - [ 4 - ヒドロキシ - 2 - メチル - 5 - (1, 1, 2, 2, 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] トリアゾール - 4 - イル ] 安息香酸塩 (0.24 g、0.53 mmol) および水酸化カリウム (0.6 g、1.1 mmol) の攪拌溶液にジエチル (プロモジフルオロメチル) ホスホネート (0.29 g、1.1 mmol) を添加した。反応混合物を室温に温め、次いでこの温度で週末にかけて攪拌した。GCMS およびUPLC により転換を監視した。反応混合物を酢酸エチルで希釈し、次いで続いて 1 N

HCl、水および塩水で洗浄した。有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、ろ過し、減圧下で蒸発させて表題の化合物を得、これを次のステップにおいてさらに精製することなく用いた。

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.98 (s, 3 H), 6.37 (t, J = 72.6 Hz, 1 H), 7.64 (d, J = 8.4 Hz, 1 H), 8.08 (d d, J = 8.4, 2.2 Hz, 1 H), 8.22 (s, 1 H), 8.47 (d, J = 2.2 Hz, 1 H).

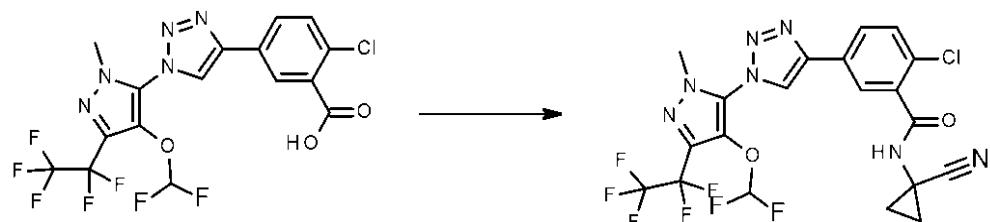
LC - MS (方法 A) : t<sub>R</sub> = 1.04 min, m/z = 486 [M - 1], 488 [M + 1].

## 【0208】

e) 2 - クロロ - N - (1 - シアノシクロプロピル) - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1, 1, 2, 2, 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] トリアゾール - 4 - イル ] ベンズアミドの調製

30

## 【化 3 9】



塩化オキサリル (0.07 g、0.53 mmol) を乾燥ジクロロメタン (2.7 ml) 中に溶解し、続いて 1 滴のジメチルホルムアミドおよび 2 - クロロ - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1, 1, 2, 2, 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] トリアゾール - 4 - イル ] 安息香酸 (0.13 g、0.27 mmol) を添加した。反応混合物を室温で 30 分間攪拌し、次いで 35 度で 10 分間攪拌した。その後、混合物を乾燥するまで蒸発させた。残った酸塩化物を乾燥ピリジン (1.3 ml) 中に溶解し、1 - アミノ - 1 - シアノ - シクロプロパンヒドロクロリド (0.047 g、0.40 mmol) を 0 度で添加した。反応混合物を室温で 1 時間攪拌した。生成物をフラッシュクロマトグラフィにより単離した。

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 1.44 (m, 2 H), 1.72 (m, 2 H), 3.99 (s, 3 H), 6.37 (t, J = 72.4 Hz, 1 H), 6.9

50

0 ( b r s , 1 H ) , 7 . 5 6 ( d , J = 8 . 4 H z , 1 H ) , 8 . 0 8 ( d d , J = 8 . 4 , 2 . 2 H z , 1 H ) , 8 . 2 1 ( d , J = 2 . 2 H z , 1 H ) , 8 . 2 2 ( s , 1 H ) , 8 . 4 7 ( d , J = 2 . 2 H z , 1 H ) .

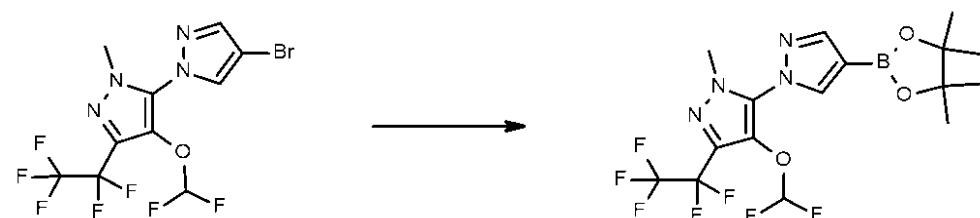
L C - M S (方法 A) :  $t_R = 1 . 0 5 \text{ min}$  , m / z = 5 5 0 [M - 1] , 5 5 2 [M + 1] .

### 【0209】

実施例 5 4 : 2 - クロロ - N - シクロプロピル - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] - N - メチル - ピリジン - 3 - カルボキサミドの調製

a ) 4 - (ジフルオロメトキシ) - 1 - メチル - 3 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) - 5 - [ 4 - ( 4 , 4 , 5 , 5 - テトラメチル - 1 , 3 , 2 - ジオキサボロラン - 2 - イル ) ピラゾール - 1 - イル ] ピラゾールの調製

### 【化40】



10

20

マイクロ波チューブに 5 - ( 4 - プロモピラゾール - 1 - イル ) - 4 - (ジフルオロメトキシ) - 1 - メチル - 3 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール ( 8 . 0 g、1 8 mmol ) 、 4 , 4 , 5 , 5 - テトラメチル - 2 - ( 4 , 4 , 5 , 5 - テトラメチル - 1 , 3 , 2 - ジオキサボロラン - 2 - イル ) - 1 , 3 , 2 - ジオキサボロラン ( 5 . 6 g、2 2 mmol ) 、酢酸カリウム ( 5 . 4 g、5 5 mmol ) およびジオキサン ( 3 7 ml ) を仕込んだ。アルゴンでバージした後、Pd(PPh<sub>3</sub>)<sub>4</sub> ( 1 . 1 g 、 0 . 9 1 mmol ) を添加した。チューブをシールし、マイクロ波反応器中において 4 5 分間かけて 1 4 0 に加熱した。反応混合物を酢酸エチル中に採り、水および塩水で洗浄した。有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、ろ過し、減圧下で蒸発させて粗生成物を得、これを次のステップにおいて直接用いた。

30

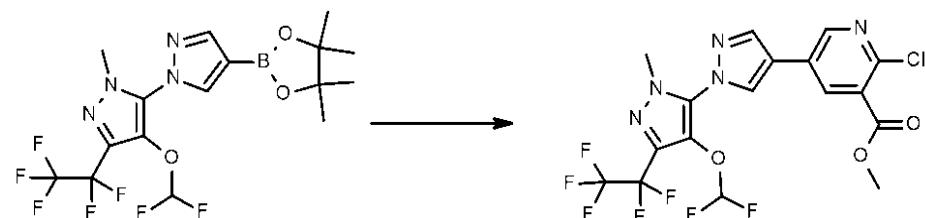
<sup>1</sup>H NMR ( 4 0 0 MHz , CDCl<sub>3</sub> ) ppm 1 . 3 6 ( s , 1 2 H ) , 3 . 8 5 ( s , 3 H ) , 6 . 2 8 ( t , J = 7 2 . 8 H z , 1 H ) , 8 . 0 1 ( s , 1 H ) , 8 . 0 7 ( s , 1 H ) .

L C - M S (方法 A) :  $t_R = 1 . 1 8 \text{ min}$  , m / z = 4 5 7 [M - 1] , 4 5 9 [M + 1] .

### 【0210】

b ) メチル 2 - クロロ - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] ピリジン - 3 - カルボキシレートの調製

### 【化41】



30

40

マイクロ波チューブに 4 - (ジフルオロメトキシ) - 1 - メチル - 3 - ( 1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル ) - 5 - [ 4 - ( 4 , 4 , 5 , 5 - テトラメチル - 1 , 3 , 2 - ジオキサボロラン - 2 - イル ) ピラゾール - 1 - イル ] ピラゾール ( 3 . 1 g、4

50

.4 mmol)、メチル5-プロモ-2-クロロ-ピリジン-3-カルボキシレート(1.0g、4.0mmol)、テトラヒドロフラン(53mL)、水(5.9mL)および炭酸水素カリウム(1.2g、12mmol)を仕込んだ。アルゴンでバージした後、Pd(dppf)<sub>2</sub>C<sub>12</sub>(0.17g、0.20mmol、0.050)を添加した。チューブをシールし、マイクロ波反応器中において45分間かけて120℃に加熱した。反応混合物を酢酸エチル中に採り、セライトパッドでろ過した。ろ液を水および塩水で洗浄した。有機層を硫酸マグネシウムで乾燥させ、ろ過し、減圧下で蒸発させた。粗生成物をフラッシュクロマトグラフィ(シリカ、0~30%のシクロヘキサン/酢酸エチル勾配)により精製した。

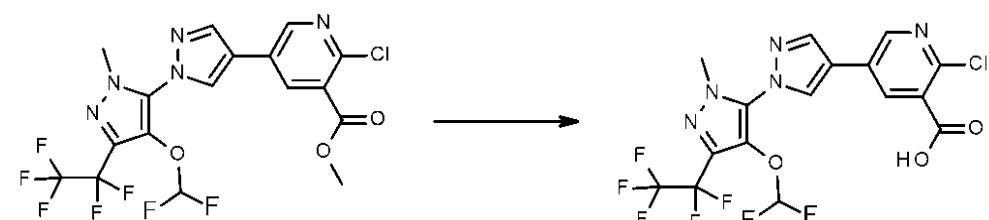
<sup>1</sup>H NMR(400MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.95(s, 3H), 4.02(s, 3H), 6.33(t, J=73.0Hz, 1H), 8.11(s, 1H), 8.17(s, 1H), 8.30(d, J=2.6Hz, 1H), 8.71(d, J=2.6Hz, 1H).

LC-MS(方法A): t<sub>R</sub>=1.12min, m/z=502[M+1].

#### 【0211】

c) 2-クロロ-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ピリジン-3-カルボン酸の調製

#### 【化42】



メチル2-クロロ-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ピリジン-3-カルボキシレート(1.4g、2.8mmol)をテトラヒドロフラン(14mL)中に溶解した。水(3mL)および水酸化リチウム一水和物(0.29g、7.0mmol、2.5)を順次に添加し、混合物を室温で1時間攪拌した。テトラヒドロフランのほとんどをロータリーエバポレータにより除去した。水性残渣を0℃で32%HClにより酸性化し、生成物を酢酸エチルで抽出した。抽出物を水および塩水で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥させ、ろ過し、蒸発させて黄色の固体を得、これを次のステップにおいてそのまま用いた。

<sup>1</sup>H NMR(400MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 3.96(s, 3H), 6.34(t, J=73.0Hz, 1H), 8.13(s, 1H), 8.19(s, 1H), 8.44(d, J=2.6Hz, 1H), 8.77(d, J=2.6Hz, 1H).

LC-MS(方法A): t<sub>R</sub>=1.00min, m/z=486[M-1], 488[M+1].

#### 【0212】

d) 2-クロロ-N-シクロプロピル-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ピリジン-3-カルボキサミドの調製

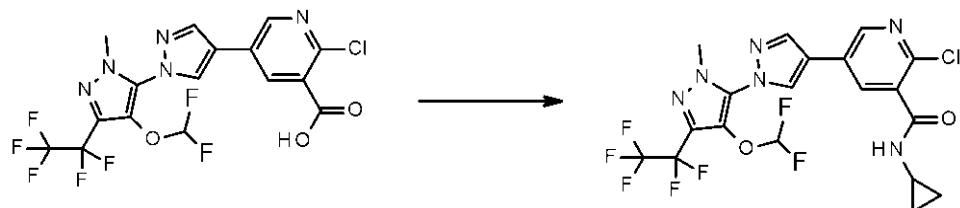
10

20

30

40

## 【化43】



塩化オキサリル（0.30 g、2.3 mmol）を乾燥ジクロロメタン（11 ml）中に溶解し、続いて1滴のジメチルホルムアミドおよび2-クロロ-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ピリジン-3-カルボン酸（0.55 g、1.1 mmol）を添加した。反応混合物を室温で30分間攪拌し、次いで35で10分間攪拌した。その後、混合物を乾燥するまで蒸発させた。残った酸塩化物を乾燥ピリジン（6 ml）中に溶解し、シクロピロビルアミン（0.13 g、2.3 mmol）を0で添加した。反応混合物を室温で1時間攪拌した。生成物をフラッシュクロマトグラフィにより単離した。

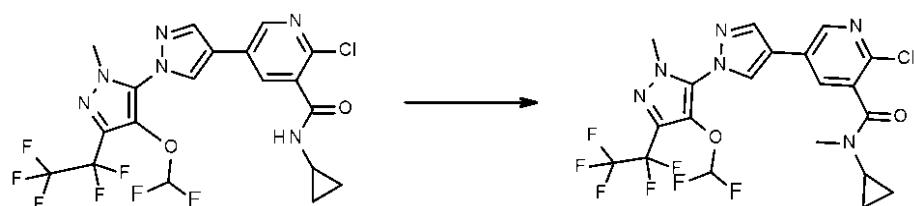
<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 0.71 (m, 2H), 0.95 (m, 2H), 2.98 (m, 1H), 3.95 (s, 3H), 6.33 (t, J = 72.8 Hz, 1H), 6.69 (br s, 1H), 8.10 (s, 1H), 8.17 (s, 1H), 8.29 (d, J = 2.6 Hz, 1H), 8.64 (d, J = 2.6 Hz, 1H).

LC-MS (方法A) : t<sub>R</sub> = 1.02 min, m/z = 525 [M - 1], 527 [M + 1].

## 【0213】

e) 2-クロロ-N-シクロプロピル-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]-N-メチル-ピリジン-3-カルボキサミドの調製

## 【化44】



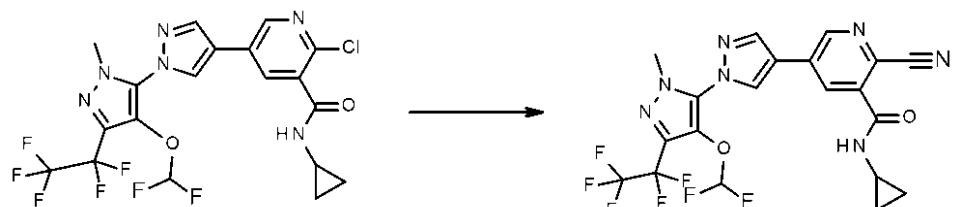
2-クロロ-N-シクロプロピル-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ピリジン-3-カルボキサミド（0.15 g、0.28 mmol）のN,N-ジメチルホルムアミド中の溶液に水素化ナトリウム（0.014 g、0.36 mmol、鉱油中の60%分散体）を室温で添加した。反応混合物を室温で30分間攪拌し、続いてヨードメタン（0.081 g、0.57 mmol）を添加した。反応混合物を室温で一晩攪拌した。生成物をフラッシュクロマトグラフィにより単離した。

LC-MS (方法A) : t<sub>R</sub> = 1.08 min, m/z = 541 [M + 1].

## 【0214】

実施例49：2-シアノ-N-シクロプロピル-5-[1-[4-(ジフルオロメトキシ)-2-メチル-5-(1,1,2,2,2-ペンタフルオロエチル)ピラゾール-3-イル]ピラゾール-4-イル]ピリジン-3-カルボキサミドの調製

## 【化45】



マイクロ波チューブに2 - クロロ - N - シクロプロピル - 5 - [ 1 - [ 4 - (ジフルオロメトキシ) - 2 - メチル - 5 - (1 , 1 , 2 , 2 , 2 - ペンタフルオロエチル) ピラゾール - 3 - イル ] ピラゾール - 4 - イル ] ピリジン - 3 - カルボキサミド (0 . 0 5 , 0 . 0 9 5 mmol ) 、シアノ化亜鉛 (0 . 0 1 1 g , 0 . 0 9 5 mmol ) 、亜鉛粉末 (1 mg , 0 . 0 1 1 mmol ) 、1 , 1 ' - ビス (ジフェニルホスフィノ) フェロセン (2 . 1 mg , 0 . 0 0 3 8 mmol ) 、トリス (ジベンジリデンアセトン) ジパラジウム (0 ) (1 . 8 mg , 0 . 0 0 1 9 mmol ) および乾燥 N , N - デミチルアセタミド (2 . 0 mL) を仕込んだ。混合物をアルゴンでバージし、チューブをシールし、マイクロ波反応器中において1時間かけて140 °Cに加熱した。粗反応混合物をシリカによるフラッシュクロマトグラフィに供した。シリカで分解した生成物は同一の分子量を有する生成物をもたらした。

<sup>1</sup>H NMR (400 MHz, CDCl<sub>3</sub>) ppm 1 . 0 5 - 1 . 1 5 (m , 4 H) , 2 . 8 2 (m , 1 H) , 3 . 9 7 (s , 3 H) , 6 . 3 5 (t , J = 7 2 . 8 Hz , 1 H) , 8 . 2 1 (s , 1 H) , 8 . 2 5 (d , J = 1 . 8 Hz , 1 H) , 8 . 2 6 (s , 1 H) , 9 . 1 4 (d , J = 2 . 2 Hz , 1 H) .

LC - MS (方法A) : t<sub>R</sub> = 1 . 0 2 min , m/z = 516 [M - 1] , 518 [M + 1] .

## 【0215】

特徴付けられた以下の化合物は、実施例1、2、15、16、49、54および64と同様に調製した。

## 【0216】

【表 5 - 1】

表 1: 式(I)の化合物の例:

	構造	1H-NMR (400 MHz) LC MS (方法)	Mp [°C]
1		(CDCl <sub>3</sub> ) δ ppm: 1.41 - 1.46 (m, 2 H) 1.67 - 1.72 (m, 2 H) 3.93 (s, 3 H) 6.12 - 6.51 (m, 1 H) 7.46 (d, J=8.07 Hz, 1 H) 7.57 (dd, J=8.25, 2.38 Hz, 1 H) 7.96 (d, J=2.20 Hz, 1 H) 8.03 (s, 1 H) 8.12 (s, 1 H)	138-139 10
2		(CDCl <sub>3</sub> ) δ ppm 0.56 - 0.63 (m, 2 H) 0.81 - 0.87 (m, 2 H) 2.88 (tq, J=7.08, 3.71 Hz, 1 H) 3.85 (s, 3 H) 6.02 - 6.46 (m, 2 H) 7.33 - 7.48 (m, 2 H) 7.75 - 7.96 (m, 2 H) 7.98 - 8.07 (m, 1 H).	20
3		LC-MS (A): t <sub>R</sub> = 1.09 min, m/z = 583/5 [M+1] <sup>+</sup>	30
4			40
5			

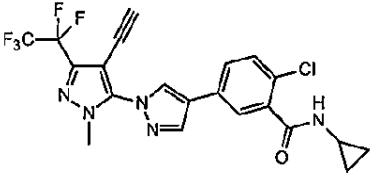
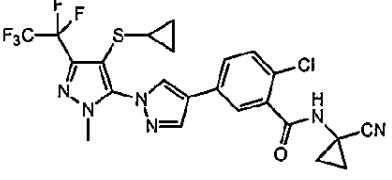
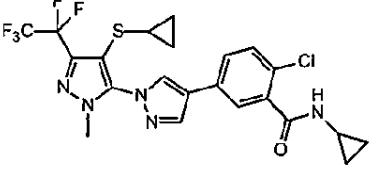
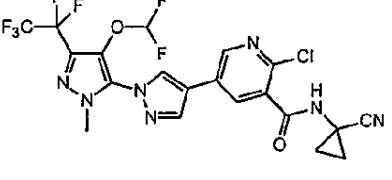
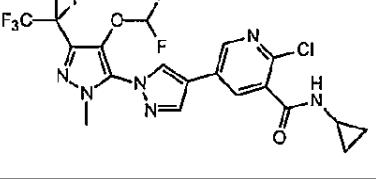
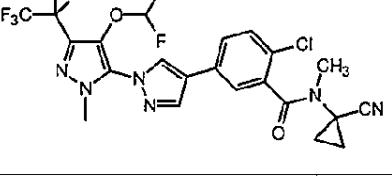
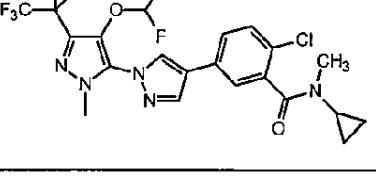
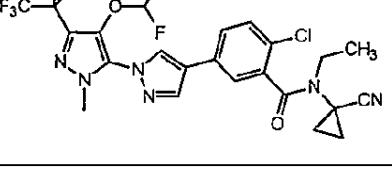
【表 5 - 2】

6		LC-MS (B): $t_R = 1.69$ min, $m/z = 490/2 [M+1]^+$	
7			10
8			
9		LC-MS (B): $t_R = 1.79$ min, $m/z = 525/7 [M+1]^+$	20
10			
11			30
12			
13			40

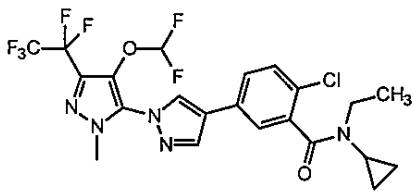
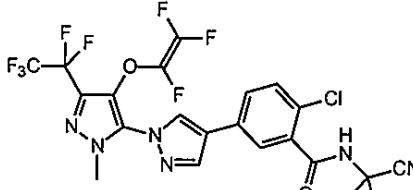
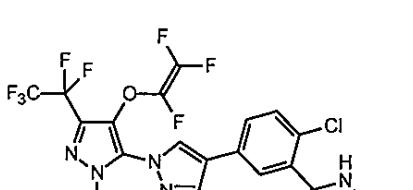
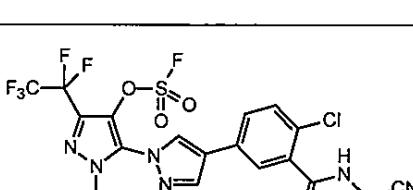
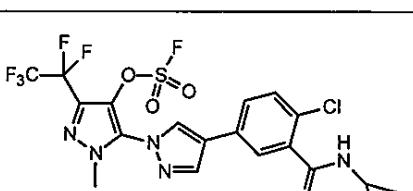
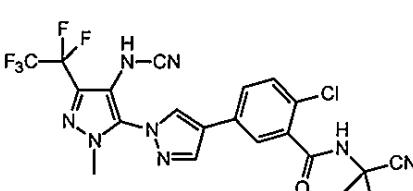
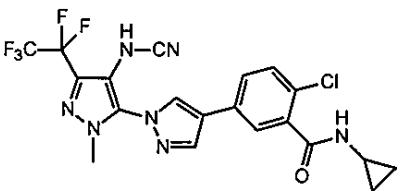
【表 5 - 3】

14			
15		(CDCl <sub>3</sub> ) δ ppm 1.41 - 1.44 (m, 2 H) 1.68 - 1.72 (m, 2 H) 3.79 (s, 3 H) 4.92 (d, J=17.97 Hz, 1 H) 5.17 - 5.23 (m, 1 H) 6.49 (dd, J=17.79, 11.55 Hz, 1 H) 6.90 (s, 1 H) 7.45 (d, J=8.07 Hz, 1 H) 7.57 (dd, J=8.44, 2.20 Hz, 1 H) 7.90 (s, 1 H) 7.96 (d, J=2.20 Hz, 1 H) 8.14 (d, J=0.73 Hz, 1 H).	10
16		(CDCl <sub>3</sub> ) δ ppm 0.66 - 0.70 (m, 2 H) 0.89 - 0.94 (m, 2 H) 2.91 - 2.97 (m, 1 H) 3.78 (s, 3 H) 4.88 - 4.95 (m, 1 H) 5.19 (dd, J=11.55, 0.92 Hz, 1 H) 6.40 (br. s., 1 H) 6.49 (dd, J=17.97, 11.37 Hz, 1 H) 7.41 - 7.45 (m, 1 H) 7.49 - 7.53 (m, 1 H) 7.87 (d, J=0.73 Hz, 2 H) 8.13 (d, J=0.73 Hz, 1 H).	20 30
17		LC-MS (B): t <sub>R</sub> = 1.75 min, m/z = 509/11 [M+1] <sup>+</sup>	40

【表 5 - 4】

18		LC-MS (B): $t_R = 1.77$ min, $m/z = 484/6 [M+1]^+$	
19			72-4
20			69-71
21		LC-MS (B): $t_R = 1.64$ min, $m/z = 552/4 [M+1]^+$	20
22		LC-MS (B): $t_R = 1.64$ min, $m/z = 527/9 [M+1]^+$	
23			30
24			
25			40

【表 5 - 5】

26			
27		10	
28		20	
29			
30		30	
31			40
32			

【表 5 - 6】

33			95-7
34			72-4
35			102-4
36			104-6
37		LC-MS (B): $t_R = 1.80$ min, $m/z = 601/03 [M+1]^+$	
38		LC-MS (B): $t_R = 1.77$ min, $m/z = 529/31 [M+1]^+$	169-70
39		LC-MS (B): $t_R = 1.75$ min, $m/z = 565/7 [M+1]^+$	

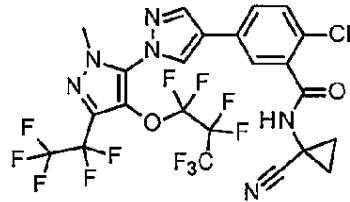
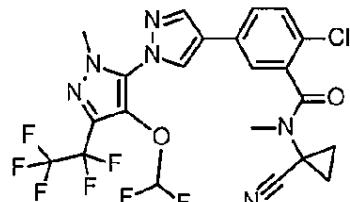
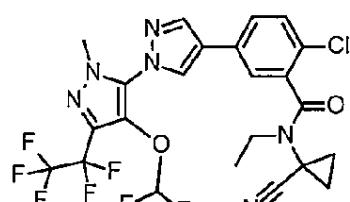
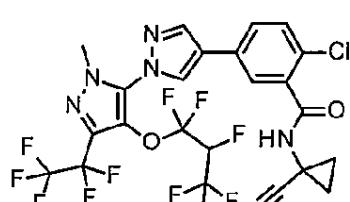
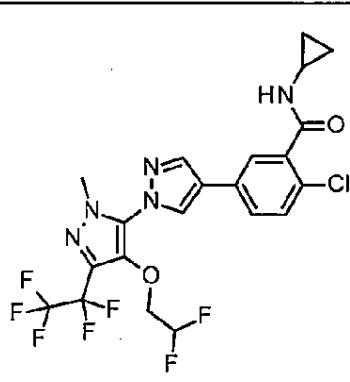
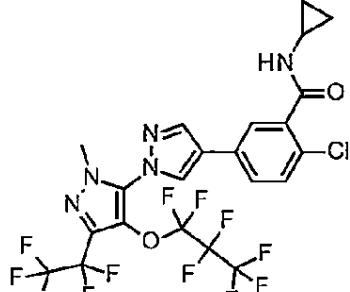
10

20

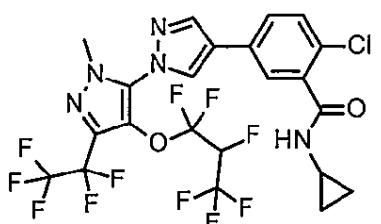
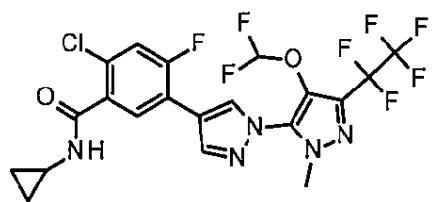
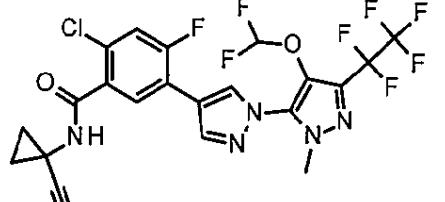
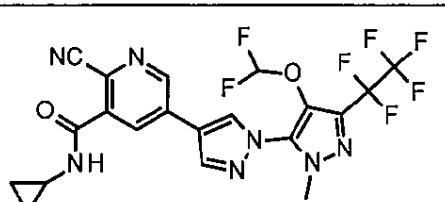
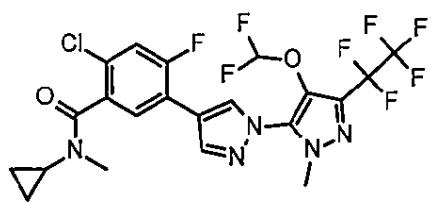
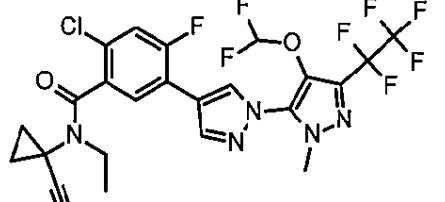
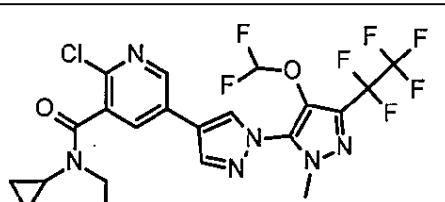
30

40

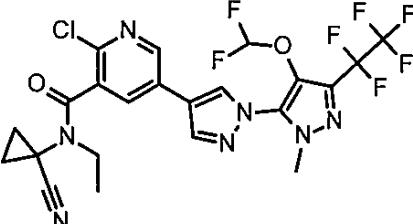
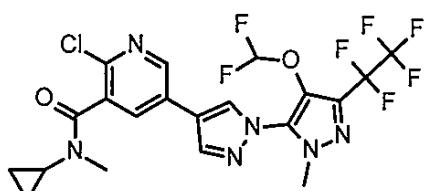
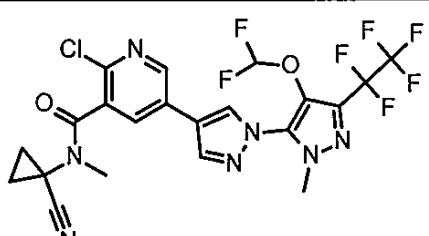
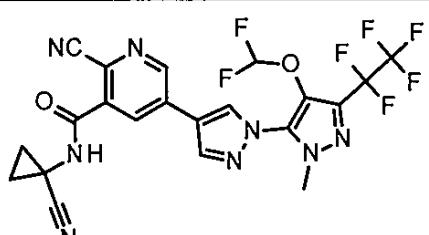
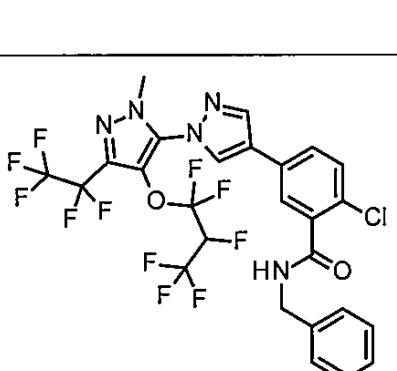
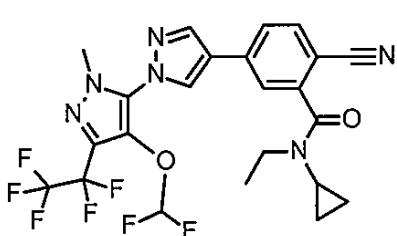
【表 5 - 7】

40		LC-MS (B): $t_R = 2.07$ min, $m/z = 669/71 [M+1]^+$	
41		LC-MS (B): $t_R = 1.86$ min, $m/z = 565/7 [M+1]^+$	10
42		LC-MS (B): $t_R = 1.92$ min, $m/z = 579/81 [M+1]^+$	20
43		LC-MS (B): $t_R = 1.92$ min, $m/z = 651/3 [M+1]^+$	
44		LC-MS (B): $t_R = 1.76$ min, $m/z = 540/2 [M+1]^+$	30
45		LC-MS (B): $t_R = 2.11$ min, $m/z = 644/6 [M+1]^+$	40

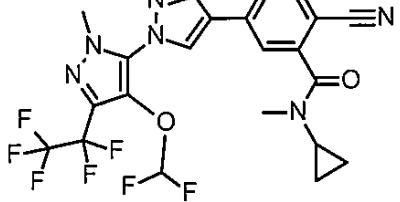
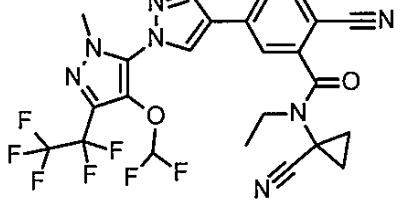
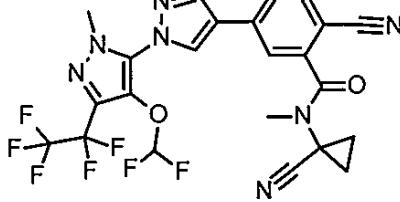
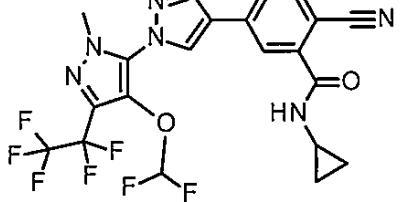
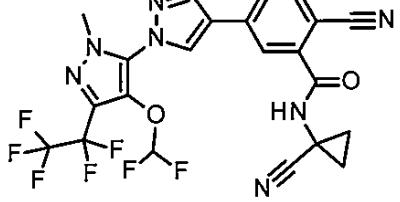
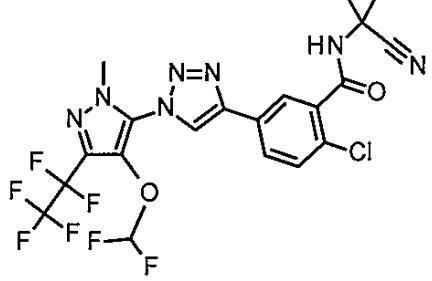
【表 5 - 8】

46		LC-MS (B): $t_R = 1.94$ min, m/z = 626/8 [M+1] <sup>+</sup>	
47		LC-MS (A): $t_R = 1.13$ min, m/z = 544 [M+1] <sup>+</sup> , 542 [M-1] <sup>-</sup>	10
48		LC-MS (A): $t_R = 1.11$ min, m/z = 569 [M+1] <sup>+</sup> , 567 [M-1] <sup>-</sup>	20
49		LC-MS (A): $t_R = 1.01$ min, m/z = 518 [M+1] <sup>+</sup> , 516 [M-1] <sup>-</sup>	
50		LC-MS (A): $t_R = 1.17$ min, m/z = 558 [M+1] <sup>+</sup>	30
51		LC-MS (A): $t_R = 1.17$ min, m/z = 597 [M+1] <sup>+</sup>	40
52		LC-MS (A): $t_R = 1.07$ min, m/z = 566 [M+1] <sup>+</sup>	

【表 5 - 9】

53		LC-MS (A): $t_R = 1.09$ min, m/z = 580 [M+1]+	
54		LC-MS (A): $t_R = 1.08$ min, m/z = 541 [M+1]+	10
55		LC-MS (A): $t_R = 1.12$ min, m/z = 555 [M+1]+, 553 [M-1]-	20
56		LC-MS (A): $t_R = 1.03$ min, m/z = 543 [M+1]+, 541 [M-1]-	30
57		LC-MS (B): $t_R = 2.09$ min, m/z = 676/8 [M+1]+	
58		LC-MS (A): $t_R = 1.12$ min, m/z = 545 [M+1]+	40

【表 5 - 10】

59		LC-MS (A): $t_R = 1.08$ min, m/z = 531 [M+1]+	
60		LC-MS (A): $t_R = 1.10$ min, m/z = 570 [M+1]+	10
61		LC-MS (A): $t_R = 1.07$ min, m/z = 556 [M+1]+	20
62		LC-MS (A): $t_R = 1.04$ min, m/z = 517 [M+1]+, 516 [M-1]-	30
63		LC-MS (A): $t_R = 1.03$ min, m/z = 542 [M+1]+, 540 [M-1]-	
64		LC-MS (A): $t_R = 1.05$ min, m/z = 552 [M+1]+, 550 [M-1]-	40

## 【表 5 - 11】

65		LC-MS (A): $t_R = 1.06$ min, m/z = 527 [M+1]	
----	--	---	--

10

## 【0217】

## 【表 6】

## 製剤化実施例(% = 重量パーセント)

## 実施例 F1: 乳剤濃縮物

	a)	b)	c)
活性成分	25%	40%	50%
ドデシルベンゼンスルホン酸カルシウム	5%	8%	6%
ヒマシ油ポリエチレングリコールエーテル(36 モルの EO)	5%	-	-
トリブチルフェノキシポリエチレングリコールエーテル(30 モルの EO)	-	12%	4%
シクロヘキサンオノン	15%	20%	-
キシレン混合物	65%	25%	20%

## 【0218】

30

任意の所望の濃度の乳剤が、水による希釈によってこのような濃縮物から調製され得る。

## 【0219】

## 【表 7】

## 実施例 F2: 液剤

	a)	b)	c)	d)
活性成分	80%	10%	5%	95%
エチレングリコールモノメチルエーテル	20%	-	-	-
ポリエチレングリコール(分子量 400)	-	70%	-	-
N-メチルピロリド-2-オン	-	20%	-	-
エポキシ化ヤシ油	-	-	1%	5%
石油エーテル(沸点範囲: 160~190°)	-	-	94%	-

40

## 【0220】

この液剤は、微液滴の形態で使用するのに好適である。

## 【0221】

## 【表 8】

<u>実施例 F3: 粒剤</u>	a)	b)	c)	d)
活性成分	5%	10%	8%	21%
カオリン	94%	-	79%	54%
高度に分散したシリカ	1%	-	13%	7%
アタパルジヤイト	-	90%	-	18%

10

## 【0222】

活性成分は、ジクロロメタンに溶解され、その溶液が、担体に噴霧され、その後、溶媒が、減圧下で蒸発される。

## 【0223】

## 【表 9】

<u>実施例 F4: ダスト剤</u>	a)	b)
活性成分	2%	5%
高度に分散したシリカ	1%	5%
タルク	97%	-
カオリン	-	90%

20

## 【0224】

即時使用可能なダスト剤が、担体および活性成分を均質混合することによって得られる。

## 【0225】

## 【表 10】

<u>実施例 F5: 水和剤</u>	a)	b)	c)
活性成分	25%	50%	75%
リグノスルホン酸ナトリウム	5%	5%	-
ラウリル硫酸ナトリウム	3%	-	5%
ジイソブチルナフタレンスルホン酸ナトリウム	-	6%	10%
オクチルフェノキシポリエチレングリコールエー	-	2%	-
テル(7~8 モルの EO)			
高度に分散したシリカ	5%	10%	10%
カオリン	62%	27%	-

30

40

## 【0226】

活性成分は、添加剤と混合され、混合物が、好適なミルにおいて十分に粉碎される。これにより、水和剤が得られ、これは、水で希釈されて、任意の所望の濃度の懸濁液が得られる。

## 【0227】

実施例 F 6 : 押出粒剤

50

活性成分：10%

リグノスルホン酸ナトリウム：2%

カルボキシメチルセルロース：1%

カオリン：87%

【0228】

活性成分は、添加剤と混合され、混合物は、粉碎され、水で濡らされ、押し出され、粒状にされ、空気流中で乾燥される。

【0229】

実施例F7：被覆粒剤

活性成分：3%

10

ポリエチレングリコール（分子量200）：3%

カオリン：94%

【0230】

ミキサー中において、微粉化された活性成分は、ポリエチレングリコールで濡らされたカオリンに均一に適用される。これにより、ほこりのない被覆された粒剤が得られる。

【0231】

実施例F8：懸濁濃縮物

活性成分：40%

エチレングリコール：10%

20

ノニルフェノキシポリエチレングリコールエーテル（15モルのEO）：6%

リグノスルホン酸ナトリウム：10%

カルボキシメチルセルロース：1%

37%のホルムアルデヒド水溶液：0.2%

シリコーン油（75%の水性乳剤）：0.8%

水：32%

【0232】

微粉化された活性成分は、添加剤と均質混合される。任意の所望の濃度の懸濁液が、水による希釈により、このように得られた懸濁濃縮物から調製され得る。

【0233】

【表11】

30

実施例F9: 乾燥種子処理用粉末	a)	b)	c)
活性処方成分	25%	50%	75%
軽質鉱油	5%	5%	5%
高分散ケイ酸	5%	5%	-
カオリン	65%	40%	-
タルカム	-	-	20%

40

【0234】

組合せを補助剤と完全に混合し、混合物を好適なミルで完全に粉碎して、種子処理に直接用いることが可能である粉末が得られる。

【0235】

実施例F10：乳化性濃縮物

活性処方成分：10%

オクチルフェノールポリエチレングリコールエーテル：3%

（4～5molのエチレンオキシド）

ドデシルベンゼンスルホン酸カルシウム：3%

ヒマシ油ポリグリコールエーテル（35molのエチレンオキシド）：4%

50

シクロヘキサン : 30 %

キシレン混合物 : 50 %

【0236】

植物の保護に用いることが可能であるいずれかの要求される希釈率のエマルジョンは、この濃縮物から水による希釈によって得ることが可能である。

【0237】

実施例F11：種子処理用流動性濃縮物

活性処方成分 : 40 %

プロピレングリコール : 5 %

コポリマーブタノールPO/EO : 2 %

10

10~20モルのEOを伴うトリスチレンフェノール : 2 %

1,2-ベンズイソチアゾリン-3-オン(20%水溶液の形態) : 0.5 %

モノアゾ-顔料カルシウム塩 : 5 %

シリコーン油(75%水中エマルジョンの形態) : 0.2 %

水 : 45.3 %

【0238】

この微粉化された組合せは、補助剤と均質混合され、懸濁濃縮物が得られ、この懸濁濃縮物から、任意の所望の希釈率の懸濁液が、水による希釈によって得られる。このような希釈を用いて、生きた植物ならびに植物繁殖材料が処理され、噴霧、注ぎかけまたは浸漬により、微生物による寄生から保護され得る。

20

【0239】

本発明に係る組成物の活性は、他の殺虫的に、殺ダニ的に、および/または殺真菌的に活性な成分を加えることによってかなり範囲が拡大され、一般的な状況に適合され得る。実施形態1~25のいずれか1つに記載の化合物と、他の殺虫的に、殺ダニ的に、および/または殺真菌的に活性な成分との混合物が、より広い意味で、相乗活性として記載されることもあるさらなる意外な利点も有し得る。例えば、植物によるより良好な耐容性、減少した植物毒性、昆虫がそれらの異なる発育段階で防除され得ること、あるいはそれらの製造中、例えば粉碎または混合中、それらの貯蔵中またはそれらの使用中におけるより良好な挙動がある。

【0240】

30

本明細書における活性成分への好適な添加剤は、例えば、以下の種類の活性成分が代表例である：有機リン化合物、ニトロフェノール誘導体、チオ尿素、幼若ホルモン、ホルムアミジン、ベンゾフェノン誘導体、尿素、ピロール誘導体、カルバメート、ピレスロイド、塩素化炭化水素、アシル尿素、ピリジルメチレンアミノ誘導体、マクロライド、ネオニコチノイドおよびバチルス・チューリングエンシス(*Bacillus thuringiensis*)調製物。

【0241】

実施形態1~25のいずれか1つに記載の化合物と、活性成分との以下の混合物が好ましい(「TX」という略語は、「実施形態1~25のいずれか1つ、好ましくは表1からの1つの実施形態に記載の化合物から選択される1つの化合物を意味する」)：

40

石油(代替名)(628)+TXからなる物質の群から選択される補助剤、

1,1-ビス(4-クロロフェニル)-2-エトキシエタノール(IUPAC名)(910)+TX、2,4-ジクロロフェニルベンゼンスルホネート(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1059)+TX、2-フルオロ-N-メチル-N-1-ナフチルアセドアミド(IUPAC名)(1295)+TX、4-クロロフェニルフェニルスルホン(IUPAC名)(981)+TX、アバメクチン(1)+TX、アセキノシル(3)+TX、アセトプロール[CCN]+TX、アクリナトリン(9)+TX、アルジカルブ(16)+TX、アルドキシカルブ(863)+TX、-シペルメトリン(202)+TX、アミジチオン(870)+TX、アミドフルメト[CCN]+TX、アミドチオエート(872)+TX、アミトン(875)+TX、アミトンシュウ酸水素塩(875)

50

+ TX、アミトラズ(24) + TX、アラマイト(881) + TX、三酸化ニヒ素(882) + TX、AVI 382(化合物コード) + TX、AZ 60541(化合物コード) + TX、アジンホス-エチル(44) + TX、アジンホス-メチル(45) + TX、アゾベンゼン(IUPAC名)(888) + TX、アゾシクロチン(46) + TX、アゾトエート(889) + TX、ベノミル(62) + TX、ベノキサホス(代替名)[CCN] + TX、ベンゾキシメート(71) + TX、安息香酸ベンジル(IUPAC名)[CCN] + TX、ビフェナゼート(74) + TX、ビフェントリン(76) + TX、ビナパクリル(907) + TX、ブロフェンバレート(代替名) + TX、ブロモシクレン(918) + TX、ブロモホス(920) + TX、ブロモホス-エチル(921) + TX、ブロモプロピレート(94) + TX、ブプロフェジン(99) + TX、ブトカルボキシム(103) + TX、ブトキシカルボキシム(104) + TX、ブチルピリダベン(代替名) + TX、多硫化カルシウム(IUPAC名)(111) + TX、カンフェクロル(941) + TX、カーバノレート(943) + TX、カルバリル(115) + TX、カルボフラン(118) + TX、カルボフェノチオン(947) + TX、CGA 50'439(開発コード)(125) + TX、キノメチオナト(126) + TX、クロルベンシド(959) + TX、クロルジメホルム(964) + TX、クロルジメホルム塩酸塩(964) + TX、クロルフェナビル(130) + TX、クロルフェネトール(968) + TX、クロルフェンソン(970) + TX、クロルフェンスルフィド(971) + TX、クロルフェンビンホス(131) + TX、クロロベンジレート(975) + TX、クロロメブホルム(977) + TX、クロロメチウロン(978) + TX、クロロプロピレート(983) + TX、クロルピリホス(145) + TX、クロルピリホス-メチル(146) + TX、クロルチオホス(994) + TX、シネリンI(696) + TX、シネリンII(696) + TX、シネリン(696) + TX、クロフェンテジン(158) + TX、クロサンテル(代替名)[CCN] + TX、クマホス(174) + TX、クロタミトン(代替名)[CCN] + TX、クロトキシホス(1010) + TX、クフラネブ(1013) + TX、シアントエート(1020) + TX、シフルメトフェン(CAS登録番号:400882-07-7) + TX、シハロトリン(196) + TX、シヘキサチン(199) + TX、スペルメトリン(201) + TX、DCPM(1032) + TX、DDT(219) + TX、デメフィオン(1037) + TX、デメフィオン-O(1037) + TX、デメフィオン-S(1037) + TX、デメトン(1038) + TX、デメトン-メチル(224) + TX、デメトン-O(1038) + TX、デメトン-O-メチル(224) + TX、デメトン-S(1038) + TX、デメトン-S-メチル(224) + TX、デメトン-S-メチルスルホン(1039) + TX、ジアフェンチウロン(226) + TX、ジアリホス(1042) + TX、ジアジノン(227) + TX、ジクロフルアニド(230) + TX、ジクロルボス(236) + TX、ジクリホス(代替名) + TX、ジコホル(242) + TX、ジクロトホス(243) + TX、ジエノクロル(1071) + TX、ジメホックス(1081) + TX、ジメトエート(262) + TX、ジナクチン(代替名)(653) + TX、ジネクス(1089) + TX、ジネクス-ジクレキシン(1089) + TX、ジノブトン(269) + TX、ジノカップ(270) + TX、ジノカップ-4[CCN] + TX、ジノカップ-6[CCN] + TX、ジノクトン(1090) + TX、ジノペントン(1092) + TX、ジノスルホン(1097) + TX、ジノテルボン(1098) + TX、ジオキサチオン(1102) + TX、ジフェニルスルホン(IUPAC名)(1103) + TX、ジスルフィラム(代替名)[CCN] + TX、ジスルホトン(278) + TX、DNOOC(282) + TX、ドフェナピン(1113) + TX、ドラメクチン(代替名)[CCN] + TX、エンドスルファン(294) + TX、エンドチオン(1121) + TX、EPN(297) + TX、エプリノメクチン(代替名)[CCN] + TX、エチオン(309) + TX、エトエート-メチル(1134) + TX、エトキサゾール(320) + TX、エトリムホス(1142) + TX、フェナザフロル(1147) + TX、フェナザキン(328) + TX、酸化フェンブタスズ(330) + TX、フェノチオカルブ(337) + TX、フェンプロパトリン(342) + TX、フェンピラド(代替名) + TX

X、フェンピロキシメート(345) + TX、フェンソン(1157) + TX、フェントリファニル(1161) + TX、フェンバレレート(349) + TX、フィプロニル(354) + TX、フルアクリピリム(360) + TX、フルアズロン(1166) + TX、フルベンジミン(1167) + TX、フルシクロクスロン(366) + TX、フルシリネート(367) + TX、フルエネチル(1169) + TX、フルフェノクスロン(370) + TX、フルメトリン(372) + TX、フルオルベンシド(1174) + TX、フルバリネット(1184) + TX、FMC 1137(開発コード)(1185) + TX、ホルメタネート(405) + TX、塩酸ホルメタネート(405) + TX、ホルモチオン(1192) + TX、ホルムパラネート(1193) + TX、 - HCH(430) + TX、グリオジン(1205) + TX、ハルフェンプロックス(424) + TX、ヘプテノホス(432) + TX、ヘキサデシルシクロプロパンカルボキシレート(IUPAC / ケミカルアブストラクト名)(1216) + TX、ヘキシチアゾクス(441) + TX、ヨードメタン(IUPAC名)(542) + TX、イソカルボホス(代替名)(473) + TX、イソプロピルO-(メトキシアミノチオホスホリル)サリチレート(IUPAC名)(473) + TX、イベルメクチン(代替名)[CCN] + TX、ジャスモリンI(696) + TX、ジャスモリンII(696) + TX、ヨードフェンホス(1248) + TX、リンダン(430) + TX、ルフェヌロン(490) + TX、マラチオン(492) + TX、マロノベン(1254) + TX、メカルバム(502) + TX、メホスホラン(1261) + TX、メスルフェン(代替名)[CCN] + TX、メタクリホス(1266) + TX、メタミドホス(527) + TX、メチダチオン(529) + TX、メチオカルブ(530) + TX、メトミル(531) + TX、臭化メチル(537) + TX、メトルカルブ(550) + TX、メビンホス(556) + TX、メキサカルベート(1290) + TX、ミルベメクチン(557) + TX、ミルベマイシンオキシム(代替名)[CCN] + TX、ミパホックス(1293) + TX、モノクロトホス(561) + TX、モルホチオン(1300) + TX、モキシデクチン(代替名)[CCN] + TX、ナレド(567) + TX、NC-184(化合物コード) + TX、NC-512(化合物コード) + TX、ニフルリジド(1309) + TX、ニコマイシン(代替名)[CCN] + TX、二トリラカルブ(1313) + TX、二トリラカルブ1:1塩化亜鉛錯体(1313) + TX、NNI-0101(化合物コード) + TX、NNI-0250(化合物コード) + TX、オメトエート(594) + TX、オキサミル(602) + TX、オキシデプロホス(1324) + TX、オキシジスルホトン(1325) + TX、pp'-DDT(219) + TX、バラチオン(615) + TX、ペルメトリン(626) + TX、石油(代替名)(628) + TX、フェンカプトン(1330) + TX、フェントエート(631) + TX、ホレート(636) + TX、ホサロン(637) + TX、ホスホラン(1338) + TX、ホスマット(638) + TX、ホスファミド(639) + TX、ホキシム(642) + TX、ピリミホス-メチル(652) + TX、ポリクロロテルペン(慣用名)(1347) + TX、ポリナクチン(代替名)(653) + TX、プロクロノール(1350) + TX、プロフェノホス(662) + TX、プロマシル(1354) + TX、プロパルギット(671) + TX、プロペタンホス(673) + TX、プロポクサー(678) + TX、プロチダチオン(1360) + TX、プロトエート(1362) + TX、ピレトリニ(696) + TX、ピレトリニII(696) + TX、ピレトリニ(696) + TX、ピリダベン(699) + TX、ピリダフェンチオン(701) + TX、ピリミジフェン(706) + TX、ピリミテート(1370) + TX、キナルホス(711) + TX、キンチオホス(quintiofoss)(1381) + TX、R-1492(開発コード)(1382) + TX、RA-17(開発コード)(1383) + TX、ロテノン(722) + TX、シュラーダン(1389) + TX、セブホス(代替名) + TX、セラメクチン(代替名)[CCN] + TX、SI-0009(化合物コード) + TX、ソファミド(1402) + TX、スピロジクロフェン(738) + TX、スピロメシフェン(739) + TX、SSI-121(開発コード)(1404) + TX、スルフィラム(代替名)[CCN] + TX、スルフルアミド(750) + TX、スルホテップ(753) + TX、硫黄 10  
20  
30  
40  
50

( 7 5 4 ) + TX、S Z I - 1 2 1 ( 開発コード ) ( 7 5 7 ) + TX、 - フルバリネート ( 3 9 8 ) + TX、テブフェンピラド ( 7 6 3 ) + TX、T E P P ( 1 4 1 7 ) + TX、テルバム ( 代替名 ) + TX、テトラクロルビンホス ( 7 7 7 ) + TX、テトラジホン ( 7 8 6 ) + TX、テトラナクチン ( 代替名 ) ( 6 5 3 ) + TX、テトラスル ( 1 4 2 5 ) + TX、チアフェノックス ( 代替名 ) + TX、チオカルボキシム ( 1 4 3 1 ) + TX、チオファノックス ( 8 0 0 ) + TX、チオメトン ( 8 0 1 ) + TX、チオキノックス ( 1 4 3 6 ) + TX、ツリンギエンシン ( 代替名 ) [ C C N ] + TX、トリアミホス ( 1 4 4 1 ) + TX、トリアラテン ( 1 4 4 3 ) + TX、トリアゾホス ( 8 2 0 ) + TX、トリアズロン ( 代替名 ) + TX、トリクロルホン ( 8 2 4 ) + TX、トリフェノホス ( 1 4 5 5 ) + TX、トリナクチン ( 代替名 ) ( 6 5 3 ) + TX、バミドチオン ( 8 4 7 ) + TX、バニリプロール [ C C N ] および Y I - 5 3 0 2 ( 化合物コード ) + TX からなる物質の群から選択される殺ダニ剤、  
10

ベトキサジン [ C C N ] + TX、ジオクタタン酸銅 ( I U P A C 名 ) ( 1 7 0 ) + TX、硫酸銅 ( 1 7 2 ) + TX、シブトリン [ C C N ] + TX、ジクロン ( 1 0 5 2 ) + TX、ジクロロフェン ( 2 3 2 ) + TX、エンドタール ( 2 9 5 ) + TX、フェンチン ( 3 4 7 ) + TX、消石灰 [ C C N ] + TX、ナーバム ( 5 6 6 ) + TX、キノクラミン ( 7 1 4 ) + TX、キノナミド ( 1 3 7 9 ) + TX、シマジン ( 7 3 0 ) + TX、酢酸トリフェニルスズ ( I U P A C 名 ) ( 3 4 7 ) + TX からなる物質の群から選択される殺藻剤、

アバメクチン ( 1 ) + TX、クルホマート ( 1 0 1 1 ) + TX、ドラメクチン ( 代替名 ) [ C C N ] + TX、エマメクチン ( 2 9 1 ) + TX、エマメクチン安息香酸塩 ( 2 9 1 ) + TX、エプリノメクチン ( 代替名 ) [ C C N ] + TX、イベルメクチン ( 代替名 ) [ C C N ] + TX、ミルベマイシンオキシム ( 代替名 ) [ C C N ] + TX、モキシデクチン ( 代替名 ) [ C C N ] + TX、ピペラジン [ C C N ] + TX、セラメクチン ( 代替名 ) [ C C N ] + TX、スピノサド ( 7 3 7 ) およびチオファネート ( 1 4 3 5 ) + TX からなる物質の群から選択される駆虫剤、  
20

クロラロース ( 1 2 7 ) + TX、エンドリン ( 1 1 2 2 ) + TX、フェンチオン ( 3 4 6 ) + TX、ピリジン - 4 - アミン ( I U P A C 名 ) ( 2 3 ) およびストリキニーネ ( 7 4 5 ) + TX からなる物質の群から選択される殺鳥剤、

1 - ヒドロキシ - 1 H - ピリジン - 2 - チオン ( I U P A C 名 ) ( 1 2 2 2 ) + TX、4 - ( キノキサリン - 2 - イルアミノ ) ベンゼンスルホンアミド ( I U P A C 名 ) ( 7 4 8 ) + TX、8 - ヒドロキシキノリン硫酸塩 ( 4 4 6 ) + TX、プロノポール ( 9 7 ) + TX、ジオクタタン酸銅 ( I U P A C 名 ) ( 1 7 0 ) + TX、水酸化銅 ( I U P A C 名 ) ( 1 6 9 ) + TX、クレゾール [ C C N ] + TX、ジクロロフェン ( 2 3 2 ) + TX、ジビリチオン ( 1 1 0 5 ) + TX、ドジシン ( 1 1 1 2 ) + TX、フェナミノスルフ ( 1 1 4 4 ) + TX、ホルムアルデヒド ( 4 0 4 ) + TX、ヒドラルガフェン ( 代替名 ) [ C C N ] + TX、カスガマイシン ( 4 8 3 ) + TX、塩酸カスガマイシン水和物 ( 4 8 3 ) + TX、ニッケルビス ( ジメチルジチオカルバメート ) ( I U P A C 名 ) ( 1 3 0 8 ) + TX、ニトラビリン ( 5 8 0 ) + TX、オクチリノン ( 5 9 0 ) + TX、オキソリン酸 ( 6 0 6 ) + TX、オキシテトラサイクリン ( 6 1 1 ) + TX、カリウムヒドロキシキノリン硫酸塩 ( 4 4 6 ) + TX、プロベナゾール ( 6 5 8 ) + TX、ストレプトマイシン ( 7 4 4 ) + TX、セスキ硫酸ストレプトマイシン ( 7 4 4 ) + TX、テクロフタラム ( 7 6 6 ) + TX、およびチオメルサール ( 代替名 ) [ C C N ] + TX からなる物質の群から選択される殺菌剤、  
30

コカクモンハマキ ( Adoxophyes orana ) G V ( 代替名 ) ( 1 2 ) + TX、アグロバクテリウム・ラジオバクター ( Agrobacterium radiobacter ) ( 代替名 ) ( 1 3 ) + TX、ムチカブリダニ属 ( Amblyseius spp. ) ( 代替名 ) ( 1 9 ) + TX、アナグラファ・ファルシフェラ ( Anagrypha falcifera ) N P V ( 代替名 ) ( 2 8 ) + TX、アナグルス・アトムス ( Anagrus atomus ) ( 代替名 ) ( 2 9 ) + TX、アフェリヌス・アブドミナリ  
40

10

20

30

40

50

ス (*Aphelinus abdominalis*) (代替名) (33) + TX、アフィジウス・コレマニ (*Aphidius colemani*) (代替名) (34) + TX、アフィドレテス・アフィジミザ (*Aphidoletes aphidimyza*) (代替名) (35) + TX、オートグラファ・カリフォルニカ (*Autographa californica*) NPV (代替名) (38) + TX、バチルス・フィルムス (*Bacillus firmus*) (代替名) (48) + TX、バチルス・スフェリクス・ネイデ (*Bacillus sphaericus Neide*) (学名) (49) + TX、バチルス・チューリングンシス・ベルリナー (*Bacillus thuringiensis Berliner*) (学名) (51) + TX、バチルス・チューリングンシス亜種アイザワイ (*Bacillus thuringiensis subsp. aizawai*) (学名) (51) + TX、バチルス・チューリングンシス亜種イスラエンシス (*Bacillus thuringiensis subsp. israelensis*) (学名) (51) + TX、バチルス・チューリングンシス亜種ジャポネンシス (*Bacillus thuringiensis subsp. japonensis*) (学名) (51) + TX、バチルス・チューリングンシス亜種クルスターイ (*Bacillus thuringiensis subsp. kurstaki*) (学名) (51) + TX、バチルス・チューリングンシス亜種テネブリオニス (*Bacillus thuringiensis subsp. tenebrionis*) (学名) (51) + TX、ビューベリア・バシアナ (*Beauveria bassiana*) (代替名) (53) + TX、ビューベリア・ブロングニアルティ (*Beauveria brongniartii*) (代替名) (54) + TX、クリソペラ・カルネア (*Chrysoperla carnea*) (代替名) (151) + TX、ツマアカオオテントウムシ (*Cryptolaemus montrouzieri*) (代替名) (178) + TX、コドリンガ (*Cydia pomonella*) GV (代替名) (191) + TX、ハモグリコマユバチ (*Dacus sibirica*) (代替名) (212) + TX、イサエアヒメコバチ (*Diglyphus isaea*) (代替名) (254) + TX、オンシツツヤコバチ (*Encarsia formosa*) (学名) (293) + TX、サバクツヤコバチ (*Eretmocerus eremicus*) (代替名) (300) + TX、アメリカタバコガ (*Helicoverpa zea*) NPV (代替名) (431) + TX、ヘテロラブディティス・バクテリオフォラ (*Heterorhabditis bacteriophora*) および H. メギディス (*H. megidis*) (代替名) (433) + TX、サカハチテントウ (*Hippodamia convergens*) (代替名) (442) + TX、レプトマスティクス・ダクチロピイ (*Leptomastix dactylopii*) (代替名) (488) + TX、マクロロフス・カリギノスス (*Macrolophus caliginosus*) (代替名) (491) + TX、ヨトウガ (*Mamestra brassicae*) NPV (代替名) (494) + TX、メタフィカス・ヘルボルス (*Metaphycus helvolus*) (代替名) (522) + TX、メタリジウム・アニソブリエ変種アクリヅム (*Metarhizium anisopliae var. acridum*) (学名) (523) + TX、メタリジウム・アニソブリエ変種アニソブリエ (*Metarhizium anisopliae var. anisopliae*) (学名) (523) + TX、マツノキハバチ (*Neodiprion sertifer*) NPV および N. レコンティ (*N. lecontei*) NPV (代替名) (575) + TX、オリウス属 (*Orius spp.*) (代替名) (596) + TX、ペシロマイセス・フモソロセウス (*Paecilomyces fumosoroseus*) (代替名) (613) + TX、チリカブリダニ (*Phytoseiulus persimilis*) (代替名) (644) + TX、シロイチモジヨトウ (*Spodoptera exigua*) 多カプシド核多角体病ウイルス (学名) (741) + TX、スタイナーネマ・ビビオニス (*Steinernema bibionis*) (代替名) (742) + TX、スタイナーネマ・カルポカブサエ (*Steinernema carpocapsae*) (代替名) (742) + TX、スタイナーネマ・フェルチアエ (50) + TX

Steinerinema feltiae) (代替名) (742) + TX、スタイナーネマ・グラッセリ (Steinerinema glaseri) (代替名) (742) + TX、スタイナーネマ・リオブラベ (Steinerinema riobrave) (代替名) (742) + TX、スタイナーネマ・リオブラビス (Steinerinema riobravis) (代替名) (742) + TX、スタイナーネマ・スカプテリシ (Steinerinema scapterisci) (代替名) (742) + TX、スタイナーネマ属 (Steinerinema spp.) (代替名) (742) + TX、トリコグラムマ属 (Trichogramma spp.) (代替名) (826) + TX、チフロドロムス・オシデンタリス (Typhlodromus occidentalis) (代替名) (844) 10 およびバーティシリウム・レカニ (Verticillium lecanii) (代替名) (848) + TX からなる物質の群から選択される生物剤、ヨードメタン (IUPAC名) (542) および臭化メチル (537) + TX からなる物質の群から選択される土壤滅菌剤、アフォレート [CCN] + TX、ビサジル (代替名) [CCN] + TX、ブスルファン (代替名) [CCN] + TX、ジフルベンズロン (250) + TX、ジマチフ (代替名) [CCN] + TX、ヘメル [CCN] + TX、ヘンパ [CCN] + TX、メテパ [CCN] + TX、メチオテパ [CCN] + TX、メチルアフォレート [CCN] + TX、モルジド [CCN] + TX、ペンフルロン (代替名) [CCN] + TX、テパ [CCN] + TX、チオヘンパ (代替名) [CCN] + TX、チオテパ (代替名) [CCN] + TX、トレタミン (代替名) [CCN] およびウレデパ (代替名) [CCN] + TX からなる物質の群から選択される不妊化剤、  
(E) - デカ - 5 - エン - 1 - イルアセテートおよび (E) - デカ - 5 - エン - 1 - オール (IUPAC名) (222) + TX、(E) - トリデカ - 4 - エン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (829) + TX、(E) - 6 - メチルヘpta - 2 - エン - 4 - オール (IUPAC名) (541) + TX、(E, Z) - テトラデカ - 4, 10 - ジエン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (779) + TX、(Z) - ドデカ - 7 - エン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (285) + TX、(Z) - ヘキサデカ - 11 - エナール (IUPAC名) (436) + TX、(Z) - ヘキサデカ - 11 - エン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (437) + TX、(Z) - ヘキサデカ - 13 - エン - 11 - イン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (438) + TX、(Z) - イコサ - 13 - エン - 10 - オン (IUPAC名) (448) + TX、(Z) - テトラデカ - 7 - エン - 1 - アール (IUPAC名) (782) + TX、(Z) - テトラデカ - 9 - エン - 1 - オール (IUPAC名) (783) + TX、(Z) - テトラデカ - 9 - エン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (784) + TX、(7E, 9Z) - ドデカ - 7, 9 - ジエン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (283) + TX、(9Z, 11E) - テトラデカ - 9, 11 - ジエン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (780) + TX、(9Z, 12E) - テトラデカ - 9, 12 - ジエン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (781) + TX、14 - メチルオクタデカ - 1 - エン (IUPAC名) (545) + TX、4 - メチルノナン - 5 - オールおよび 4 - メチルノナン - 5 - オン (IUPAC名) (544) + TX、 - マルチストリアチン (代替名) [CCN] + TX、ブレビコミン (代替名) [CCN] + TX、コドレルア (代替名) [CCN] + TX、コドレモン (代替名) (167) + TX、キュールア (代替名) (179) + TX、ディスパールア (277) + TX、ドデカ - 8 - エン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (286) + TX、ドデカ - 9 - エン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (287) + TX、ドデカ - 8 + TX、10 - ジエン - 1 - イルアセテート (IUPAC名) (284) + TX、ドミニカルア (代替名) [CCN] + TX、4 - メチルオクタタン酸エチル (IUPAC名) (317) + TX、オイゲノール (代替名) [CCN] + TX、フロンタリン (代替名) [CCN] + TX、ゴシップルア (代替名) (420) + TX、グランドルア (421) + TX、グランドルア I (代替名) (421) + TX、グランドルア II (代替名) (421) + TX、グランドルア III (代替名) (421) + TX、グランドルア IV (代替名) (50

4 2 1 ) + TX、ヘキサルア [ C C N ] + TX、イプスジエノール(代替名) [ C C N ] + TX、イプセノール(代替名) [ C C N ] + TX、ジャポニルア(代替名)(481) + TX、リネアチン(代替名) [ C C N ] + TX、リトルア(代替名) [ C C N ] + TX、ループルア(代替名) [ C C N ] + TX、メドルア [ C C N ] + TX、メガトモ酸(代替名) [ C C N ] + TX、メチルオイゲノール(代替名)(540) + TX、ムスカルア(563) + TX、オクタデカ-2,13-ジエン-1-イルアセテート(IUPAC名)(588) + TX、オクタデカ-3,13-ジエン-1-イルアセテート(IUPAC名)(589) + TX、オルフラルア(代替名) [ C C N ] + TX、オリクタルア(代替名)(317) + TX、オストラモン(代替名) [ C C N ] + TX、シグルア [ C C N ] + TX、ソルジジン(代替名)(736) + TX、スルカトール(代替名) [ C C N ] + TX、テトラデカ-11-エン-1-イルアセテート(IUPAC名)(785) + TX、トリメドルア(839) + TX、トリメドルアA(代替名)(839) + TX、トリメドルアB<sub>1</sub>(代替名)(839) + TX、トリメドルアB<sub>2</sub>(代替名)(839) + TX、トリメドルアC(代替名)(839)およびトランク-コール(trunc-call)(代替名) [ C C N ] + TXからなる物質の群から選択される昆虫フェロモン、  
 2-(オクチルチオ)エタノール(IUPAC名)(591) + TX、ブトピロノキシリ(933) + TX、ブトキシ(ポリプロピレングリコール)(936) + TX、アジビン酸ジブチル(IUPAC名)(1046) + TX、フタル酸ジブチル(1047) + TX、コハク酸ジブチル(IUPAC名)(1048) + TX、ジエチルトルアミド [ C C N ] + TX、ジメチルカルベート [ C C N ] + TX、フタル酸ジメチル [ C C N ] + TX、エチルヘキサンジオール(1137) + TX、ヘキサアミド [ C C N ] + TX、メトキン-ブチル(1276) + TX、メチルネオデカンアミド [ C C N ] + TX、オキサメート [ C C N ] およびピカリジン [ C C N ] + TXからなる物質の群から選択される昆虫忌避剤、  
 1-ジクロロ-1-ニトロエタン(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1058) + TX、1,1-ジクロロ-2,2-ビス(4-エチルフェニル)エタン(IUPAC名)(1056)、+ TX、1,2-ジクロロプロパン(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1062) + TX、1,2-ジクロロプロパンおよび1,3-ジクロロプロペン(IUPAC名)(1063) + TX、1-ブロモ-2-クロロエタン(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(916) + TX、2,2,2-トリクロロ-1-(3,4-ジクロロフェニル)エチルアセテート(IUPAC名)(1451) + TX、2,2-ジクロロビニル2-エチルスルフィニルエチルメチルホスフェート(IUPAC名)(1066) + TX、2-(1,3-ジチオラン-2-イル)フェニルジメチルカルバメート(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1109) + TX、2-(2-ブトキシエトキシ)エチルチオシアネート(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(935) + TX、2-(4,5-ジメチル-1,3-ジオキソラン-2-イル)フェニルメチルカルバメート(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1084) + TX、2-(4-クロロ-3,5-キシリルオキシ)エタノール(IUPAC名)(986) + TX、2-クロロビニルジエチルホスフェート(IUPAC名)(984) + TX、2-イミダゾリドン(IUPAC名)(1225) + TX、2-イソバレリルインダン-1,3-ジオン(IUPAC名)(1246) + TX、2-メチル(プロパ-2-イニル)アミノフェニルメチルカルバメート(IUPAC名)(1284) + TX、2-チオシアナトエチルラウレート(IUPAC名)(1433) + TX、3-ブロモ-1-クロロプロパ-1-エン(IUPAC名)(917) + TX、3-メチル-1-フェニルピラゾール-5-イルジメチルカルバメート(IUPAC名)(1283) + TX、4-メチル(プロパ-2-イニル)アミノ-3,5-キシリルメチルカルバメート(IUPAC名)(1285) + TX、5,5-ジメチル-3-オキソシクロヘキサ-1-エニルジメチルカルバメート(IUPAC名)(1085) + TX、アバメクチン(1) + TX、アセフェート(2) + TX、アセタミブリド(4) + TX、アセチオン(代替名) [ C C N ] + TX、アセトプロール [ C C N ] + TX、アクリナトリン(9) + TX、アクリロニトリル(IUP 10  
 20  
 30  
 40  
 50

A C 名 ) ( 8 6 1 ) + T X 、 アラニカルブ ( 1 5 ) + T X 、 アルジカルブ ( 1 6 ) + T X  
 、 アルドキシカルブ ( 8 6 3 ) + T X 、 アルドリン ( 8 6 4 ) + T X 、 アレスリン ( 1 7 )  
 ) + T X 、 アロサミジン ( 代替名 ) [ C C N ] + T X 、 アリキシカルブ ( 8 6 6 ) + T X  
 、 - シペルメトリン ( 2 0 2 ) + T X 、 - エクジソン ( 代替名 ) [ C C N ] + T X 、  
 リン化アルミニウム ( 6 4 0 ) + T X 、 アミジチオン ( 8 7 0 ) + T X 、 アミドチオエー  
 ト ( 8 7 2 ) + T X 、 アミノカルブ ( 8 7 3 ) + T X 、 アミトン ( 8 7 5 ) + T X 、 アミ  
 トンシュウ酸水素塩 ( 8 7 5 ) + T X 、 アミトラズ ( 2 4 ) + T X 、 アナバシン ( 8 7 7 )  
) + T X 、 アチダチオン ( 8 8 3 ) + T X 、 A V I 3 8 2 ( 化合物コード ) + T X 、 A  
 Z 6 0 5 4 1 ( 化合物コード ) + T X 、 アザジラクチン ( 代替名 ) ( 4 1 ) + T X 、 ア  
 ザメチホス ( 4 2 ) + T X 、 アジンホス - エチル ( 4 4 ) + T X 、 アジンホス - メチル ( 10  
 4 5 ) + T X 、 アゾトエート ( 8 8 9 ) + T X 、 バチルス・チューリゲンシス ( B a c i  
 l l u s t h u r i n g i e n s i s ) デルタエンドトキシン ( 代替名 ) ( 5 2 ) + T  
 X 、 ヘキサフルオロケイ酸バリウム ( 代替名 ) [ C C N ] + T X 、 多硫化バリウム ( I U  
 P A C / ケミカルアブストラクト名 ) ( 8 9 2 ) + T X 、 バルトリン [ C C N ] + T X 、  
 B a y e r 2 2 / 1 9 0 ( 開発コード ) ( 8 9 3 ) + T X 、 B a y e r 2 2 4 0 8 ( 20  
 開発コード ) ( 8 9 4 ) + T X 、 ベンジオカルブ ( 5 8 ) + T X 、 ベンフラカルブ ( 6 0 )  
) + T X 、 ベンスルタップ ( 6 6 ) + T X 、 - シフルトリン ( 1 9 4 ) + T X 、 - シ  
 ペルメトリン ( 2 0 3 ) + T X 、 ピフェントリン ( 7 6 ) + T X 、 ピオアレトリン ( 7 8 )  
) + T X 、 ピオアレトリン S - シクロペンテニル異性体 ( 代替名 ) ( 7 9 ) + T X 、 ピオ  
 エタノメトリン [ C C N ] + T X 、 ピオペルメトリン ( 9 0 8 ) + T X 、 ピオレスメトリ  
ン ( 8 0 ) + T X 、 ビス ( 2 - クロロエチル ) エーテル ( I U P A C 名 ) ( 9 0 9 ) + T  
X 、 ピストリフルロン ( 8 3 ) + T X 、 ホウ砂 ( 8 6 ) + T X 、 プロフェンバレート ( 30  
代替名 ) + T X 、 プロムフェンビンホス ( 9 1 4 ) + T X 、 プロモシクレン ( 9 1 8 ) +  
T X 、 プロモ - D D T ( 代替名 ) [ C C N ] + T X 、 プロモホス ( 9 2 0 ) + T X 、 プロ  
モホス - エチル ( 9 2 1 ) + T X 、 プフェンカルブ ( 9 2 4 ) + T X 、 ププロフェジン ( 9 9 )  
+ T X 、 プタカルブ ( 9 2 6 ) + T X 、 プタチオホス ( 9 2 7 ) + T X 、 プトカル  
ボキシム ( 1 0 3 ) + T X 、 プトネート ( 9 3 2 ) + T X 、 プトキシカルボキシム ( 1 0  
4 ) + T X 、 プチルピリダベン ( 代替名 ) + T X 、 カズサホス ( 1 0 9 ) + T X 、 ヒ酸カ  
ルシウム [ C C N ] + T X 、 シアン化カルシウム ( 4 4 4 ) + T X 、 多硫化カルシウム ( I U P  
A C 名 ) ( 1 1 1 ) + T X 、 カンフェクロル ( 9 4 1 ) + T X 、 カーバノレート ( 35  
9 4 3 ) + T X 、 カルバリル ( 1 1 5 ) + T X 、 カルボフラン ( 1 1 8 ) + T X 、 二硫化  
炭素 ( I U P A C / ケミカルアブストラクト名 ) ( 9 4 5 ) + T X 、 四塩化炭素 ( I U P  
A C 名 ) ( 9 4 6 ) + T X 、 カルボフェノチオン ( 9 4 7 ) + T X 、 カルボスルファン ( 1 1 9 )  
+ T X 、 カルタップ ( 1 2 3 ) + T X 、 カルタップ塩酸塩 ( 1 2 3 ) + T X 、 セ  
バジン ( 代替名 ) ( 7 2 5 ) + T X 、 クロルビシクレン ( 9 6 0 ) + T X 、 クロルダン ( 1 2 8 )  
+ T X 、 クロルデコン ( 9 6 3 ) + T X 、 クロルジメホルム ( 9 6 4 ) + T X 、  
クロルジメホルム塩酸塩 ( 9 6 4 ) + T X 、 クロルエトキシホス ( 1 2 9 ) + T X 、 クロ  
ルフェナビル ( 1 3 0 ) + T X 、 クロルフェンビンホス ( 1 3 1 ) + T X 、 クロルフルア  
ズロン ( 1 3 2 ) + T X 、 クロルメホス ( 1 3 6 ) + T X 、 クロロホルム [ C C N ] + T  
X 、 クロロピクリン ( 1 4 1 ) + T X 、 クロルホキシム ( 9 8 9 ) + T X 、 クロルプラゾ  
ホス ( 9 9 0 ) + T X 、 クロルピリホス ( 1 4 5 ) + T X 、 クロルピリホス - メチル ( 1  
4 6 ) + T X 、 クロルチオホス ( 9 9 4 ) + T X 、 クロマフェノジド ( 1 5 0 ) + T X 、  
シネリン I ( 6 9 6 ) + T X 、 シネリン I I ( 6 9 6 ) + T X 、 シネリン ( 6 9 6 ) + T  
X 、 シス - レスマトリノ ( 代替名 ) + T X 、 シスマトリノ ( 8 0 ) + T X 、 クロシトリノ  
( 代替名 ) + T X 、 クロエトカルブ ( 9 9 9 ) + T X 、 クロサンテル ( 代替名 ) [ C C N ]  
+ T X 、 クロチアニジン ( 1 6 5 ) + T X 、 アセトアヒ酸銅 [ C C N ] + T X 、 ヒ酸銅  
[ C C N ] + T X 、 オレイン酸銅 [ C C N ] + T X 、 クマホス ( 1 7 4 ) + T X 、 クミト  
エート ( 1 0 0 6 ) + T X 、 クロタミトン ( 代替名 ) [ C C N ] + T X 、 クロトキシホス  
( 1 0 1 0 ) + T X 、 クルホマート ( 1 0 1 1 ) + T X 、 氷晶石 ( 代替名 ) ( 1 7 7 ) +  
T X 、 C S 7 0 8 ( 開発コード ) ( 1 0 1 2 ) + T X 、 シアノフェンホス ( 1 0 1 9 ) 50

+ TX、シアノホス(184) + TX、シアントエート(1020) + TX、シクレトリン[CCN] + TX、シクロプロトリン(188) + TX、シフルトリン(193) + TX、シハロトリン(196) + TX、シペルメトリン(201) + TX、シフェノトリン(206) + TX、シロマジン(209) + TX、サイチオアート(代替名)[CCN] + TX、d-リモネン(代替名)[CCN] + TX、d-テトラメトリン(代替名)(788) + TX、DAEP(1031) + TX、ダゾメット(216) + TX、DDT(219) + TX、デカルボフラン(1034) + TX、デルタメトリン(223) + TX、デメフィオン(1037) + TX、デメフィオン-O(1037) + TX、デメフィオン-S(1037) + TX、デメトン(1038) + TX、デメトン-メチル(224) + TX、デメトン-O(1038) + TX、デメトン-O-メチル(224) + TX、デメトン-S(1038) + TX、デメトン-S-メチル(224) + TX、デメトン-S-メチルスルホン(1039) + TX、ジアフェンチウロン(226) + TX、ジアリホス(1042) + TX、ジアミダホス(1044) + TX、ジアジノン(227) + TX、ジカブトン(1050) + TX、ジクロフェンチオン(1051) + TX、ジクロルボス(236) + TX、ジクリホス(代替名) + TX、ジクレシル(代替名)[CCN] + TX、ジクロトホス(243) + TX、ジシクラニル(244) + TX、ジエルドリン(1070) + TX、ジエチル5-メチルピラゾール-3-イルホスフェート(IUPAC名)(1076) + TX、ジフルベンズロン(250) + TX、ジロール(代替名)[CCN] + TX、ジメフルトリン[CCN] + TX、ジメホックス(1081) + TX、ジメタン(1085) + TX、ジメトエート(262) + TX、ジメトリン(1083) + TX、ジメチルビンホス(265) + TX、ジメチラン(1086) + TX、ジネクス(1089) + TX、ジネクス-ジクレキシン(1089) + TX、ジノプロブ(1093) + TX、ジノサム(1094) + TX、ジノセブ(1095) + TX、ジノテフラン(271) + TX、ジオフェノラン(1099) + TX、ジオキサベンゾホス(1100) + TX、ジオキサカルブ(1101) + TX、ジオキサチオン(1102) + TX、ジスルホトン(278) + TX、ジチクロホス(1108) + TX、DNOC(282) + TX、ドラメクチン(代替名)[CCN] + TX、DSP(1115) + TX、エクジステロン(代替名)[CCN] + TX、EI 1642(開発コード)(1118) + TX、エマメクチン(291) + TX、エマメクチン安息香酸塩(291) + TX、EMPc(1120) + TX、エンペントリン(292) + TX、エンドスルファン(294) + TX、エンドチオン(1121) + TX、エンドリン(1122) + TX、EPBP(1123) + TX、EPN(297) + TX、エポフェノナン(1124) + TX、エプリノメクチン(代替名)[CCN] + TX、エスフェンバレート(302) + TX、エタホス(代替名)[CCN] + TX、エチオフェンカルブ(308) + TX、エチオン(309) + TX、エチプロール(310) + TX、エトエート-メチル(1134) + TX、エトプロホス(312) + TX、ギ酸エチル(IUPAC名)[CCN] + TX、エチル-DDD(代替名)(1056) + TX、二臭化工チレン(316) + TX、二塩化工チレン(化学名)(1136) + TX、エチレンオキシド[CCN] + TX、エトフェンプロックス(319) + TX、エトリムホス(1142) + TX、EXD(1143) + TX、ファンファー(323) + TX、フェナミホス(326) + TX、フェナザフロル(1147) + TX、フェンクロルホス(1148) + TX、フェネタカルブ(1149) + TX、フェンフルトリン(1150) + TX、フェニトロチオン(335) + TX、フェノブカルブ(336) + TX、フェノキサクリム(1153) + TX、フェノキシカルブ(340) + TX、フェンピリトリン(1155) + TX、フェンプロパトリン(342) + TX、フェンピラド(代替名) + TX、フェンスルホチオン(1158) + TX、フェンチオン(346) + TX、フェンチオン-エチル[CCN] + TX、フェンバレート(349) + TX、フィプロニル(354) + TX、フロニカミド(358) + TX、フルベンジアミド(CAS.登録番号:272451-65-7) + TX、フルコフロン(1168) + TX、フルシクロクスロン(366) + TX、フルシリネート(367) + TX、フルエネチル(1169) + TX、フルフェネリム[CCN] + TX、フルフ

10

20

30

40

50

エノクスロン(370) + TX、フルフェンプロックス(1171) + TX、フルメトリン(372) + TX、フルバリネート(1184) + TX、FMC 1137(開発コード)(1185) + TX、ホノホス(1191) + TX、ホルメタネート(405) + TX、塩酸ホルメタネート(405) + TX、ホルモチオン(1192) + TX、ホルムバラネート(1193) + TX、ホスマチラン(1194) + TX、ホスピレート(1195) + TX、ホスチアゼート(408) + TX、ホスチエタン(1196) + TX、フラチオカルブ(412) + TX、フレトリン(1200) + TX、 -シハロトリ(197) + TX、 -HCH(430) + TX、グアザチン(422) + TX、酢酸グアザチン(422) + TX、GY-81(開発コード)(423) + TX、ハルフェンプロックス(424) + TX、ハロフェノジド(425) + TX、HCH(430) + TX、HED(1070) + TX、ヘプタクロル(1211) + TX、ヘプテノホス(432) + TX、ヘテロホス[CCN] + TX、ヘキサフルムロン(439) + TX、HHDN(864) + TX、ヒドラメチルノン(443) + TX、シアノ化水素(444) + TX、ハイドロブレン(445) + TX、ヒキンカルブ(1223) + TX、イミダクロブリド(458) + TX、イミプロトリ(460) + TX、インドキサカルブ(465) + TX、ヨードメタン(IUPAC名)(542) + TX、IPSP(1229) + TX、イサゾホス(1231) + TX、イソベンゼン(1232) + TX、イソカルボホス(代替名)(473) + TX、イソドリン(1235) + TX、イソフェンホス(1236) + TX、イソラン(1237) + TX、イソプロカルブ(472) + TX、イソプロピルO-(メトキシアミノチオホスホリル)サリチレート(IUPAC名)(473) + TX、イソプロチオラン(474) + TX、イソチオエート(1244) + TX、イソキサチオン(480) + TX、イベルメクチン(代替名)[CCN] + TX、ジャスモリンI(696) + TX、ジャスモリンII(696) + TX、ヨードフェンホス(1248) + TX、幼若ホルモンI(代替名)[CCN] + TX、幼若ホルモンII(代替名)[CCN] + TX、幼若ホルモンIII(代替名)[CCN] + TX、ケレバン(1249) + TX、キノブレン(484) + TX、 -シハロトリ(198) + TX、ヒ酸鉛[CCN] + TX、レピメクチン(CCN) + TX、レプトホス(1250) + TX、リンダン(430) + TX、リリムホス(1251) + TX、ルフェヌロン(490) + TX、リチダチオン(1253) + TX、m-クメニルメチルカルバメート(IUPAC名)(1014) + TX、リン化マグネシウム(IUPAC名)(640) + TX、マラチオン(492) + TX、マロノベン(1254) + TX、マジドックス(1255) + TX、メカルバム(502) + TX、メカルフォン(1258) + TX、メナゾン(1260) + TX、メホスホラン(1261) + TX、塩化第一水銀(513) + TX、メスルフェンホス(1263) + TX、メタフルミゾン(CCN) + TX、メタム(519) + TX、メタム-カリウム(代替名)(519) + TX、メタム-ナトリウム(519) + TX、メタクリホス(1266) + TX、メタミドホス(527) + TX、フッ化メタンスルホニル(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1268) + TX、メチダチオン(529) + TX、メチオカルブ(530) + TX、メトクロトホス(1273) + TX、メトミル(531) + TX、メトブレン(532) + TX、メトキン-ブチル(1276) + TX、メトトリ(533) + TX、メトキシクロル(534) + TX、メトキシフェノジド(535) + TX、臭化メチル(537) + TX、メチルイソチオシアネート(543) + TX、メチルクロロホルム(代替名)[CCN] + TX、塩化メチレン[CCN] + TX、メトフルトリ(531) + TX、メトルカルブ(550) + TX、メトキサジアゾン(1288) + TX、メビンホス(556) + TX、メキサカルベート(1290) + TX、ミルベメクチン(557) + TX、ミルベマイシンオキシム(代替名)[CCN] + TX、ミパホックス(1293) + TX、ミレックス(1294) + TX、モノクロトホス(561) + TX、モルホチオン(1300) + TX、モキシデクチン(代替名)[CCN] + TX、ナフタロホス(代替名)[CCN] + TX、ナレド(567) + TX、ナフタレン(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1303) + TX、NC-170(開発コード)(1306) + TX、NC-184(化合物コード) + TX

X、ニコチン(578) + TX、硫酸ニコチン(578) + TX、ニフルリジド(1309) + TX、ニテンピラム(579) + TX、ニチアジン(1311) + TX、ニトリラカルブ(1313) + TX、ニトリラカルブ1:1塩化亜鉛錯体(1313) + TX、NNI-0101(化合物コード) + TX、NNI-0250(化合物コード) + TX、ノルニコチン(慣用名)(1319) + TX、ノバルロン(585) + TX、ノビフルムロン(586) + TX、O-5-ジクロロ-4-ヨードフェニルO-エチルエチルホスホチオエート(IUPAC名)(1057) + TX、O,O-ジエチルO-4-メチル-2-オキソ-2H-クロメン-7-イルホスホチオエート(IUPAC名)(1074) + TX、O,O-ジエチルO-6-メチル-2-プロピルピリミジン-4-イルホスホチオエート(IUPAC名)(1075) + TX、O,O,O',O'-テトラプロピルジチオピロホスフェート(IUPAC名)(1424) + TX、オレイン酸(IUPAC名)(593) + TX、オメトエート(594) + TX、オキサミル(602) + TX、オキシデメトン-メチル(609) + TX、オキシデプロホス(1324) + TX、オキシジスルホトン(1325) + TX、pp'-DDT(219) + TX、パラ-ジクロロベンゼン[CCN] + TX、パラチオン(615) + TX、パラチオン-メチル(616) + TX、ペンフルロン(代替名)[CCN] + TX、ペンタクロロフェノール(623) + TX、ラウリン酸ペンタクロロフェニル(IUPAC名)(623) + TX、ペルメトリン(626) + TX、石油(代替名)(628) + TX、PH 60-38(開発コード)(1328) + TX、フェンカプトン(1330) + TX、フェノトリシン(630) + TX、フェントエート(631) + TX、ホレート(636) + TX、ホサロン(637) + TX、ホスホラン(1338) + TX、ホスマット(638) + TX、ホスニクロール(1339) + TX、ホスファミドン(639) + TX、ホスフィン(IUPAC名)(640) + TX、ホキシム(642) + TX、ホキシム-メチル(1340) + TX、ピリメタホス(1344) + TX、ピリミカルブ(651) + TX、ピリミホス-エチル(1345) + TX、ピリミホス-メチル(652) + TX、ポリクロロジシクロペンタジエン異性体(IUPAC名)(1346) + TX、ポリクロロテルペン(慣用名)(1347) + TX、亜ヒ酸カリウム[CCN] + TX、カリウムチオシアネート[CCN] + TX、プラレトリン(655) + TX、プレコセンI(代替名)[CCN] + TX、プレコセンII(代替名)[CCN] + TX、ブリミドホス(1349) + TX、プロフェノホス(662) + TX、プロフルトリン[CCN] + TX、プロマシル(1354) + TX、プロメカルブ(1355) + TX、プロパホス(1356) + TX、プロペタンホス(673) + TX、プロポクサー(678) + TX、プロチダチオン(1360) + TX、プロチオホス(686) + TX、プロトエート(1362) + TX、プロトリフェンビュート[CCN] + TX、ピメトロジン(688) + TX、ピラクロホス(689) + TX、ピラゾホス(693) + TX、ピレスメトリン(1367) + TX、ピレトリンI(696) + TX、ピレトリンII(696) + TX、ピレトリン(696) + TX、ピリダベン(699) + TX、ピリダリル(700) + TX、ピリダフェンチオン(701) + TX、ピリミジフェン(706) + TX、ピリミテート(1370) + TX、ピリプロキシフェン(708) + TX、クアッシア(代替名)[CCN] + TX、キナルホス(711) + TX、キナルホス-メチル(1376) + TX、キノチオン(1380) + TX、キンチオホス(1381) + TX、R-1492(開発コード)(1382) + TX、ラフォキサニド(代替名)[CCN] + TX、レスメトリン(719) + TX、ロテノン(722) + TX、RU 15525(開発コード)(723) + TX、RU 25475(開発コード)(1386) + TX、リアニア(代替名)(1387) + TX、リアノジン(慣用名)(1387) + TX、サバジラ(代替名)(725) + TX、シュラーダン(1389) + TX、セブホス(代替名) + TX、セラメクチン(代替名)[CCN] + TX、SI-0009(化合物コード) + TX、SI-0205(化合物コード) + TX、SI-0404(化合物コード) + TX、SI-0405(化合物コード) + TX、シラフルオフェン(728) + TX、SN 72129(開発コード)(1397) + TX、亜ヒ酸ナトリウム[CCN] 50

+ TX、シアノ化ナトリウム(444)+TX、フッ化ナトリウム(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1399)+TX、ヘキサフルオロケイ酸ナトリウム(1400)+TX、ナトリウムペンタクロロフェノキシド(623)+TX、セレン酸ナトリウム(IUPAC名)(1401)+TX、ナトリウムチオシアネート[CCN]+TX、ソファミド(1402)+TX、スピノサド(737)+TX、スピロメシフェン(739)+TX、スピロテトラマト(CCN)+TX、スルコフロン(746)+TX、スルコフロン-ナトリウム(746)+TX、スルフルアミド(750)+TX、スルホテップ(753)+TX、フッ化スルフリル(756)+TX、スルプロオス(1408)+TX、タール油(代替名)(758)+TX、-フルバリネット(398)+TX、タジムカルブ(1412)+TX、TDE(1414)+TX、テブフェノジド(762)+TX、テブフェンピラド(763)+TX、テブピリムホス(764)+TX、テフルベンズロン(768)+TX、テフルトリン(769)+TX、テメホス(770)+TX、TEPP(1417)+TX、テラレトリン(1418)+TX、テルバム(代替名)+TX、テルブホス(773)+TX、テトラクロロエタン[CCN]+TX、テトラクロルビンホス(777)+TX、テトラメトリン(787)+TX、-シペルメトリン(204)+TX、チアクロブリド(791)+TX、チアフェノックス(代替名)+TX、チアメトキサム(792)+TX、チクロホス(1428)+TX、チオカルボキシム(1431)+TX、チオシクラム(798)+TX、チオシクラムシュウ酸水素塩(798)+TX、チオジカルブ(799)+TX、チオファノックス(800)+TX、チオメトン(801)+TX、チオナジン(1434)+TX、チオスルタップ(803)+TX、チオスルタップ-ナトリウム(803)+TX、ツリンギエンシン(代替名)[CCN]+TX、トルフェンピラド(809)+TX、トラロメトリン(812)+TX、トランスフルトリン(813)+TX、トランスペルメトリン(1440)+TX、トリアミホス(1441)+TX、トリアザメート(818)+TX、トリアゾホス(820)+TX、トリアズロン(代替名)+TX、トリクロルホン(824)+TX、トリクロルメタホス-3(代替名)[CCN]+TX、トリクロロナート(1452)+TX、トリフェノホス(1455)+TX、トリフルムロン(835)+TX、トリメタカルブ(840)+TX、トリプレン(1459)+TX、バミドチオン(847)+TX、バニリプロール[CCN]+TX、ベラトリジン(代替名)(725)+TX、ベラトリン(代替名)(725)+TX、XMC(853)+TX、キシリルカルブ(854)+TX、YI-5302(化合物コード)+TX、-シペルメトリン(205)+TX、ゼタメトリン(zetamethrin)(代替名)+TX、リン化亜鉛(640)+TX、ゾラプロホス(1469)およびZXI 8901(開発コード)(858)+TX、シアントラニリプロール[736994-63-19+TX、クロラントラニリプロール[500008-45-7]+TX、シエノピラフェン[560121-52-0]+TX、シフルメトフェン[400882-07-7]+TX、ピリフルキナゾン[337458-27-2]+TX、スピネトラム[187166-40-1+187166-15-0]+TX、スピロテトラマト[203313-25-1]+TX、スルホキサプロール[946578-00-3]+TX、フルフィプロール[704886-18-0]+TX、メペルフルトリン[915288-13-0]+TX、テトラメチルフルトリン[84937-88-2]+TX、トリフルメゾピリム(国際公開第2012/092115号に開示される)+TXからなる物質の群から選択される殺虫剤、  
ビス(トリブチルスズ)オキシド(IUPAC名)(913)+TX、ブロモアセトアミド[CCN]+TX、ヒ酸カルシウム[CCN]+TX、クロエトカルブ(999)+TX、アセト亜ヒ酸銅[CCN]+TX、硫酸銅(172)+TX、フェンチン(347)+TX、リン酸第二鉄(IUPAC名)(352)+TX、メタアルデヒド(518)+TX、メチオカルブ(530)+TX、ニクロサミド(576)+TX、ニクロサミド-オールアミン(576)+TX、ペンタクロロフェノール(623)+TX、ナトリウムペンタクロロフェノキシド(623)+TX、タジムカルブ(1412)+TX、チオジカルブ(799)+TX、酸化トリブチルスズ(913)+TX、トリフェンモルフ(50

1454) + TX、トリメタカルブ(840) + TX、酢酸トリフェニルスズ(IUPAC名)(347)および水酸化トリフェニルスズ(IUPAC名)(347) + TX、ピリプロール[394730-71-3] + TXからなる物質の群から選択される殺軟体動物剤、

A KD - 3088(化合物コード) + TX、1,2-ジプロモ-3-クロロプロパン(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1045) + TX、1,2-ジクロロプロパン(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1062) + TX、1,2-ジクロロプロパンおよび1,3-ジクロロプロベン(IUPAC名)(1063) + TX、1,3-ジクロロプロベン(233) + TX、3,4-ジクロロテトラヒドロチオフェン1,1-ジオキシド(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1065) + TX、3-(4-クロロフェニル)-5-メチルローダニン(IUPAC名)(980) + TX、5-メチル-6-チオキソ-1,3,5-チアジアジナン-3-イル酢酸(IUPAC名)(1286) + TX、6-イソペンテニルアミノブリン(代替名)(210) + TX、アバメクチン(1) + TX、アセトプロール[CCN] + TX、アラニカルブ(15) + TX、アルジカルブ(16) + TX、アルドキシカルブ(863) + TX、AZ 60541(化合物コード) + TX、ベンクロチアズ[CCN] + TX、ベノミル(62) + TX、ブチルピリダベン(代替名) + TX、カズサホス(109) + TX、カルボフラン(118) + TX、二硫化炭素(945) + TX、カルボスルファン(119) + TX、クロロピクリン(141) + TX、クロルピリホス(145) + TX、クロエトカルブ(999) + TX、サイトカイニン(代替名)(210) + TX、ダゾメット(216) + TX、DB CP(1045) + TX、DCIP(218) + TX、ジアミダホス(1044) + TX、ジクロフェンチオン(1051) + TX、ジクリホス(代替名) + TX、ジメトエート(262) + TX、ドラメクチン(代替名)[CCN] + TX、エマメクチン(291) + TX、エマメクチン安息香酸塩(291) + TX、エブリノメクチン(代替名)[CCN] + TX、エトプロホス(312) + TX、二臭化工チレン(316) + TX、フェナミホス(326) + TX、フェンピラド(代替名) + TX、フェンスルホチオン(1158) + TX、ホスチアゼート(408) + TX、ホスチエタン(1196) + TX、フルフラール(代替名)[CCN] + TX、GY-81(開発コード)(423) + TX、ヘテロホス[CCN] + TX、ヨードメタン(IUPAC名)(542) + TX、イサミドホス(1230) + TX、イサゾホス(1231) + TX、イベルメクチン(代替名)[CCN] + TX、キネチン(代替名)(210) + TX、メカルフォン(1258) + TX、メタム(519) + TX、メタム-カリウム(代替名)(519) + TX、メタム-ナトリウム(519) + TX、臭化メチル(537) + TX、メチルイソチオシアネット(543) + TX、ミルベマイシンオキシム(代替名)[CCN] + TX、モキシデクチン(代替名)[CCN] + TX、クワ暗斑病菌(*Myrothecium verrucaria*)組成物(代替名)(565) + TX、NC-184(化合物コード) + TX、オキサミル(602) + TX、ホレート(636) + TX、ホスファミドン(639) + TX、ホスホカルブ[CCN] + TX、セブホス(代替名) + TX、セラメクチン(代替名)[CCN] + TX、スピノサド(737) + TX、テルバム(代替名) + TX、テルブホス(773) + TX、テトラクロロチオフェン(IUPAC/ケミカルアブストラクト名)(1422) + TX、チアフェノックス(代替名) + TX、チオナジン(1434) + TX、トリアゾホス(820) + TX、トリアズロン(代替名) + TX、キシレノール[CCN] + TX、YI-5302(化合物コード)およびゼアチン(代替名)(210) + TX、フルエンスルホン[318290-98-1] + TXからなる物質の群から選択される殺線虫剤、

エチルキサントゲン酸カリウム[CCN]およびニトラピリン(580) + TXからなる物質の群から選択される硝化阻害剤、

アシベンゾラル(6) + TX、アシベンゾラル-S-メチル(6) + TX、プロベナゾール(658)およびオオイタドリ(*Reynoutria sachalinensis*)抽出物(代替名)(720) + TXからなる物質の群から選択される植物活性化剤、

2 - イソバレリルインダン - 1 , 3 - ジオン ( I U P A C 名 ) ( 1 2 4 6 ) + T X 、 4 - ( キノキサリン - 2 - イルアミノ ) ベンゼンスルホンアミド ( I U P A C 名 ) ( 7 4 8 ) + T X 、 - クロロヒドリン [ C C N ] + T X 、 リン化アルミニウム ( 6 4 0 ) + T X 、 アンチュ ( a n t u ) ( 8 8 0 ) + T X 、 三酸化ニヒ素 ( 8 8 2 ) + T X 、 炭酸バリウム ( 8 9 1 ) + T X 、 ビスチオセミ ( 9 1 2 ) + T X 、 プロディファコウム ( 8 9 ) + T X 、 プロマジオロン ( 9 1 ) + T X 、 プロメタリン ( 9 2 ) + T X 、 シアン化カルシウム ( 4 4 4 ) + T X 、 クロラロース ( 1 2 7 ) + T X 、 クロロファシノン ( 1 4 0 ) + T X 、 コレカルシフェロール ( 代替名 ) ( 8 5 0 ) + T X 、 クマクロール ( 1 0 0 4 ) + T X 、 クマフリル ( 1 0 0 5 ) + T X 、 クマテトラリル ( 1 7 5 ) + T X 、 クリミジン ( 1 0 0 9 ) + T X 、 ジフェナコウム ( 2 4 6 ) + T X 、 ジフェチアロン ( 2 4 9 ) + T X 、 ジ 10 ファシノン ( 2 7 3 ) + T X 、 エルゴカルシフェロール ( 3 0 1 ) + T X 、 フロクマフェン ( 3 5 7 ) + T X 、 フルオロアセトアミド ( 3 7 9 ) + T X 、 フルプロパダイン ( 1 1 8 3 ) + T X 、 フルプロパダイン塩酸塩 ( 1 1 8 3 ) + T X 、 - H C H ( 4 3 0 ) + T X 、 H C H ( 4 3 0 ) + T X 、 シアン化水素 ( 4 4 4 ) + T X 、 ヨードメタン ( I U P A C 名 ) ( 5 4 2 ) + T X 、 リンダン ( 4 3 0 ) + T X 、 リン化マグネシウム ( I U P A C 名 ) ( 6 4 0 ) + T X 、 臭化メチル ( 5 3 7 ) + T X 、 ノルボルミド ( 1 3 1 8 ) + T X 、 ホサセチム ( 1 3 3 6 ) + T X 、 ホスフィン ( I U P A C 名 ) ( 6 4 0 ) + T X 、 リン [ C C N ] + T X 、 ピンドン ( 1 3 4 1 ) + T X 、 亜ヒ酸カリウム [ C C N ] + T X 、 ピリヌロン ( 1 3 7 1 ) + T X 、 シリロシド ( 1 3 9 0 ) + T X 、 亜ヒ酸ナトリウム [ C C N ] + T X 、 シアン化ナトリウム ( 4 4 4 ) + T X 、 フルオロ酢酸ナトリウム ( 7 3 5 ) + T X 、 ストリキニーネ ( 7 4 5 ) + T X 、 硫酸タリウム [ C C N ] + T X 、 ワルファリン ( 8 5 1 ) およびリン化亜鉛 ( 6 4 0 ) + T X からなる物質の群から選択される殺鼠剤 20 、

2 - ( 2 - ブトキシエトキシ ) エチルピペロニレート ( I U P A C 名 ) ( 9 3 4 ) + T X 、 5 - ( 1 , 3 - ベンゾジオキソール - 5 - イル ) - 3 - ヘキシリシクロヘキサ - 2 - エノン ( I U P A C 名 ) ( 9 0 3 ) + T X 、 ファルネソールおよびネロリドール ( 代替名 ) ( 3 2 4 ) + T X 、 M B - 5 9 9 ( 開発コード ) ( 4 9 8 ) + T X 、 M G K 2 6 4 ( 開発コード ) ( 2 9 6 ) + T X 、 ピペロニルブトキシド ( 6 4 9 ) + T X 、 ピプロタール ( 1 3 4 3 ) + T X 、 プロピル異性体 ( 1 3 5 8 ) + T X 、 S 4 2 1 ( 開発コード ) ( 7 2 4 ) + T X 、 セサメクス ( 1 3 9 3 ) + T X 、 セサモリン ( 1 3 9 4 ) およびスルホキシド ( 1 4 0 6 ) + T X からなる物質の群から選択される共力剤、 30

アントラキノン ( 3 2 ) + T X 、 クロラロース ( 1 2 7 ) + T X 、 ナフテン酸銅 [ C C N ] + T X 、 オキシ塩化銅 ( 1 7 1 ) + T X 、 ジアジノン ( 2 2 7 ) + T X 、 ジシクロペンタジエン ( 化学名 ) ( 1 0 6 9 ) + T X 、 グアザチン ( 4 2 2 ) + T X 、 酢酸グアザチン ( 4 2 2 ) + T X 、 メチオカルブ ( 5 3 0 ) + T X 、 ピリジン - 4 - アミン ( I U P A C 名 ) ( 2 3 ) + T X 、 チラム ( 8 0 4 ) + T X 、 トリメタカルブ ( 8 4 0 ) + T X 、 ナフテン酸亜鉛 [ C C N ] およびジラム ( 8 5 6 ) + T X からなる物質の群から選択される動物忌避剤、

イマニン ( 代替名 ) [ C C N ] およびリバビリン ( 代替名 ) [ C C N ] + T X からなる物質の群から選択される殺ウイルス剤、 40

酸化第二水銀 ( 5 1 2 ) + T X 、 オクチリノン ( 5 9 0 ) およびチオファネート - メチル ( 8 0 2 ) + T X からなる物質の群から選択される傷保護剤、

ならびにアザコナゾール ( 6 0 2 0 7 - 3 1 - 0 ) + T X 、 ビテルタノール [ 7 0 5 8 5 - 3 6 - 3 ] + T X 、 ブロムコナゾール [ 1 1 6 2 5 5 - 4 8 - 2 ] + T X 、 シプロコナゾール [ 9 4 3 6 1 - 0 6 - 5 ] + T X 、 ジフェノコナゾール [ 1 1 9 4 4 6 - 6 8 - 3 ] + T X 、 ジニコナゾール [ 8 3 6 5 7 - 2 4 - 3 ] + T X 、 エポキシコナゾール [ 1 0 6 3 2 5 - 0 8 - 0 ] + T X 、 フェンブコナゾール [ 1 1 4 3 6 9 - 4 3 - 6 ] + T X 、 フルキンコナゾール [ 1 3 6 4 2 6 - 5 4 - 5 ] + T X 、 フルシラゾール [ 8 5 5 0 9 - 1 9 - 9 ] + T X 、 フルトリアホール [ 7 6 6 7 4 - 2 1 - 0 ] + T X 、 ヘキサコナゾール [ 7 9 9 8 3 - 7 1 - 4 ] + T X 、 イマザリル [ 3 5 5 5 4 - 4 4 - 0 ] + T X 、 イ 50

ミベンコナゾール [ 8 6 5 9 8 - 9 2 - 7 ] + TX、イブコナゾール [ 1 2 5 2 2 5 - 2  
 8 - 7 ] + TX、メトコナゾール [ 1 2 5 1 1 6 - 2 3 - 6 ] + TX、ミクロブタニル [ 10  
 10 8 8 6 7 1 - 8 9 - 0 ] + TX、ペフラゾエート [ 1 0 1 9 0 3 - 3 0 - 4 ] + TX、ペ  
 ンコナゾール [ 6 6 2 4 6 - 8 8 - 6 ] + TX、プロチオコナゾール [ 1 7 8 9 2 8 - 7  
 0 - 6 ] + TX、ピリフェノックス [ 8 8 2 8 3 - 4 1 - 4 ] + TX、プロクロラズ [ 6  
 7 7 4 7 - 0 9 - 5 ] + TX、プロピコナゾール [ 6 0 2 0 7 - 9 0 - 1 ] + TX、シメ  
 コナゾール [ 1 4 9 5 0 8 - 9 0 - 7 ] + TX、テブコナゾール [ 1 0 7 5 3 4 - 9 6 -  
 3 ] + TX、テトラコナゾール [ 1 1 2 2 8 1 - 7 7 - 3 ] + TX、トリアジメホン [ 4  
 3 1 2 1 - 4 3 - 3 ] + TX、トリアジメノール [ 5 5 2 1 9 - 6 5 - 3 ] + TX、トリ  
 フルミゾール [ 9 9 3 8 7 - 8 9 - 0 ] + TX、トリチコナゾール [ 1 3 1 9 8 3 - 7 2  
 - 7 ] + TX、アンシミドール [ 1 2 7 7 1 - 6 8 - 5 ] + TX、フェナリモル [ 6 0 1  
 6 8 - 8 8 - 9 ] + TX、ヌアリモル [ 6 3 2 8 4 - 7 1 - 9 ] + TX、ブピリメート [ 10  
 4 1 4 8 3 - 4 3 - 6 ] + TX、ジメチリモール [ 5 2 2 1 - 5 3 - 4 ] + TX、エチリ  
 モル [ 2 3 9 4 7 - 6 0 - 6 ] + TX、ドデモルフ [ 1 5 9 3 - 7 7 - 7 ] + TX、フェ  
 ンプロピジン [ 6 7 3 0 6 - 0 0 - 7 ] + TX、フェンプロピモルフ [ 6 7 5 6 4 - 9 1  
 - 4 ] + TX、スピロキサミン [ 1 1 8 1 3 4 - 3 0 - 8 ] + TX、トリデモルフ [ 8 1  
 4 1 2 - 4 3 - 3 ] + TX、シプロジニル [ 1 2 1 5 5 2 - 6 1 - 2 ] + TX、メパニビ  
 リム [ 1 1 0 2 3 5 - 4 7 - 7 ] + TX、ピリメタニル [ 5 3 1 1 2 - 2 8 - 0 ] + TX  
 、フェンピクロニル [ 7 4 7 3 8 - 1 7 - 3 ] + TX、フルジオキソニル [ 1 3 1 3 4 1  
 - 8 6 - 1 ] + TX、ベナラキシル [ 7 1 6 2 6 - 1 1 - 4 ] + TX、フララキシル [ 5  
 20 7 6 4 6 - 3 0 - 7 ] + TX、メタラキシル [ 5 7 8 3 7 - 1 9 - 1 ] + TX、R - メタ  
 ラキシル [ 7 0 6 3 0 - 1 7 - 0 ] + TX、オフレース [ 5 8 8 1 0 - 4 8 - 3 ] + TX  
 、オキサジキシル [ 7 7 7 3 2 - 0 9 - 3 ] + TX、ベノミル [ 1 7 8 0 4 - 3 5 - 2 ]  
 + TX、カルベンダジム [ 1 0 6 0 5 - 2 1 - 7 ] + TX、デバカルブ [ 6 2 7 3 2 - 9  
 1 - 6 ] + TX、フベリダゾール [ 3 8 7 8 - 1 9 - 1 ] + TX、チアベンダゾール [ 1  
 4 8 - 7 9 - 8 ] + TX、クロゾリネート [ 8 4 3 3 2 - 8 6 - 5 ] + TX、ジクロゾリ  
 ン [ 2 4 2 0 1 - 5 8 - 9 ] + TX、イブロジオン [ 3 6 7 3 4 - 1 9 - 7 ] + TX、マ  
 イクロゾリン [ 5 4 8 6 4 - 6 1 - 8 ] + TX、プロシミドン [ 3 2 8 0 9 - 1 6 - 8 ]  
 + TX、ピンクロゾリン [ 5 0 4 7 1 - 4 4 - 8 ] + TX、ボスカリド [ 1 8 8 4 2 5 -  
 8 5 - 6 ] + TX、カルボキシン [ 5 2 3 4 - 6 8 - 4 ] + TX、フェンフラム [ 2 4 6  
 30 9 1 - 8 0 - 3 ] + TX、フルトラニル [ 6 6 3 3 2 - 9 6 - 5 ] + TX、メプロニル [ 5  
 5 8 1 4 - 4 1 - 0 ] + TX、オキシカルボキシン [ 5 2 5 9 - 8 8 - 1 ] + TX、ペ  
 ンチオピラド [ 1 8 3 6 7 5 - 8 2 - 3 ] + TX、チフルザミド [ 1 3 0 0 0 0 - 4 0 -  
 7 ] + TX、グアザチン [ 1 0 8 1 7 3 - 9 0 - 6 ] + TX、ドジン [ 2 4 3 9 - 1 0 -  
 3 ] [ 1 1 2 - 6 5 - 2 ] (遊離塩基) + TX、イミノクタジン [ 1 3 5 1 6 - 2 7 - 3 ]  
 + TX、アゾキシストロビン [ 1 3 1 8 6 0 - 3 3 - 8 ] + TX、ジモキシストロビン [ 1 4 9 9 6 1 - 5 2 - 4 ] + TX、エヌステロブリン { Proc. B C P C , Int.  
 Congr. , Glasgow , 2 0 0 3 , 1 , 9 3 } + TX、フルオキサストロビン [ 3 6 1 3 7 7 - 2 9 - 9 ] + TX、クレソキシム - メチル [ 1 4 3 3 9 0 - 8 9 - 0 ] +  
 TX、メトミノストロビン [ 1 3 3 4 0 8 - 5 0 - 1 ] + TX、トリフロキシストロビン [ 1 4 1 5 1 7 - 2 1 - 7 ] + TX、オリザストロビン [ 2 4 8 5 9 3 - 1 6 - 0 ] + TX  
 40 、ピコキシストロビン [ 1 1 7 4 2 8 - 2 2 - 5 ] + TX、ピラクロストロビン [ 1 7  
 5 0 1 3 - 1 8 - 0 ] + TX、フェルバム [ 1 4 4 8 4 - 6 4 - 1 ] + TX、マンコゼブ [ 8 0 1 8 - 0 1 - 7 ] + TX、マネブ [ 1 2 4 2 7 - 3 8 - 2 ] + TX、メチラム [ 9  
 0 0 6 - 4 2 - 2 ] + TX、プロピネブ [ 1 2 0 7 1 - 8 3 - 9 ] + TX、チラム [ 1 3  
 7 - 2 6 - 8 ] + TX、ジネブ [ 1 2 1 2 2 - 6 7 - 7 ] + TX、ジラム [ 1 3 7 - 3 0  
 - 4 ] + TX、カプタホール [ 2 4 2 5 - 0 6 - 1 ] + TX、カプタン [ 1 3 3 - 0 6 -  
 2 ] + TX、ジクロフルアニド [ 1 0 8 5 - 9 8 - 9 ] + TX、フルオロイミド [ 4 1 2  
 0 5 - 2 1 - 4 ] + TX、ホルペット [ 1 3 3 - 0 7 - 3 ] + TX、トリルフルアニド [ 7 3 1 - 2 7 - 1 ] + TX、ボルドー液 [ 8 0 1 1 - 6 3 - 0 ] + TX、水酸化銅 [ 2 0  
 50

4 2 7 - 5 9 - 2 ] + TX、オキシ塩化銅 [ 1 3 3 2 - 4 0 - 7 ] + TX、硫酸銅 [ 7 7  
 5 8 - 9 8 - 7 ] + TX、酸化銅 [ 1 3 1 7 - 3 9 - 1 ] + TX、マンコッパー ( man  
 copper ) [ 5 3 9 8 8 - 9 3 - 5 ] + TX、オキシン銅 [ 1 0 3 8 0 - 2 8 - 6 ]  
 + TX、ジノカップ [ 1 3 1 - 7 2 - 6 ] + TX、ニトロタール - イソプロピル [ 1 0 5  
 5 2 - 7 4 - 6 ] + TX、エディフェンホス [ 1 7 1 0 9 - 4 9 - 8 ] + TX、イプロベ  
 ンホス [ 2 6 0 8 7 - 4 7 - 8 ] + TX、イソプロチオラン [ 5 0 5 1 2 - 3 5 - 1 ] +  
 TX、ホスジフェン [ 3 6 5 1 9 - 0 0 - 3 ] + TX、ピラゾホス [ 1 3 4 5 7 - 1 8 -  
 6 ] + TX、トルクロホス - メチル [ 5 7 0 1 8 - 0 4 - 9 ] + TX、アシベンゾラル-  
 S - メチル [ 1 3 5 1 5 8 - 5 4 - 2 ] + TX、アニラジン [ 1 0 1 - 0 5 - 3 ] + TX  
 、ベンチアバリカルブ [ 4 1 3 6 1 5 - 3 5 - 7 ] + TX、プラストサイジン - S [ 2 0  
 7 9 - 0 0 - 7 ] + TX、キノメチオナト [ 2 4 3 9 - 0 1 - 2 ] + TX、クロロネブ [ 10  
 2 6 7 5 - 7 7 - 6 ] + TX、クロロタロニル [ 1 8 9 7 - 4 5 - 6 ] + TX、シフルフ  
 エナミド [ 1 8 0 4 0 9 - 6 0 - 3 ] + TX、シモキサニル [ 5 7 9 6 6 - 9 5 - 7 ] +  
 TX、ジクロン [ 1 1 7 - 8 0 - 6 ] + TX、ジクロシメット [ 1 3 9 9 2 0 - 3 2 - 4 ]  
 ] + TX、ジクロメジン [ 6 2 8 6 5 - 3 6 - 5 ] + TX、ジクロラン [ 9 9 - 3 0 - 9 ]  
 ] + TX、ジエトフェンカルブ [ 8 7 1 3 0 - 2 0 - 9 ] + TX、ジメトモルフ [ 1 1 0  
 4 8 8 - 7 0 - 5 ] + TX、S Y P - L I 9 0 ( フルモルフ ) [ 2 1 1 8 6 7 - 4 7 - 9 ]  
 ] + TX、ジチアノン [ 3 3 4 7 - 2 2 - 6 ] + TX、エタボキサム [ 1 6 2 6 5 0 - 7  
 7 - 3 ] + TX、エトリジアゾール [ 2 5 9 3 - 1 5 - 9 ] + TX、ファモキサドン [ 1  
 3 1 8 0 7 - 5 7 - 3 ] + TX、フェナミドン [ 1 6 1 3 2 6 - 3 4 - 7 ] + TX、フェ 20  
 ノキサニル [ 1 1 5 8 5 2 - 4 8 - 7 ] + TX、フェンチン [ 6 6 8 - 3 4 - 8 ] + TX  
 、フェリムゾン [ 8 9 2 6 9 - 6 4 - 7 ] + TX、フルアジナム [ 7 9 6 2 2 - 5 9 - 6 ]  
 ] + TX、フルオピコリド [ 2 3 9 1 1 0 - 1 5 - 7 ] + TX、フルスルファミド [ 1 0  
 6 9 1 7 - 5 2 - 6 ] + TX、フェンヘキサミド [ 1 2 6 8 3 3 - 1 7 - 8 ] + TX、ホ  
 セチル - アルミニウム [ 3 9 1 4 8 - 2 4 - 8 ] + TX、ヒメキサゾール [ 1 0 0 0 4 -  
 4 4 - 1 ] + TX、イプロバリカルブ [ 1 4 0 9 2 3 - 1 7 - 7 ] + TX、I K F - 9 1  
 6 ( シアゾファミド ) [ 1 2 0 1 1 6 - 8 8 - 3 ] + TX、カスガマイシン [ 6 9 8 0 -  
 1 8 - 3 ] + TX、メタスルホカルブ [ 6 6 9 5 2 - 4 9 - 6 ] + TX、メトラフェノン  
 [ 2 2 0 8 9 9 - 0 3 - 6 ] + TX、ペンシクロン [ 6 6 0 6 3 - 0 5 - 6 ] + TX、フ  
 タリド [ 2 7 3 5 5 - 2 2 - 2 ] + TX、ポリオキシン [ 1 1 1 1 3 - 8 0 - 7 ] + TX 30  
 、プロベナゾール [ 2 7 6 0 5 - 7 6 - 1 ] + TX、プロパモカルブ [ 2 5 6 0 6 - 4 1  
 - 1 ] + TX、プロキンアジド [ 1 8 9 2 7 8 - 1 2 - 4 ] + TX、ピロキロン [ 5 7 3  
 6 9 - 3 2 - 1 ] + TX、キノキシフェン [ 1 2 4 4 9 5 - 1 8 - 7 ] + TX、キントゼ  
 ソン [ 8 2 - 6 8 - 8 ] + TX、硫黄 [ 7 7 0 4 - 3 4 - 9 ] + TX、チアジニル [ 2 2 3  
 5 8 0 - 5 1 - 6 ] + TX、トリアゾキシド [ 7 2 4 5 9 - 5 8 - 6 ] + TX、トリシク  
 ラゾール [ 4 1 8 1 4 - 7 8 - 2 ] + TX、トリホリン [ 2 6 6 4 4 - 4 6 - 2 ] + TX  
 、バリダマイシン [ 3 7 2 4 8 - 4 7 - 8 ] + TX、ゾキサミド ( R H 7 2 8 1 ) [ 1 5  
 6 0 5 2 - 6 8 - 5 ] + TX、マンジプロパミド [ 3 7 4 7 2 6 - 6 2 - 2 ] + TX、イ  
 ソピラザム [ 8 8 1 6 8 5 - 5 8 - 1 ] + TX、セダキサン [ 8 7 4 9 6 7 - 6 7 - 6 ]  
 + TX、3 - ジフルオロメチル - 1 - メチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボン酸 ( 9 - 40  
 ジクロロメチレン - 1 , 2 , 3 , 4 - テトラヒドロ - 1 , 4 - メタノ - ナフタレン - 5 -  
 イル ) - アミド ( 国際公開第 2 0 0 7 / 0 4 8 5 5 6 号に開示される ) + TX、3 - ジフ  
 ルオロメチル - 1 - メチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボン酸 ( 3 ' , 4 ' , 5 ' - ト  
 リフルオロ - ビフェニル - 2 - イル ) - アミド ( 国際公開第 2 0 0 6 / 0 8 7 3 4 3 号に  
 開示される ) + TX、[ ( 3 S , 4 R , 4 a R , 6 S , 6 a S , 1 2 R , 1 2 a S , 1 2  
 b S ) - 3 - [ ( シクロプロピルカルボニル ) オキシ ] - 1 , 3 , 4 , 4 a , 5 , 6 , 6  
 a , 1 2 , 1 2 a , 1 2 b - デカヒドロ - 6 , 1 2 - ジヒドロキシ - 4 , 6 a , 1 2 b -  
 トリメチル - 1 1 - オキソ - 9 - ( 3 - ピリジニル ) - 2 H , 1 1 H ナフト [ 2 , 1 - b  
 ] ピラノ [ 3 , 4 - e ] ピラン - 4 - イル ] メチル - シクロプロパンカルボキシレート [ 9 1 5 9 7 2 - 1 7 - 7 ] + TX および 1 , 3 , 5 - トリメチル - N - ( 2 - メチル - 1 50

-オキソプロピル) -N-[3-(2-メチルプロピル)-4-[2,2,2-トリフルオロ-1-メトキシ-1-(トリフルオロメチル)エチル]フェニル]-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド[926914-55-8]+TXからなる物質の群から選択される生物学的に活性な化合物。

#### 【0242】

活性成分の後ろの角括弧における参照番号、例えば、[3878-19-1]は、ケミカルアブストラクト登録番号を意味する。上記の混合の相手は公知である。活性成分が、“The Pesticide Manual”[The Pesticide Manual - A World Compendium; Thirteenth Edition; Editor: C. D. S. Tomlin; 英国作物保護協議会(The British Crop Protection Council)]に含まれている場合、それらは、特定の化合物について上記において丸括弧中に示される項目番号でその中に記載されており；例えば、「アバメクチン」という化合物は、項目番号(1)で記載されている。「[CCN]」が、上記において特定の化合物に付加されている場合、該当する化合物は、“Compendium of Pesticide Common Names”に含まれており、それは、インターネット上でアクセス可能であり[A. Wood; Compendium of Pesticide Common Names, (著作権)1995-2004]; 例えば、「アセトプロール」という化合物は、インターネットアドレス: <http://www.alanwood.net/pesticides/acetoprole.html>に記載されている。10 20

#### 【0243】

上記の活性成分のほとんどは、上記においていわゆる「一般名」で呼ばれ、関連する「ISO一般名」または別の「一般名」が、個々の場合に使用される。表記が「一般名」でない場合、代わりに使用される表記の性質が、特定の化合物について丸括弧中に示され、その場合、IUPAC名、IUPAC/ケミカルアブストラクト名、「化学名」、「慣用名」、「化合物名」または「開発コード」が使用され、あるいはそれらの表記の1つも使用されず、「一般名」も使用されない場合、「代替名」が用いられる。「CAS登録番号」は、ケミカルアブストラクト登録番号を意味する。20

#### 【0244】

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物と、上記の活性成分との活性成分混合物は、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物および上記の活性成分を、好ましくは、100:1～1:6000、特に50:1～1:50の混合比で、より特に20:1～1:20、さらにより特に10:1～1:10、非常に特に5:1および1:5の比率で(2:1～1:2の比率が特に好ましく、4:1～2:1の比率が同様に好ましい)、とりわけ、1:1、または5:1、または5:2、または5:3、または5:4、または4:1、または4:2、または4:3、または3:1、または3:2、または2:1、または1:5、または2:5、または3:5、または4:5、または1:4、または2:4、または3:4、または1:3、または2:3、または1:2、または1:600、または1:300、または1:150、または1:35、または2:35、または4:35、または1:75、または2:75、または4:75、または1:6000、または1:3000、または1:1500、または1:350、または2:350、または4:350、または1:750、または2:750、または4:750の比率で含む。これらの混合比は、重量基準である。30 40

#### 【0245】

上記の混合物は、有害生物を防除するための方法に使用され得、この方法は、上記の混合物を含む組成物を有害生物またはその環境に施用する工程を含むが、手術または治療による人または動物の身体の治療のための方法および人または動物の身体において実施される診断方法を除く。

#### 【0246】

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物と、上記の1つまたは複数の活性成分

50

とを含む混合物は、例えば、単一のレディミックス(ready-mix)形態で、「タンクミックス」などの、単一の活性成分の別個の製剤から構成される組み合わされたスプレー混合物として、および逐次、すなわち、数時間または数日間などのかなり短い期間で次々に施用される場合、単一の活性成分の併用で施用され得る。実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物および上記の活性成分を施用する順序は、本発明を行うのに重要でない。

#### 【0247】

本発明に係る組成物は、安定剤、例えば、非エポキシ化またはエポキシ化植物油（例えば、エポキシ化ヤシ油、ナタネ油または大豆油）、消泡剤、例えば、シリコーン油、防腐剤、粘性調節剤、結合剤および／または粘着付与剤、肥料または特定の効果を得るために他の活性成分、例えば、殺菌剤、殺真菌剤、殺線虫剤、植物活性化剤、殺軟体動物剤または除草剤などの、さらなる固体または液体助剤も含み得る。10

#### 【0248】

本発明に係る組成物は、例えば、固体活性成分を粉碎し、篩にかけ、および／または圧縮することにより、助剤の非存在下で、および例えば、活性成分を1つまたは複数の助剤と均質混合し、および／または粉碎することにより、少なくとも1つの助剤の存在下においてそれ自体公知の方法で調製される。この組成物の調製のためのこれら的方法およびこれらの組成物の調製のための化合物Iの使用も本発明の主題である。

#### 【0249】

この組成物のための施用方法、すなわち、噴霧、霧化(Atomizing)、散布、はけ塗り(brushing on)、粉衣(dressing)、拡散(scattering)または注ぎかけ(pouring)(これらは、一般的な状況における意図される目的に合わせて選択されるべきである)などの、上記のタイプの有害生物を防除する方法および上記のタイプの有害生物を防除するための組成物の使用が、本発明の他の主題である。典型的な濃度の比率は、0.1～1000 ppm、好ましくは、0.1～500 ppmの活性成分である。1ヘクタール当たりの施用量は、一般に、1ヘクタール当たり1～2000 gの活性成分、特に10～1000 g/ha、好ましくは、10～600 g/haである。20

#### 【0250】

作物保護の分野における施用の好ましい方法は、植物の茎葉への施用(葉面施用)であり、該当する有害生物による寄生の危険性に合わせて施用頻度および施用量を選択することができる。あるいは、活性成分は、植物の生息地に液体組成物を灌注することにより、または固体形態の活性成分を植物の生息地、例えば土壤中に例えば粒剤の形態で導入すること(土壤施用)により、根系(全身作用)を介して植物に到達することができる。水稻植物の場合、このような粒剤は、水田に計量供給され得る。30

#### 【0251】

本発明の化合物およびその組成物は、上記のタイプの有害生物からの、植物繁殖材料、例えば、果実、塊茎または穀粒などの種子、または苗の保護にも好適である。繁殖材料は、植え付けの前にこの化合物で処理され得、例えば、種子は、種まきの前に処理され得る。あるいは、この化合物は、種子仁を液体組成物に浸漬することにより、または固体組成物の層を塗布することにより種子仁に塗付され得る(コーティング)。繁殖材料が施用の場所に植え付けられる場合、この組成物を、例えば、ドリルまき(drilling)の際に畝間に施用することも可能である。植物繁殖材料のためのこれらの処理方法およびこのように処理された植物繁殖材料は、本発明のさらなる主題である。典型的な処理率は、植物および防除される有害生物／真菌に応じて決まり、一般に、100 kgの種子当たり1～200グラム、好ましくは、100 kgの種子当たり5～150グラム(100 kgの種子当たり10～100グラムなど)である。40

#### 【0252】

種子という用語は、真正種子(true seed)、種子片、吸枝、トウモロコシ粒(corn)、鱗茎、果実、塊茎、穀粒、根茎、挿し木、挿し芽(cut shoot)50

などを含むがこれらに限定されないあらゆる種類の種子および植物の珠芽を包含し、好ましい実施形態において、真正種子を意味する。

#### 【0253】

本発明は、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物で被覆または処理されるかあるいはそれを含有する種子も含む。「で被覆または処理されるかおよび／またはそれを含有する」という用語は、一般に、活性成分が、ほとんどの場合、施用時に種子の表面上にあるが、施用方法に応じて、成分の一部が、程度の差はあるが、種子材料中に浸透し得ることを示す。前記種子製品が（再度）植え付けられるとき、活性成分を吸収し得る。一実施形態において、本発明は、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物が付着された植物繁殖材料を利用可能にする。さらに、これにより、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物で処理された植物繁殖材料を含む組成物が利用可能になる。10

#### 【0254】

種子処理は、種子粉衣、種子コーティング、種子散布、種子浸漬および種子ペレッティング（peleeting）などの、当該技術分野において公知の全ての好適な種子処理技術を含む。式（I）の化合物の種子処理適用は、種まきの前または種まき／種子の植え付けの際に噴霧または種子を散布することなどによる、任意の公知の方法によって行われ得る。

#### 【0255】

実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物の殺有害生物性／殺虫特性は、以下のテストにより例示可能である。20

#### 【0256】

ジアプロチカバルテアタ（*Diabrotica balteata*）（コーンルートワーム）：

24ウェルマイクロタイタープレート中の寒天層の上に置いたトウモロコシの芽を、吹付けにより10'000 ppmのDMSOストック溶液から調製したテスト水溶液で処理した。乾燥させた後、プレートにL2幼虫を外寄生させた（ウェル当たり6～10匹）。サンプルを外寄生の4日後に死亡率について評価した。以下の化合物が少なくとも80%の死亡率を200 ppmの施用量でもたらした：1、2、6、9、15、16、17、19、20、21、22、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、58、59、61、62、64および65。30

#### 【0257】

ユースキスツスヘロス（*Euschistus heros*）（ネオトロピカルブラウンスティンクバグ（Neotropical Brown Stink Bug））：摂食／接触活性

24ウェルマイクロタイタープレート中の寒天上のダイズの葉に、10'000 ppmのDMSOストック溶液から調製したテスト水溶液を噴霧した。乾燥させた後、葉にN2若虫を外寄生させた。サンプルを外寄生の5日後に死亡率について評価した。以下の化合物が少なくとも80%の死亡率を200 ppmの施用量でもたらした：1、2、6、9、15、16、17、19、20、21、22、33、34、35、36、37、38、39、40、41および42。40

#### 【0258】

モモアカアブラムシ（*Myzus persicae*）（モモアカアブラムシ）：摂食／接触活性

ヒマワリの葉片を24ウェルマイクロタイタープレート中の寒天上に置き、10'000 ppmのDMSOストック溶液から調製したテスト水溶液を噴霧した。乾燥させた後、葉片に様々な齢数のアブラムシ個体群を外寄生させた。サンプルを外寄生の6日後に死亡率について評価した。以下の化合物が少なくとも80%の死亡率を200 ppmの施用量でもたらした：1、2、9、15、16、19、20、21、22、34、17、36、42および57。

#### 【0259】

10

20

30

40

50

コナガ ( *Plutella xylostella* ) ( コナガ ) : 摂食 / 接触活性

人工餌料を含む 24 ウエルマイクロタイプレートをピペットにより 10' 000 ppm の DMSO ストック溶液から調製したテスト水溶液で処理した。乾燥させた後、プレートに L2 幼虫を外寄生させた ( ウエル 1 当たり 10 ~ 15 匹 ) 。サンプルを外寄生の 5 日後に死亡率について評価した。以下の化合物が少なくとも 80 % の死亡率を 200 ppm の施用量でもたらした : 1, 2, 6, 9, 15, 16, 17, 19, 20, 21, 22, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46 および 47 。

【 0260 】

エジプトヨトウ ( *Spodoptera littoralis* ) ( エジプトヨトウ ) : 10  
摂食 / 接触活性

綿の葉片を 24 ウエルマイクロタイプレート中の寒天上に置き、 10' 000 ppm の DMSO ストック溶液から調製したテスト水溶液を噴霧した。乾燥させた後、葉片に 5 匹の L1 幼虫を外寄生させた。サンプルを外寄生の 3 日後に死亡率について評価した。以下の化合物が少なくとも 80 % の死亡率を 200 ppm の施用量でもたらした : 1, 2, 6, 9, 15, 16, 18, 19, 20, 21, 22, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45 および 46 。

【 0261 】

ナミハダニ ( *Tetranychus urticae* ) ( ナミハダニ ) : 摂食 / 接触活性 20

24 ウエルマイクロタイプレート中の寒天上のインゲンマメの葉片に、 10' 000 ppm の DMSO ストック溶液から調製したテスト水溶液を噴霧した。乾燥させた後、葉片に様々な齢数のダニ個体群を外寄生させた。サンプルを混合個体群 ( 活動期 ) における外寄生から 8 日後の死亡率について評価した。以下の化合物が少なくとも 80 % の死亡率を 200 ppm の施用量でもたらした : 1, 2, 6, 9, 15, 16, 17, 19, 20, 21, 22, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44 および 44 。

【 0262 】

ネギアザミウマ ( *Thrips tabaci* ) ( ネギアザミウマ ) : 摂食 / 接触活性

ヒマワリの葉片を 24 ウエルマイクロタイプレート中の寒天上に置き、 10' 000 ppm の DMSO ストック溶液から調製したテスト水溶液を噴霧した。乾燥させた後、葉片に様々な齢数のアザミウマ個体群を外寄生させた。サンプルを外寄生の 6 日後に死亡率について評価した。以下の化合物が少なくとも 80 % の死亡率を 200 ppm の施用量でもたらした : 6, 9, 16, 19, 20, 22, 22, 33, 34, 35, 36, 37, 40, 41, 42, 43, 45 および 46 。

【 0263 】

本発明の化合物は、低施用量で効力が高いことにより公知の化合物とは区別可能であり、これは、実施例においてアウトラインされている実験手法を用い、必要に応じて、例えば 50 ppm, 12.5 ppm, 6 ppm, 3 ppm, 1.5 ppm, 0.8 ppm または 0.2 ppm といった低施用量を用いて当業者により検証可能である。

【 0264 】

生物学的比較データ :

化合物 A が国際公開第 2014 / 122083 号において実施例 ( Ic - 2 ) ( 第 82 ページ、表 3 ) として開示されている。化合物 A の活性を本発明に係る化合物 41 および 42 の活性と比較する。テストは、異なる濃度 ( ppm ) で実施する。本発明の化合物 41 および 42 は、化合物 A と比較して驚くほど向上した活性を有することが分かる。

【 0265 】

a ) コナガ ( *Plutella xylostella* ) に対する殺虫活性 ( コナガ、幼虫駆除剤 L-2 / 3 、摂食 / 接触 )

アプリケーションチャンバ中においてハクサイ植物に希釀したテスト溶液を噴霧する。処理の 1 日後に切除した葉をペトリ皿に置き、 10 匹の L2 を外寄生させる ( 2 回反復 )

10

20

30

40

50

。サンプルを死亡率、摂食挙動および成長調節について外寄生の5日後に確認する。

【0266】

【表12】

化合物	化合物構造	濃度(ppm)	死亡率(%)
Cpd A		0.8	100
		0.2	100
		0.05	85
		0.0125	35
Cpd 41		0.8	100
		0.2	100
		0.05	100
		0.0125	90
Cpd 42		0.8	100
		0.2	100
		0.05	100
		0.0125	95

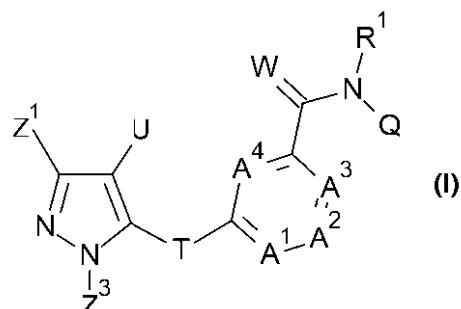
【0267】

さらに、殺虫特性に加えて、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物は、従来技術の化合物と比較して向上した分解特性を有することが意外にも示された。さらに、実施形態1～25のいずれか1つに記載の化合物は、従来技術の化合物と比較してハチに対する有害性が低いことが意外にも示された。

本発明のまた別の態様は、以下のとおりであってもよい。

〔1〕式(I)

【化1】



(式中、

R¹は、H、C₁-C₆-アルキル、C₂-C₆アルケニル、C₂-C₆アルキニル、C₃-C₇シクロアルキル、C₃-C₇シクロアルキル-C₁-C₃-アルキル、C₁-C₆-アルキルカルボニ

50

ル、 $C_1-C_6$ -アルコキシカルボニル、アリール( $C_0-C_3$ ) - アルキルおよびヘテロアリール( $C_0-C_3$ ) - アルキルから選択され、ここで、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_3-C_6$ アルケニル、 $C_3-C_6$ アルキニル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル -  $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルキルカルボニル、 $C_1-C_6$ -アルコキシカルボニル、アリール( $C_0-C_3$ ) - アルキルおよびヘテロアリール( $C_0-C_3$ ) - アルキルの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、シアノ、 $C_1-C_6$ -アルコキシおよび $C_1-C_6$ -アルコキシカルボニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

Qは、H、ヒドロキシ、 $H-C(=O)-$ 、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $C_2-C_6$ アルケニル、 $C_2-C_6$ アルキニル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル、 $C_3-C_7$ ヘテロシクロアルキル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル -  $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_3$ -アルキル -  $C_3-C_7$ シクロアルキル、アリール( $C_0-C_3$ ) - アルキル、ヘテロアリール( $C_0-C_3$ ) - アルキル、 $N-C_1-C_6$ -アルキルアミノ、 $N-C_1-C_6$ -アルキルカルボニルアミノおよび $N-N$ -ジ( $C_1-C_6$ -アルキル)アミノから選択され、ここで、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $C_3-C_6$ アルケニル、 $C_3-C_6$ アルキニル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル、 $C_3-C_7$ ヘテロシクロアルキル、 $C_3-C_7$ シクロアルキル -  $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_3$ -アルキル -  $C_3-C_7$ シクロアルキル、アリール( $C_0-C_3$ ) - アルキル、ヘテロアリール( $C_0-C_3$ ) - アルキル、 $N-C_1-C_6$ -アルキルアミノ、 $N-C_1-C_6$ -アルキルカルボニルアミノおよび $N-N$ -ジ( $C_1-C_6$ -アルキル)アミノの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシル、ニトロ、アミノ、シアノ、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $C_1-C_6$ -アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、 $C_1-C_6$ -アルキルカルバモイル、 $C_3-C_6$ -シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

Wは、OまたはSであり；

A<sup>1</sup>は、 $C-R^2$ またはNであり；

A<sup>2</sup>は、 $C-R^3$ またはNであり；

A<sup>3</sup>は、 $C-R^4$ またはNであり；

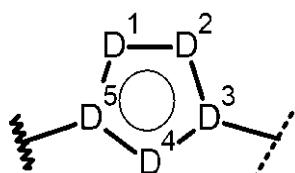
A<sup>4</sup>は、 $C-R^5$ またはNであり；

ただし、A<sup>1</sup>、A<sup>2</sup>、A<sup>3</sup>およびA<sup>4</sup>の3個以下は、Nであり；

R<sup>2</sup>、R<sup>3</sup>、R<sup>4</sup>およびR<sup>5</sup>は、H、ハロゲン、シアノ、ニトロ、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $N-C_1-C_6$ -アルコキシ-イミノ -  $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルファニル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルフィニル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルホニル、 $N-C_1-C_6$ -アルキルアミノおよび $N-N$ -ジ -  $C_1-C_6$ -アルキルアミノから独立して選択され、ここで、 $C_1-C_6$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $N-C_1-C_6$ -アルコキシ-イミノ -  $C_1-C_3$ -アルキル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルファニル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルホニル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルフィニル、 $C_1-C_6$ -アルキルスルホニル、 $N-C_1-C_6$ -アルキルアミノおよび $N-N$ -ジ -  $C_1-C_6$ -アルキルアミノの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノ、シアノ、 $C_1-C_6$ -アルコキシ、 $C_1-C_6$ -アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、 $C_1-C_6$ -アルキルカルバモイル、 $C_3-C_6$ -シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

Tは、式

【化2】



(式中、

10

20

30

40

## 【化3】



は、ピラゾール基に対する結合を示し；

D<sup>1</sup>は、C R<sup>6a</sup>、N、NR<sup>6b</sup>、OおよびSから選択され；

D<sup>2</sup>は、C R<sup>7a</sup>、N、NR<sup>7b</sup>、OおよびSから選択され；

D<sup>3</sup>は、CまたはNであり；

D<sup>4</sup>は、C R<sup>8a</sup>、N、NR<sup>8b</sup>およびOから選択され；

D<sup>5</sup>は、CまたはNであり；

ただし、D<sup>1</sup>、D<sup>2</sup>、D<sup>3</sup>、D<sup>4</sup>およびD<sup>5</sup>の少なくとも1つは、N、OおよびSから選択され、かつD<sup>1</sup>、D<sup>2</sup>およびD<sup>4</sup>の1つ以下は、OまたはSであり、かつD<sup>3</sup>およびD<sup>5</sup>の少なくとも1つは、Cであり；

R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>およびR<sup>8a</sup>は、H、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アミノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルファニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルフィニルおよびC<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルホニルから独立して選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルファニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルフィニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルスルホニルの各々は、無置換であるか、または1~5個のハロゲンで置換されており；

R<sup>6b</sup>、R<sup>7b</sup>およびR<sup>8b</sup>は、HおよびC<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルから独立して選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルの各々は、無置換であるか、または1~5個のハロゲンで置換されている）

の5員ヘテロアリールであり；

Z<sup>1</sup>は、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-ハロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルおよびC<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-ハロシクロアルキルから選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>7</sub>ヘテロシクロアルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-ハロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルおよびC<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-ハロシクロアルキルの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノ、シアノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキカルボニル、ヒドロキシカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルバモイル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されており；

Uは、C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルコキシ、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-アルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>3</sub>-アルキニル、-S-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、-S-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、-SO-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、-SO<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、-SO<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-シクロアルキル、-SO<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>~C<sub>5</sub>-ハロシクロアルキル、-O-C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-アルケニル、-O-C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルケニル、-NH<sub>2</sub>、-SO<sub>2</sub>F、-O-SO<sub>2</sub>-C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-アルキル、-O-SO<sub>2</sub>-C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-ハロアルキルおよびOHから選択され；

Z<sup>3</sup>は、H、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキル、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>-アルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>-アルキニル、アリールおよびヘテロアリールから選択され、ここで、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキル、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>-アルケニル、C<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>-アルキニル、アリールおよびヘテロアリールの各々は、無置換であるか、またはハロゲン、ヒドロキシ、ニトロ、アミノ、シアノ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシ、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>-アルキルカルバモイル、C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>-シクロアルキルカルバモイルおよびフェニルから独立して選択される1~5個の置換基で置換されている）

の化合物またはその農芸化学的に許容可能な塩もしくはN-オキシド。

[2] Tは、

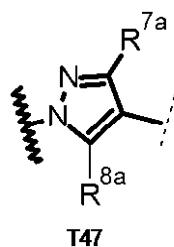
10

20

30

40

## 【化4】



であり、式中、

## 【化5】



10

は、前記ピラゾール基に対する結合を示す、実施形態1に記載の化合物または塩。

[3] Uは、-OCH<sub>2</sub>F<sub>2</sub>、-OCH<sub>2</sub>C(F)<sub>3</sub>、-OCH<sub>3</sub>、-O-シクロプロピル、シクロプロピル、OH、-O-CH=CH<sub>2</sub>、-CH=CH<sub>2</sub>、-C-CH、-S-シクロプロピル、-O-CF=CF<sub>2</sub>、-O-SO<sub>2</sub>-F、-NH-CN、-SO<sub>2</sub>-シクロプロピル、-SO-シクロプロピル、-O-CF<sub>2</sub>-CF<sub>2</sub>H、-OEt、-O-CH<sub>2</sub>-CF<sub>2</sub>H、-O-CF<sub>2</sub>CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>、-O-CF<sub>2</sub>CFHCF<sub>3</sub>および-CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>から選択される、前記[1]または[2]に記載の化合物または塩。

20

[4] Uは、-OCH<sub>2</sub>F<sub>2</sub>、-CH=CH<sub>2</sub>および-C-CHから選択される、前記[1]または[2]に記載の化合物または塩。

[5] Uは、-OCH<sub>2</sub>F<sub>2</sub>である、前記[1]または[2]に記載の化合物または塩。

[6] Z<sup>1</sup>は、メチル、エチル、1,1-ジメチルエチル、ジフルオロメチル、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオロメチル、トリフルオロメチル、ブロモジクロロメチル、1-フルオロエチル、1-フルオロ-1-メチルエチル、2-フルオロエチル、2,2-ジフルオロエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、1,2,2,2-テトラフルオロエチル、1-クロロ-1,2,2,2-テトラフルオロエチル、2,2,2-トリクロロエチル、2-クロロ-2,2-ジフルオロエチル、1,1-ジフルオロエチル、ペンタフルオロエチル、ヘプタフルオロ-n-プロピル、ヘプタフルオロ-イソプロピル、ノナフルオロ-n-ブチル、シクロプロピル、1-クロロシクロプロピル、1-フルオロシクロプロピル、1-ブロモシクロプロピル、1-シアノ-シクロプロピル、1-トリフルオロメチル-シクロプロピル、シクロブチルおよび2,2-ジフルオロ-1-メチル-シクロプロピルから選択される、前記[1]～[5]のいずれか一項に記載の化合物または塩。

30

[7] Z<sup>1</sup>は、-CF<sub>2</sub>CF<sub>3</sub>である、前記[1]～[6]のいずれか一項に記載の化合物または塩。

[8] Z<sup>3</sup>は、H、メチル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-ブチル、イソブチル、s-ブチル、t-ブチル、エテニル、1-プロペニル、1-プロピニル、シクロプロピル、1-ブチニル、ジフルオロメチル、トリクロロメチル、クロロジフルオロメチル、ジクロロフルオロメチル、トリフルオロメチル、1-フルオロエチル、1-フルオロ-1-メチルエチル、2-フルオロエチル、2,2-ジフルオロエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、フェニル、2-クロロフェニル、3-クロロフェニル、4-クロロフェニル、2,5-ジクロロフェニル、3,4-ジクロロフェニル、2,6-ジクロロフェニル、2,6-ジクロロ-4-トリフルオロメチルフェニル、3-クロロ-5-トリフルオロメチルピリジン-2-イル、4-NO<sub>2</sub>-フェニルおよび3-クロロ-2-ビリジン-2-イルから選択される、前記[1]～[7]のいずれか一項に記載の化合物または塩。

40

[9] Z<sup>3</sup>は、メチルである、前記[1]～[8]のいずれか一項に記載の化合物または塩。

[10] 活性処方成分としての、前記[1]～[9]のいずれか一項に記載の少なくとも

50

1種の化合物またはその農芸化学的に許容可能な塩もしくはN-オキシドと、少なくとも1種の助剤とを含む殺有害生物性組成物。

[11] 1種または複数の他の殺虫的に、殺ダニ的に、殺線虫的におよび／または殺菌的に活性な薬剤をさらに含む、前記[10]に記載の組成物。

[12] 有害生物を防除するための方法であって、前記[10]または[11]に記載の組成物を前記有害生物またはその環境に施用する工程を含むが、手術または治療による人または動物の身体の治療のための方法および前記ヒトまたは動物の身体において実施される診断方法を除く、方法。

[13] 有害生物による攻撃から植物繁殖材料を保護するための方法であって、前記繁殖材料または前記繁殖材料が植えられた場所を、前記[10]または[11]に記載の組成物で処理する工程を含む、方法。

[14] 被覆植物繁殖材料であって、前記植物繁殖材料のコーティングは、前記[1]～[9]のいずれか一項に記載の化合物を含む、被覆植物繁殖材料。

## フロントページの続き

(51)Int.Cl.	F I	
A 01 P 7/04 (2006.01)	A 01 P 7/04	
A 01 P 7/02 (2006.01)	A 01 P 7/02	
A 01 N 43/56 (2006.01)	A 01 N 43/56	D
A 01 N 43/647 (2006.01)	A 01 N 43/647	

(74)代理人 100119013  
弁理士 山崎 一夫

(74)代理人 100123777  
弁理士 市川 さつき

(74)代理人 100111796  
弁理士 服部 博信

(74)代理人 100136249  
弁理士 星野 貴光

(72)発明者 ジャンゲナ アンドレ  
スイス 4332 シュタイン シャッフハウザーシュトラーセ シンジエンタ クロップ プロ  
テクション アクチングゼルシャフト内

(72)発明者 ピッテルナ トマス  
スイス 4332 シュタイン シャッフハウザーシュトラーセ シンジエンタ クロップ プロ  
テクション アクチングゼルシャフト内

(72)発明者 エル カセミ ミリエム  
スイス 4332 シュタイン シャッフハウザーシュトラーセ シンジエンタ クロップ プロ  
テクション アクチングゼルシャフト内

(72)発明者 ストーラー アンドレ  
スイス 4332 シュタイン シャッフハウザーシュトラーセ シンジエンタ クロップ プロ  
テクション アクチングゼルシャフト内

(72)発明者 モンディエール レジス ジヤン ジョルジュ  
スイス 4332 シュタイン シャッフハウザーシュトラーセ シンジエンタ クロップ プロ  
テクション アクチングゼルシャフト内

(72)発明者 ビゴ アウレリアン  
スイス 4332 シュタイン シャッフハウザーシュトラーセ シンジエンタ クロップ プロ  
テクション アクチングゼルシャフト内

(72)発明者 エドマンズ アンドリュー  
スイス 4332 シュタイン シャッフハウザーシュトラーセ シンジエンタ クロップ プロ  
テクション アクチングゼルシャフト内

(72)発明者 グリブコフ デニス  
スイス 4333 ミュンヒヴィーレン ブライテンロー 5 シンジエンタ クロップ プロテ  
クション アクチングゼルシャフト内

審査官 三上 晶子

(56)参考文献 特表2014-510049 (JP, A)  
国際公開第2014/122083 (WO, A1)  
国際公開第2015/150442 (WO, A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
C 07 D 201 / 00 - 519 / 00  
A 01 N 1 / 00 - 65 / 48

(124)

JP 6850300 B2 2021.3.31

A 0 1 P 1 / 0 0 - 2 3 / 0 0  
C A p l u s / R E G I S T R Y ( S T N )